

保管用

屋内専用

RX700 GR型受信機



施工説明書

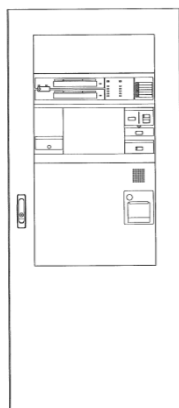
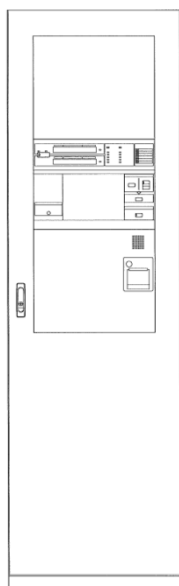
< 品 番 > NBS526AE□□/NBS526BE□□ (□□は感知器伝送系統数)

- | | |
|----------------|----------------|
| ●1系統: 382アドレス | ●2系統: 636アドレス |
| ●3系統: 1018アドレス | ●4系統: 1272アドレス |
| ●6系統: 1908アドレス | ●8系統: 2544アドレス |

< 国家検定型式番号 > 受第30~4号

施工される前に

- 正しく施工するために必ずお読みください。
- 施工するには、電気工事士・消防設備士（甲種第4類）・火災報知システム専門技術者の資格が必要です。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。
- 万一、施工説明書にしたがわず施工された場合の事故や故障などについては責任を負いかねることがあります。
- 火災・ガス漏れなどによる傷害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。



警告

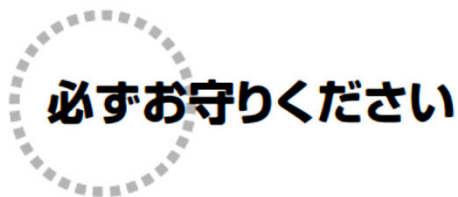
- 受信機の表面が汚れた場合、水をつけたり・水をかけたりして汚れを落とさないでください。感電・故障の原因となります。

〔詳しくは取扱説明書の「5. お手入れ方法」を参照してください。〕

注意

- 受信機の扉の開閉にはご注意ください。
90°以上、扉を開けると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあります。

安全上のご注意



人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を区分して、説明しています。

 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。
(次は図記号の例です。)

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。
---	--------------	---	------------------

安全上のご注意

⚠ 警告

 分解禁止	機器を分解したり、修理・改造はしない。 感電・故障の原因となります。
 必ず守る	電源(AC100V)を切り、予備電源用の電池を取りはずした状態で施工する。 活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。
	施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように、または転倒しないように 強固に取り付ける。 安易な取り付けは脱落・転倒によるケガの原因となります。
	AC100V専用です。接続前に入力電圧の確認をする。 AC100V以外の電圧では発火・発熱の原因となります。
	AC100V用電源端子は確実に締め付ける。 締め付けが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。
	ヒューズ交換は電源(AC100V)および電源スイッチを切った状態で行う。 電源を切らないと、感電の原因となります。
	電池は必ず接続する。 電池を接続していないと停電時に機能しません。
 禁止	AC100V端子の電源端子カバーは工事終了後、必ず取り付ける。 感電の原因となります。
	水や雨のかかる場所(屋外など)および湿気の多い場所(給湯室など)には設置しない。 感電・故障の原因となります。
 ぬれ手禁止	小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。 発火・発煙の原因となります。
	ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。 感電・故障の原因となります。

⚠ 注意

 アース線接続	アースの接続は確実にを行う。 使用時や漏電のときに感電する おそれがあります。	 必ず守る	据付作業は落下・転倒防止の ため、必ず2人以上で作業する。
---	---	---	----------------------------------

施工上のご注意

- この商品は「屋内専用」です。屋外・屋側には設置しないでください。
- 接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

■地区音響装置接続時のご注意

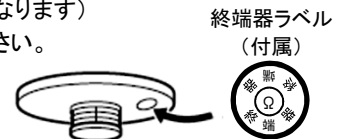
- 必ず受信機の地区音響装置接続容量以内で、ご使用ください。
- 建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
 1. 地区音響装置の駆動方式が電磁式でないことを確認してください。
 2. 地区音響装置が他社製の場合は、地区音響装置のメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。※電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

■次のような場所には設置しないでください。 (誤動作・故障の原因となります。)

- 直射日光のあたる場所
- 水滴、蒸気、ホコリなどがかかる場所
- 周辺に操作上支障となる障害物のある場所
- 衝撃、振動などの影響を受ける場所
- 常に人がいなくて様子を見られない場所
- 薬品などのガスが発生する場所
- 強電界やノイズの発生する場所

施工時のご注意

- 受信機の電源(AC100V)は専用電源(専用ブレーカ)を使用してください。
(専用ブレーカには付属品の開閉器用ラベルを貼ってください)
- 電源(AC100V)配線はハンダ上げ電線を使用しないでください。
- 電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。
(電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化接触不良をおこし誤動作の原因となります)
- 工事、施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。
(ショートや故障の原因になります)
- 電源(AC100V)を切り予備電源を取り外した状態で施工してください。
活線工事は感電や発熱、故障の原因となります。
- 電線のしめつけが不十分な場合、発熱する恐れがありますので確実にしめつけてください。
- 強電ライン・AC100V配線と小勢力配線はできる限り離して施工してください。
(強電ライン・AC100V配線が小勢力配線の近くにあると誤動作の原因となります)
- 接続方法に示す機器以外の機器を接続する場合には、当社にご相談ください。
(不適切な接続は誤作動・故障の原因になります)
- アースは必ず接続してください。
(D種(第3種)接地相当以上(100Ω以下)としてください)
- 受信機の扉を開いた状態で、盤内部付近で無線機を使用しないでください。
- [RX]**アドレスアダプタ(NCH535EXA)を接続したときは、2次側の感知器配線に**[RX]**アドレスアダプタに付属の終端器を取り付け、終端器ラベル(**[RX]**アドレスアダプタに付属)を貼り付けてください。
- 蓄積型感知器及び蓄積式中継器は接続できません。
- 感知器伝送線、中継器伝送線の結線に関して、結線誤りによる下記の接続はお避けください。
機器破損の原因となります。
 - ・違う系統の感知器伝送線[SA*,SB*]同士の接続
(例)感知器伝送線1系統[SA1,SB1]と、2系統[SA2,SB2]を接続
 - ・違う系統の中継器伝送線[NA*,NB*]同士の接続
(例)中継器伝送線1系統[NA1,NB1]と、2系統[NA2,NB2]を接続
 - ・感知器伝送線[SA*,SB*]と、中継器伝送線[NA*,NB*]の接続
- 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。



付属品

・受信機付属品

- | | | |
|--|------------|--------|
| ●取り付け用部品 | 工事用 | 1セット |
| (ヒューズ・開閉器用ラベル・移報端子ご注意ラベル・諸警報地区窓名称ラベル・プリンタ用紙) | | |
| ●予備品 | 保管用 | 1セット |
| (ヒューズ抜き差し工具・ヒューズ) | | |
| ●自火報電話機 | | 2台 |
| ●取扱説明書 | | 1冊 |
| ●施工説明書 | | 1冊(本書) |
| ●取扱いラベル | | 1枚 |
| (受信機前面ブランク部に貼り付けてください) | | |

MEMO

もくじ

安全上のご注意		
施工上のご注意		
付属品		
1. 概要		1～3
1-1. 商品概要		1
1-2. システム構成図		2～3
2. 取付方法		5～10
2-1. 壁掛型の場合		5～6
2-2. 自立型の場合		7～9
2-3. 盤の設置についてのお願い		10
3. 機器の設定		12～17
3-1. 受信機に連動テーブルやPX端末情報を登録する方法		12
3-2. 連動テーブルを転送する方法（SDカード⇒受信機）		13
3-3. PX端末のアドレスを登録する方法		14
3-4. PX端末のメッセージファイルを受信機に読み込む方法（SDカード⇒受信機）		15
3-5. PX端末のメッセージファイルをSDカードに書き込む方法（受信機⇒SDカード）		16
3-6. 受信機の各種履歴情報をSDカードに書き込む方法（受信機⇒SDカード）		17
4. 受信機内器構成		18～30
4-1. 内器配置図		18～21
4-2. ブロック図		22
4-3. 端子定格		23～29
4-4. 受信機ヒューズ一覧		30
5. 接続数について		31～36
5-1. システム容量		31
5-2. 周辺機器接続数		32
5-3. 中継器接続数		33
5-4. 感知器接続数		34～36
6. 伝送線について		37～40
6-1. 中継器伝送線の伝送距離（1系統あたり）		37
6-2. 感知器伝送線の伝送距離（1系統あたり）		38
6-3. 使用電線種類		39
6-4. 伝送線シールドの処理方法		40
7. 受信機～感知器について		41～49
7-1. 感知器配線系統図		41
7-2. アイソレータ中継器の接続について		42
7-3. 発信機応答線の接続について		43～44
7-4. R型火災表示灯の接続について		45
7-5. アドレスアダプタ4回線用の接続について		46
7-6. P型自動試験中継器4回線用の接続について		47～48
7-7. リニューアル中継器4回線用対応)の接続について		49

もくじ

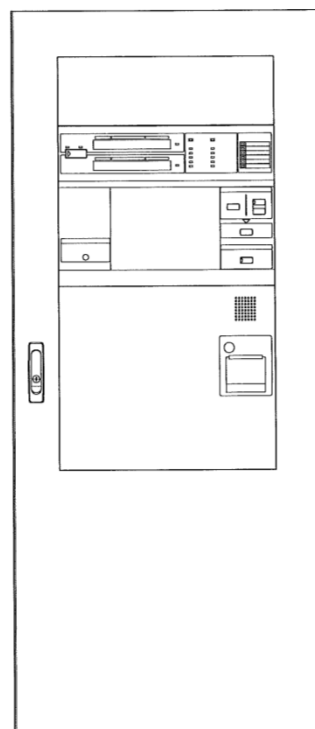
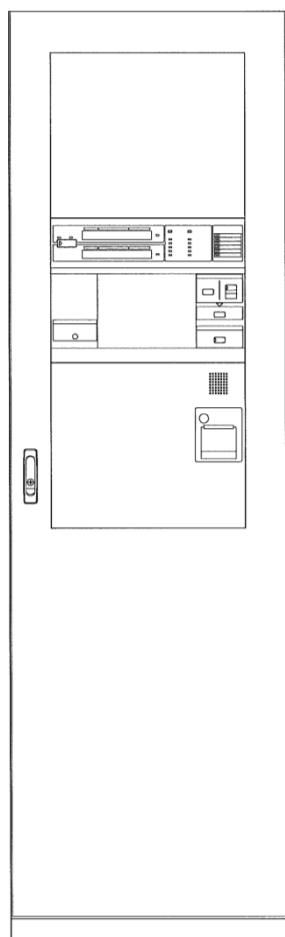
8. 受信機～中継器について		51～61
8-1. 中継器配線系統図		51
8-2. ガス漏れ中継器2回線用の接続について		52
8-3. 地区音響中継器2回線用(自動試験機能付)の接続について		53
8-4. 監視中継器の接続について		54
8-5. 移信中継器の接続について		55
8-6. 防排煙中継器4回線用の接続について		56
8-7. 防排煙遠隔復帰用中継器4回線用の接続について		56
8-8. 一般R型中継器4回線用の接続について		57
8-9. 火災表示灯3型の接続について		58
8-10. 中継リレー1型の接続について		59
8-11. 光電式分離型感知器の接続について		60
8-12. 地区音響中継器2回線用(自動試験機能無)の接続について		61
9. 受信機～周辺機器について		63～78
9-1. 地図式、グラフィックパネル(オプション)の接続について		63～65
9-2. P型1級用副受信機の接続について		66
9-3. 副表示機の接続について		67～70
9-4. IFユニットの接続について		71～74
9-5. [RX] コントローラの接続について		75～78
10. 受信機～他設備について		79～83
10-1. 受信機～非常放送設備の接続について		79
10-2. 受信機～他設備の接続について		80～81
10-3. 受信機～消火栓起動盤の接続について		82
10-4. 2号消火栓の接続について		83
11. 施工後の確認方法		84
12. トラブル一覧		85～89

1. 概要

1-1. 商品概要

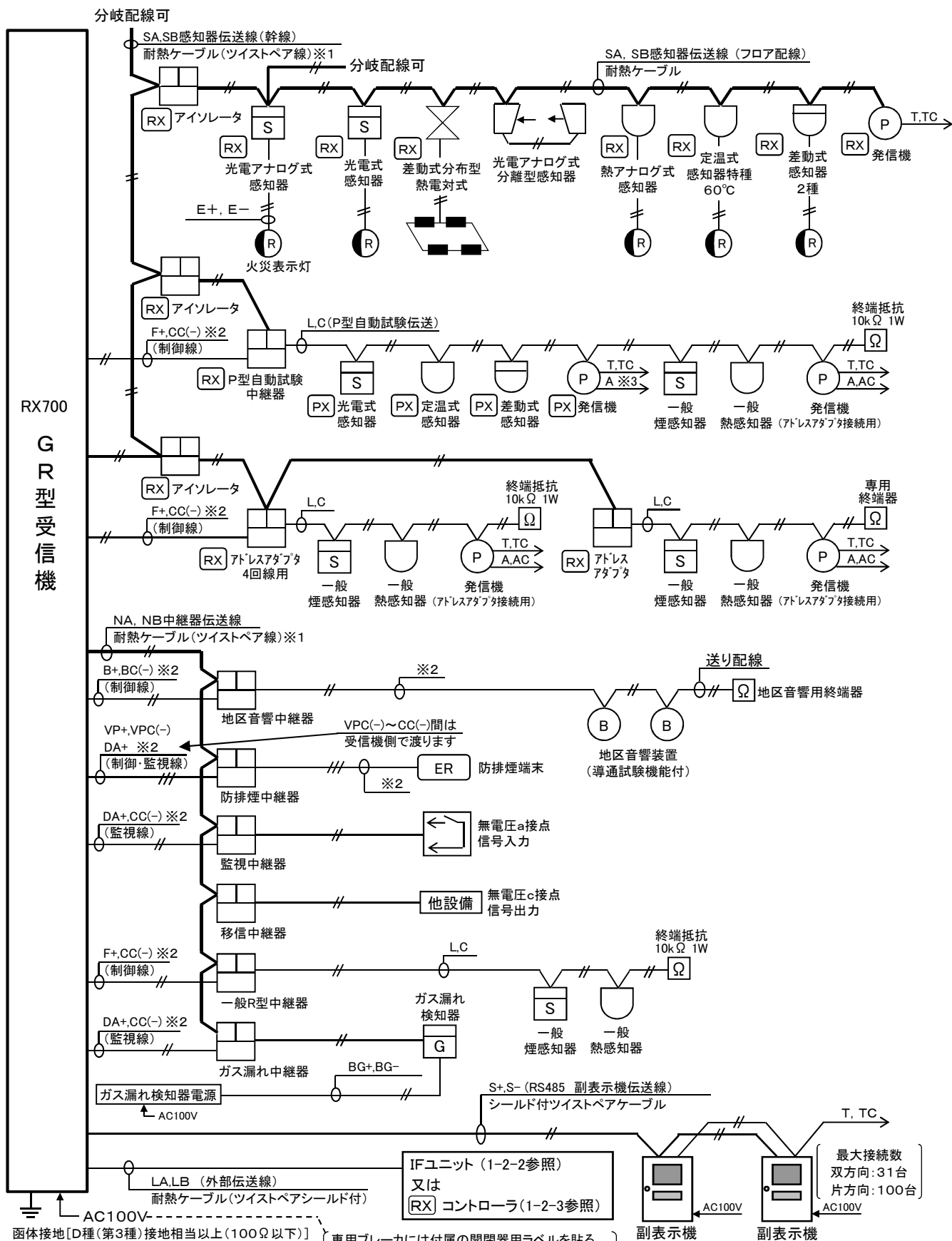
本受信機は、火災感知器信号、ガス漏れ検知器信号及び各種警報信号を直接もしくは、中継器を介して取り込み、表示・音響鳴動を行います。

さらにその信号に連動して動作させるべき機器を設定された連動テーブルに従って、各種機器（地区音響設備、防排煙機器等）への制御信号を出力するGR型受信機です。



1. 概要

1-2. システム構成図 1-2-1.全体

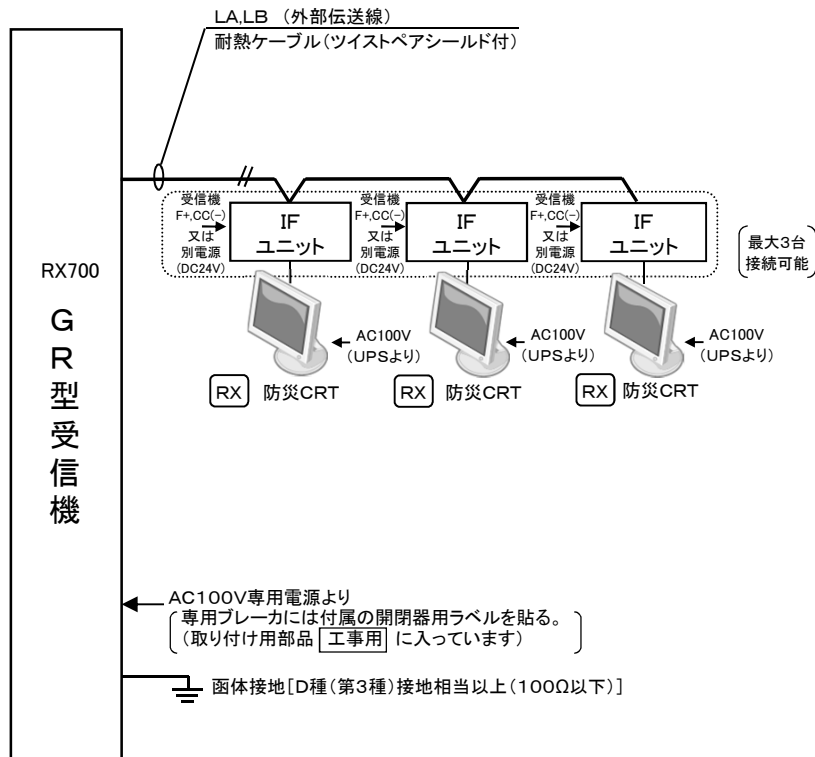


- ※1 建屋をまたがる場合はシールドが必要です
 ※2 耐熱ケーブルを使用してください。
 ※3 PX発信機を接続する場合、発信機にAC端子が無いため、受信機のAC端子とP型自動試験中継器に供給している電源の共通(CC)端子を接続してください。

1. 概要

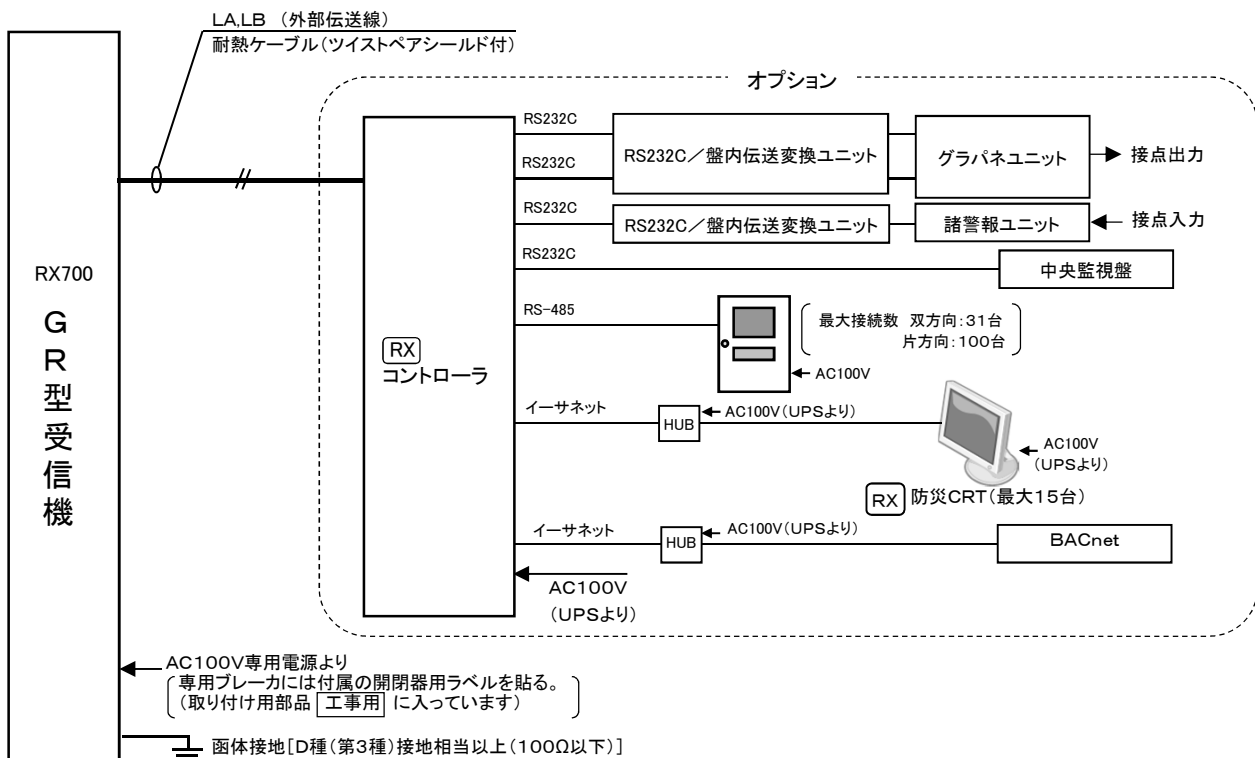
1-2-2. IFユニットを接続する場合

(注) IFユニットとRXコントローラを混在して使用することはできません。



1-2-3. RXコントローラを接続する場合

(注) IFユニットとRXコントローラを混在して使用することはできません。



MEMO

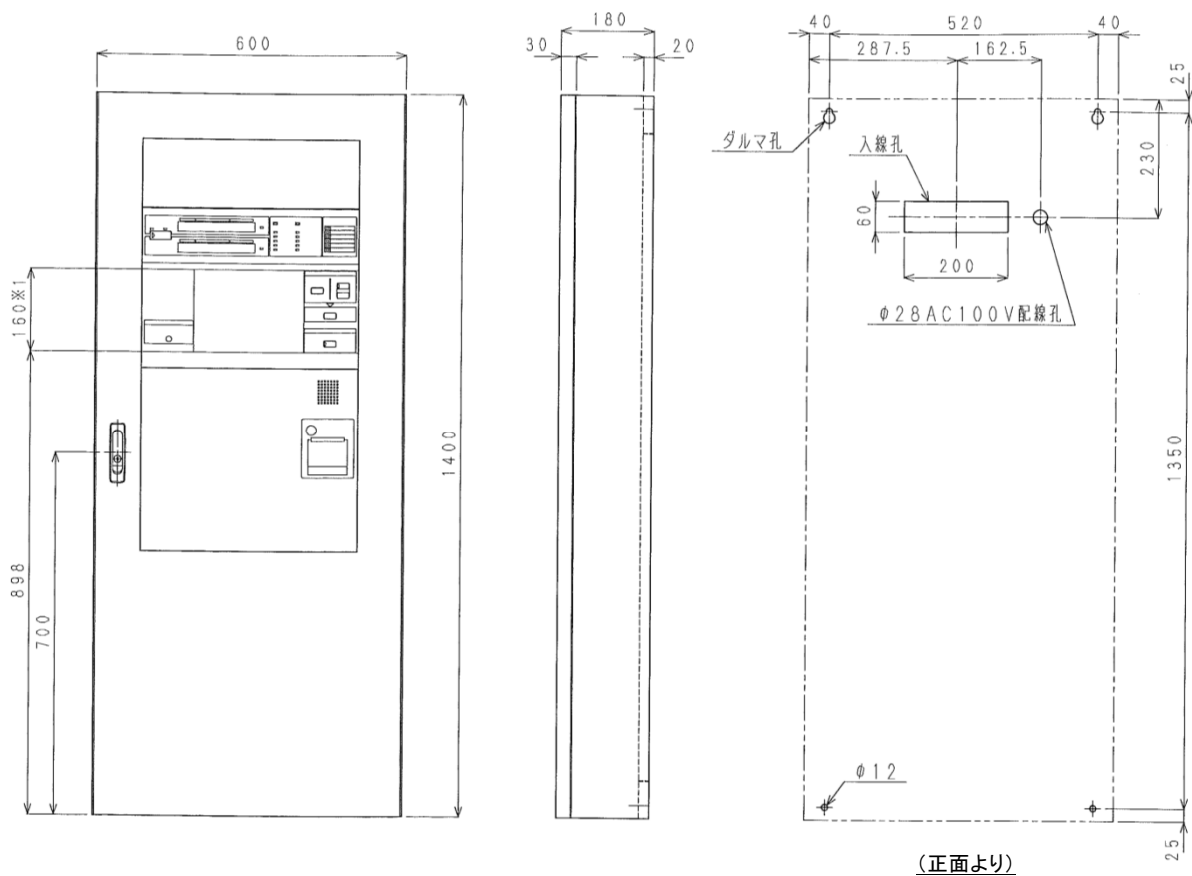
[illegible]

2. 取付方法

2-1. 壁掛型の場合 (1系統)

2-1-1.例: (H1400×W600×D180)

【図1】



取付手順

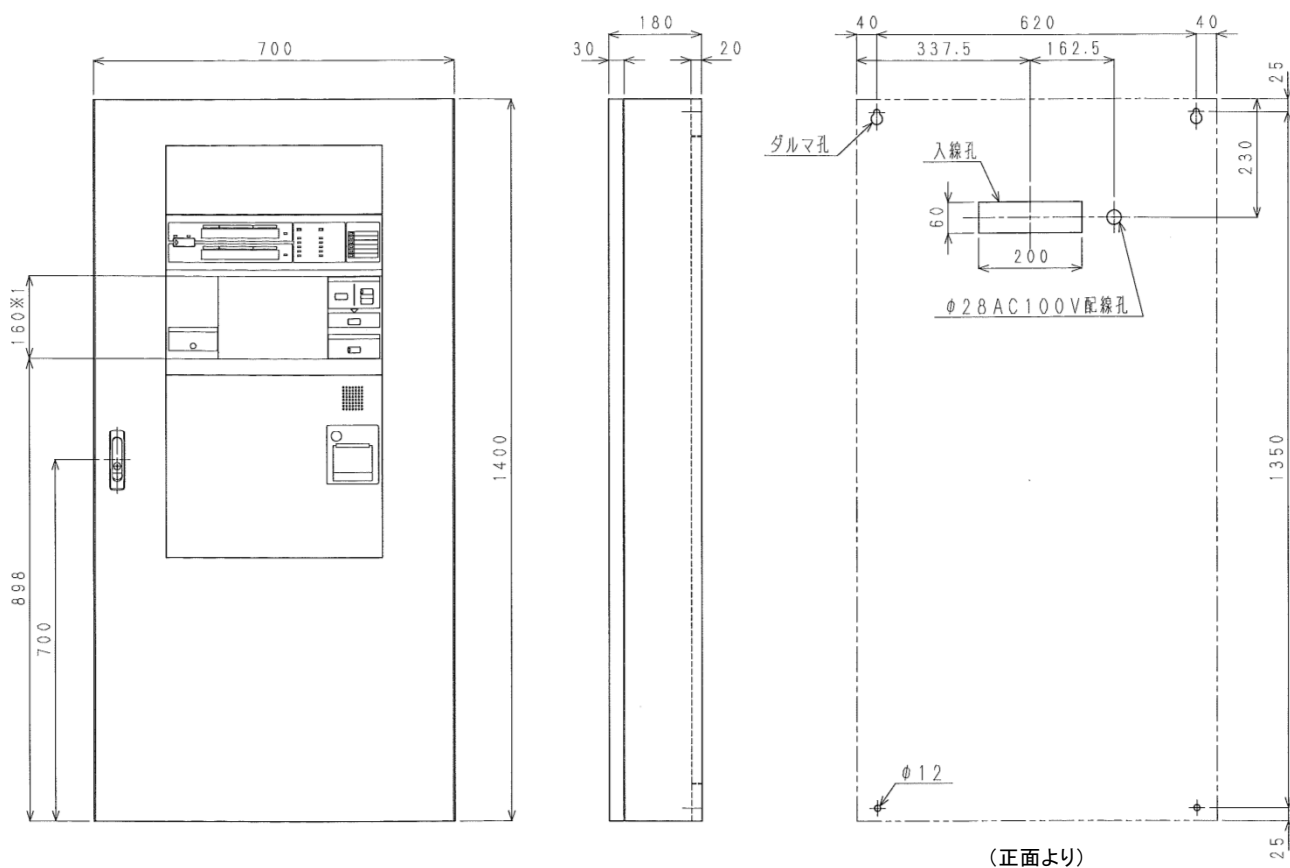
(单位:mm)

1. 取付位置を決め、取付用プラグボルトを打ち込む。
プラグボルト(M8)(市販品)の打ち込みと、配線を引き込む位置は【図1】の寸法図通りです。
中央のプラグボルトは取り付けの位置決め用としてご利用ください。
AC100V配線及び小勢力配線を【図1】の位置より引き出してください。
本体の操作部(【図1】※1)が床面から800mm～1500mmの位置になるよう取り付けてください。
(注意) 必ず垂直な壁に取り付けてください。
 2. 入線を行う。
AC100V配線及び小勢力配線を分割して入線してください。
 3. 配線する。
AC100V配線を接続する場合は、電源端子カバーをはずして接続してください。
結線後、電源端子カバーを必ず元に戻してください。
 4. 交流電源スイッチを「入」側にする。
 5. 電池のコネクタを取り付ける。
 6. 本体の扉を閉める。
 7. プリンタ用紙をプリンタにセットする。
取扱説明書の「11-2. プリンタ用紙の交換方法」を参照してください。
- 標準仕様の寸法
特注仕様により
がありますので
をご確認ください

標準仕様の寸法を表しています。
特注仕様により変更される場合
がありますので、件名の外観図
をご確認ください。

2-1. 壁掛型の場合 (2系統)
2-1-2. 例: (H1400×W700×D180)

【図2】



取付手順

(単位:mm)

1. 取付位置を決め、取付用プラグボルトを打ち込む。
プラグボルト(M8)(市販品)の打ち込みと、配線を引き込む位置は【図2】の寸法図通りです。
中央のプラグボルトは取り付けの位置決め用としてご利用ください。
AC100V配線及び小勢力配線を【図2】の位置より引き出してください。
本体の操作部(【図2】※1)が床面から800mm~1500mmの位置になるよう取り付けてください。
(注意) 必ず垂直な壁に取り付けてください。
 2. 入線を行う。
AC100V配線及び小勢力配線を分割して入線してください。
 3. 配線する。
AC100V配線を接続する場合は、電源端子カバーをはずして接続してください。
結線後、電源端子カバーを必ず元に戻してください。
 4. 交流電源スイッチを「入」側にする。
 5. 電池のコネクタを取り付ける。
 6. 本体の扉を閉める。
 7. プリンタ用紙をプリンタにセットする。
取扱説明書の「11-2. プリンタ用紙の交換方法」を参照してください。
- 標準仕様の寸法
特注仕様により
がありますので
をご確認ください

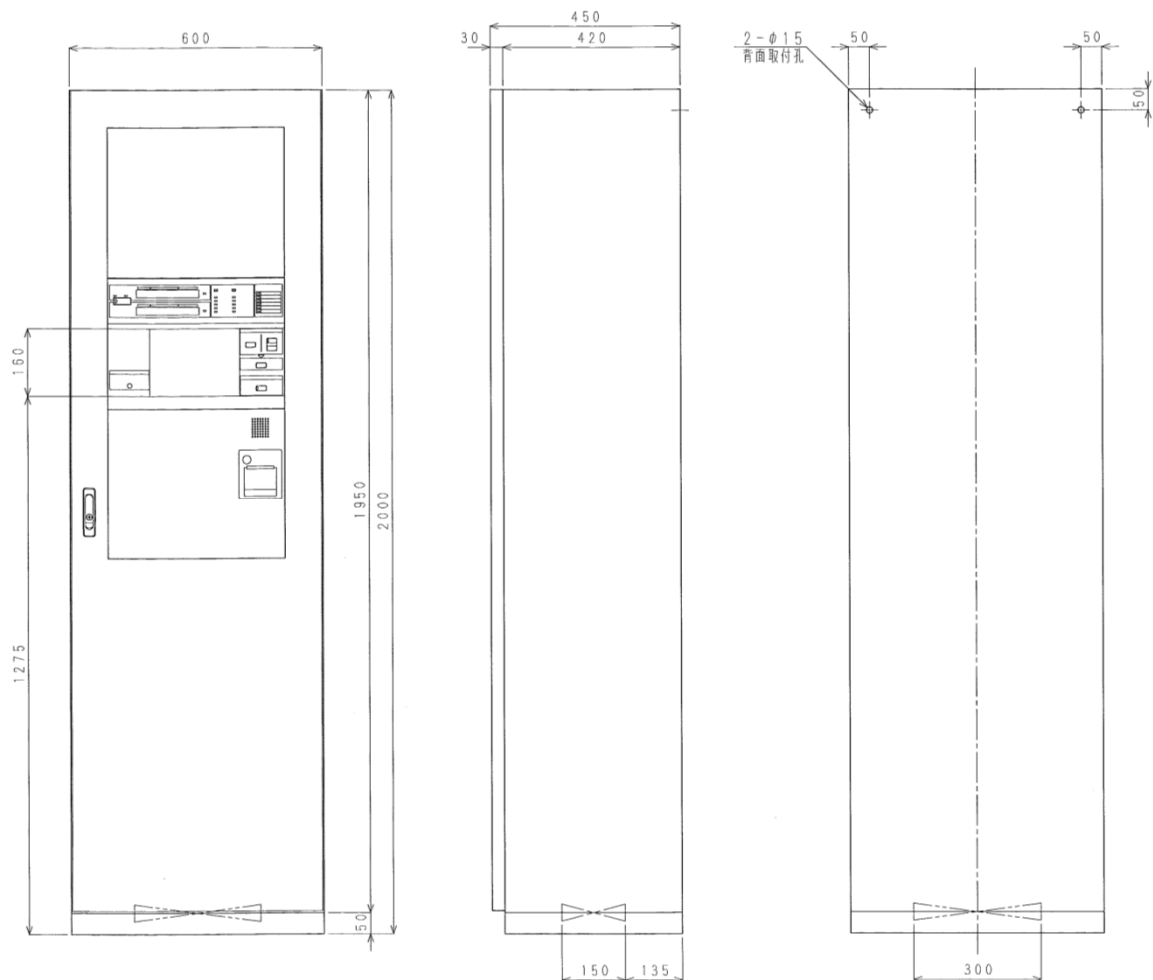
標準仕様の寸法を表しています。
特注仕様により変更される場合
がありますので、件名の外観図
をご確認ください。

2. 取付方法

2-2. 自立型の場合

2-2-1. 1面体取付寸法図（4系統以下）

【図3】例; (H2000×W600×D450)



取付手順

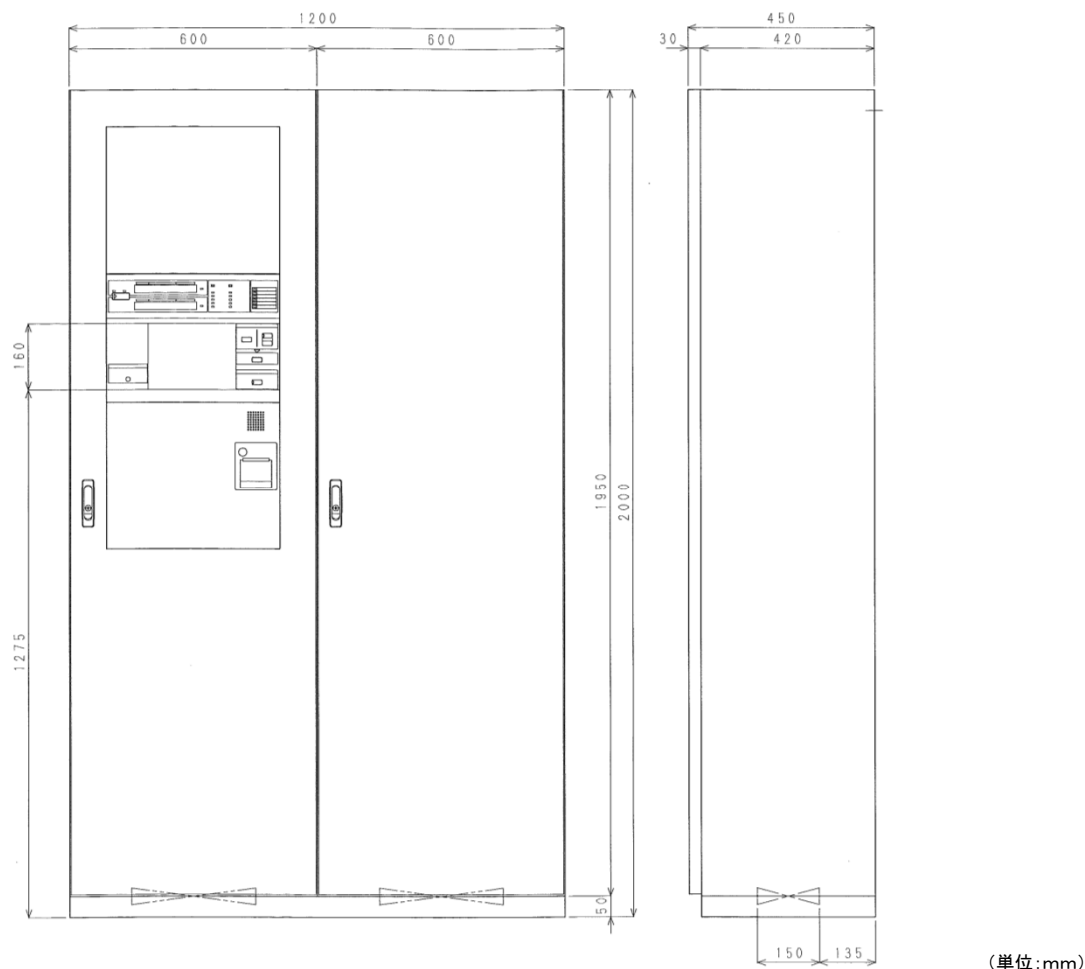
1. 取付位置を決め、チャンネルベース取付用アンカーボルトを打ち込む。
アンカーボルト(M12)の打ち込みと、配線を引き込む位置は「2-2-3. チャンネルベース取付寸法図」を参照してください。
アンカーボルトの種類については、受信機質量、設置場所等により、耐震計算が必要な場合がありますので
当社へご相談ください。
2. チャンネルベースに函体を取り付け背面固定を行う。
背面転倒防止アンカーボルト(M12)の打ち込みは、取付寸法図【図3】を参照してください。
3. 入線を行う。
AC100V配線及び小勢力配線を分割して入線してください。
4. 配線する。
AC100V配線を接続する場合は、電源端子カバーをはずして接続してください。
結線後、電源端子カバーを必ず元に戻してください。
5. 交流電源スイッチを「入」側にする。
6. 電池のコネクタを取り付ける。
7. 本体の扉を閉める。
8. プリンタ用紙をプリンタにセットする。
取扱説明書の「11-2. プリンタ用紙の交換方法」を参照してください。

標準仕様の寸法を表しています。
特注仕様により変更される場合
がありますので、件名の外観図
をご確認ください。

2. 取付方法

2-2-2. 2面体取付寸法図（6系統以上）

【図4】例; (H2000×W1200×D450)



取付手順

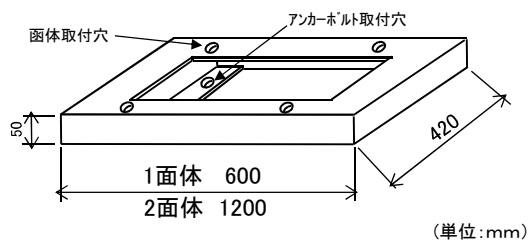
1. 取付位置を決め、チャンネルベース取付用アンカーボルトを打ち込む。
アンカーボルト(M12)の打ち込みと、配線を引き込む位置は「2-2-3. チャンネルベース取付寸法図」を参照してください。
アンカーボルトの種類については、受信機質量、設置場所等により、耐震計算が必要な場合がありますので
当社へご相談ください。
2. チャンネルベースに函体を取り付け背面固定を行う。
背面転倒防止アンカーボルト(M12)の打ち込みは、取付寸法図【図3】を参照してください。
(函体天面のアイボルト(吊りボルト)取り付け穴から埃などの異物が混入しないようご注意ください。)
(2面体は1面体を2台並べた位置になります)
3. 入線を行う。
AC100V配線及び小勢力配線を分割して入線してください。
4. 配線する。
AC100V配線を接続する場合は、電源端子カバーをはずして接続してください。
結線後、電源端子カバーを必ず元に戻してください。
5. 交流電源スイッチを「入」側にする。
6. 電池のコネクタを取り付ける。
7. 本体の扉を閉める。
8. プリンタ用紙をプリンタにセットする。
取扱説明書の「11-2. プリンタ用紙の交換方法」を参照してください。

標準仕様の寸法を表しています。
特注仕様により変更される場合
がありますので、件名の外観図
をご確認ください。

2. 取付方法

2-2-3. チャンネルベース取付寸法図

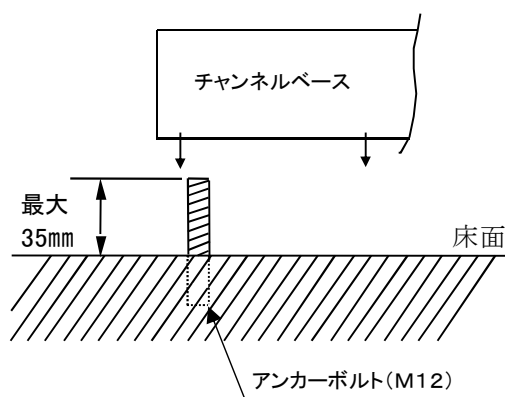
【チャンネルベース寸法図】例
標準寸法図(単位:mm)



1 面 体	● 高さ 2000 Top view of the 1-face body. The overall width is 600mm and the depth is 420mm. The inner width is 400mm. The mounting holes are 4-φ20. The distance from the bottom edge to the mounting holes is 280mm. The distance from the side edge to the mounting holes is 70mm.
2 面 体	● 高さ 2000 Top view of the 2-face body. The overall width is 1200mm and the depth is 420mm. The inner width is 500mm. The mounting holes are 6-φ20. The distance from the bottom edge to the mounting holes is 280mm. The distance from the side edge to the mounting holes is 70mm.

【自立盤函体の入線孔寸法図】例
入線孔は床面にあります。

1 面 体	● 高さ : 2000 Top view of the 1-face body. The overall width is 600mm and the depth is 420mm. The inner width is 300mm. The mounting holes are 4-φ20. The distance from the bottom edge to the mounting holes is 150mm. The distance from the side edge to the mounting holes is 135mm.
2 面 体	● 高さ : 2000 Top view of the 2-face body. The overall width is 1200mm and the depth is 420mm. The inner width is 600mm. The mounting holes are 6-φ20. The distance from the bottom edge to the mounting holes is 150mm. The distance from the side edge to the mounting holes is 135mm.



標準仕様の寸法を表しています。
特注仕様により変更される場合
がありますので、件名の外観図
をご確認ください。

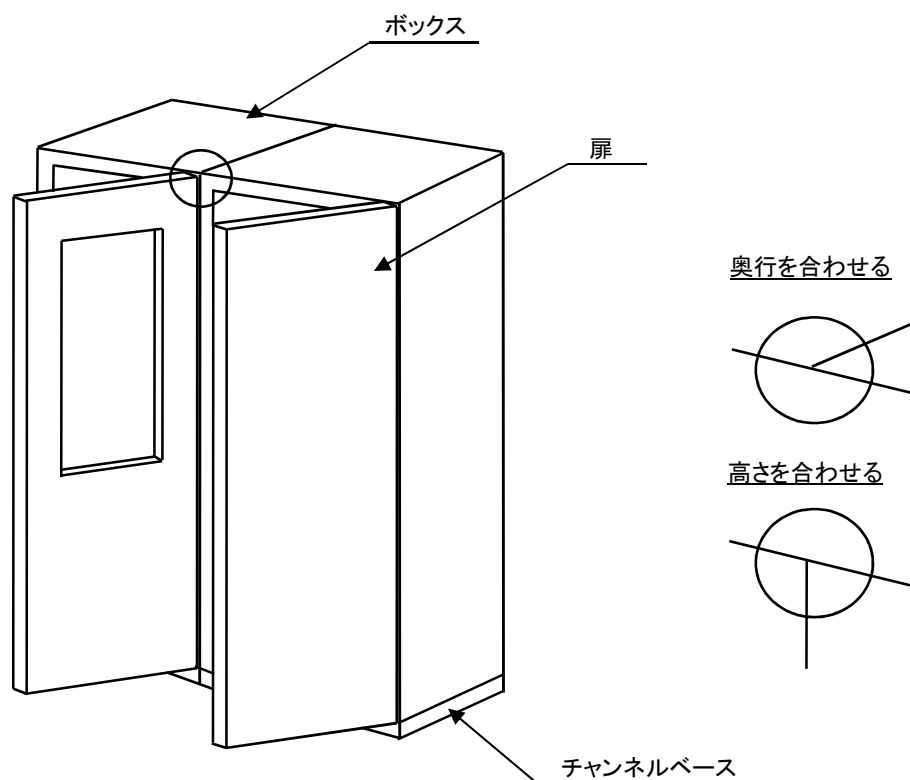
2. 取付方法

2-2-4. 盤の設置についてのお願い

チャンネルベースは取付面の水平を確認し、適切なアンカーボルトを使用してしっかりと設置してください。
水平に設置されていないと、扉・ボックスに歪みが発生し、扉の閉まりが悪くなる等の原因となります。
必ずチャンネルベースが水平に設置されていることを確認し、背面を固定する場合は盤面の垂直も確認の上、
盤の固定をしてください。

●列盤にする時のお願い

- ・盤をチャンネルベースの上に置きチャンネルベースとボックスを付属のボルトで数回、回して仮締めしてください。
- ・列盤間固定穴にボルトを差し込みボックスの前後、上下の調整をしながら列盤間のボルトを締めてください。
- ・チャンネルベース、ボックスの固定をしてください。
- ・3面体以上の場合は、真中の盤から固定をしてください。



[illegible]

3. 機器の設定

3-1. 受信機に連動テーブルやPX端末情報を登録する方法

□ 3-1-1. 連動テーブルの転送

本受信機は、各件名にあわせて接続機器や連動設定などが登録された連動テーブルによって動作します。商品出荷時には、初期設定テーブルが登録されています。必ず、専用ツール(テーブルジェネレータ(F4TG))にて件名にあわせた連動テーブルを作成し、SDカード経由で受信機に転送してください。

(注) 連動テーブルを登録しないと各件名にあった動作を保証できず、トラブルが多数発生します。

- ・連動テーブルの転送方法

「3-2. 連動テーブルを転送する方法(SDカード⇒受信機)」を参照ください。

- ・連動テーブルの作成方法

別紙『テーブルジェネレータ(F4TG)操作マニュアル』を参照ください。

□ 3-1-2. PX端末のアドレス登録

受信機にPX端末を接続する場合、受信機にPX端末のアドレス登録を行う必要があります。PX端末のアドレス登録は、PX端末を実際に接続した状態で受信機の盤面操作により行います。

(注) 専用ツール(F4TG、F4SD)によるPX端末のアドレス登録はできません。

- ・PX端末のアドレス登録方法

「3-3. PX端末のアドレスを登録する方法」を参照ください。

□ 3-1-3. PX端末のメッセージ登録

受信機にPX端末を接続する場合、PX端末のメッセージの登録を行います。専用ツール(SDツール(F4SD))にてPX端末のメッセージファイルを作成し、SDカード経由で受信機にメッセージを登録します。メッセージの登録は、受信機でPX端末のアドレス登録を行う前後のどちらでも実施できます。ただし、PX端末のアドレス登録は別途実施する必要があります。

(注) PX端末のメッセージの登録を行う際は、事前に、PX端末を接続するP型自動試験中継器が登録された連動テーブルを受信機に転送しておく必要があります。受信機内の連動テーブルにP型自動試験中継器が登録されていない回線のPX端末のメッセージは受信機に読み込みできません。

- ・PX端末のメッセージファイルの登録方法

「3-4. PX端末のメッセージファイルを受信機に読み込む方法(SDカード⇒受信機)」を参照ください。

尚、PX端末のメッセージは、受信機の盤面操作により直接入力することも可能です。(受信機の盤面操作で直接入力する方法は取扱説明書の80ページを参照ください。)

- ・PX端末のメッセージファイルの作成方法

別紙『SDツール(F4SD)操作マニュアル』を参照ください。

3. 機器の設定

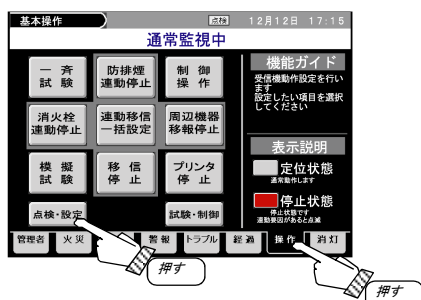
3-2. 連動テーブルを転送する方法(SDカード⇒受信機)

事前準備: 転送用ファイルのSDカードへの保存(別紙『テーブルジェネレータ(F4TG)操作マニュアル』参照)

F4TGで『編集』を実行すると、転送用ファイルがパソコン上のC: ¥F4TG ¥SD ¥[F4xxxxx]フォルダに作成されます。(※[F4xxxxx]は件名ファイル名です。)

転送したい件名の[F4xxxxx]をフォルダごと、SDカード直下(ルート)にコピーしてフォルダ名を[F4xxxxx]から[SDTL]に変更してください。

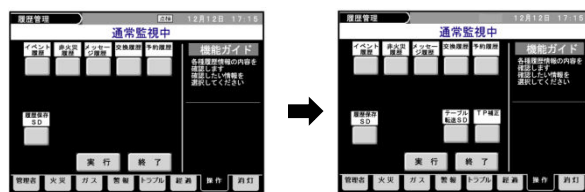
- ① SDカードを受信機に挿入してください。
(SDカードの挿入方法(18~21ページ)参照)
- ② 受信機内部の点検スイッチを『点検』側に切替えてください。



- ③ 受信機の液晶画面で「操作」を押してください。
- ④ 「点検・設定」を押してください。



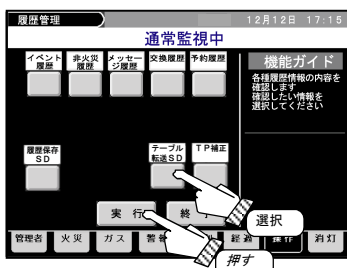
- ⑤ 「履歴管理」を選択し、「実行」を押してください。



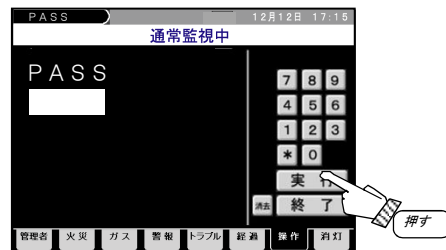
点検スイッチ: 『点検』側

点検スイッチ: 『定位』側

- ⑥ 受信機内部の点検スイッチを『定位』側に切替えると「テーブル転送SD」が現れます。



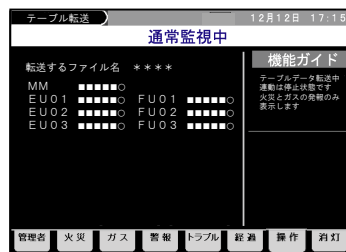
- ⑦ 「テーブル転送SD」を選択し、「実行」を押してください。



- ⑧ PASS画面でパスワード「0119」を入力し、「実行」を押してください。



- ⑨ 転送する件名データのファイル名とバージョンを確認後、「実行」を押してください。

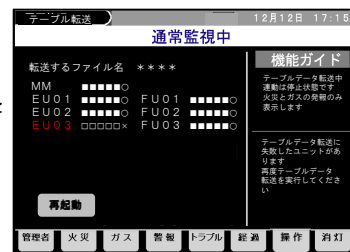


・転送中は各ユニット毎の進捗表示が、順に■に塗りつぶされます。
・転送中に火災、ガス漏れが発生した場合、火災、ガス漏れ情報を表示します。

- ⑩ 全てのユニットへの転送が成功すると、受信機は自動的に再起動します。

※転送に失敗したユニットがある場合

失敗箇所(赤字)を確認後、「再起動」を押し、再度、③以降の操作にてテーブル転送してください。



(注意) 受信機起動時に液晶画面に「テーブルエラー」を表示した場合、液晶画面をタッチしてテーブル転送画面に切替えてください。

メモ

- ・SDカードは商品に同梱していません。別途手配が必要です。
【推奨SDカード】パナソニック製SDカード
(SD/SDHC対応 32GBまで)

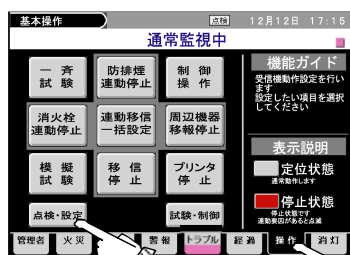
3. 機器の設定

3-3. PX端末のアドレスを登録する方法

<予約登録>

P型自動試験中継器の2次側にPX端末を接続し、受信機にPX端末のアドレス登録を行います。
(PX端末のアドレス登録時は、連動テーブルの変更が不要であるため、画面右上の□は表示しません。)

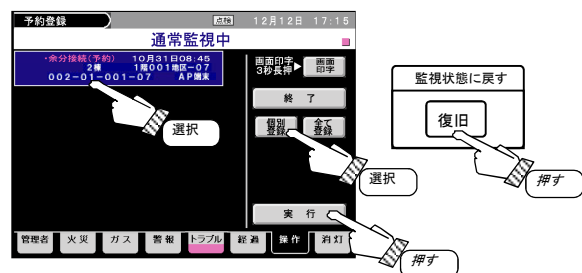
- ① 追加したいPX端末を接続してください。
「余分接続(予約)」トラブルが発生します。
- ② 受信機内部の点検スイッチを『点検』側に切替えてください。



- ③ 受信機の液晶画面で「操作」を押してください。
- ④ 「点検・設定」を押してください。



- ⑤ 「予約登録」を選択し、「実行」を押してください。

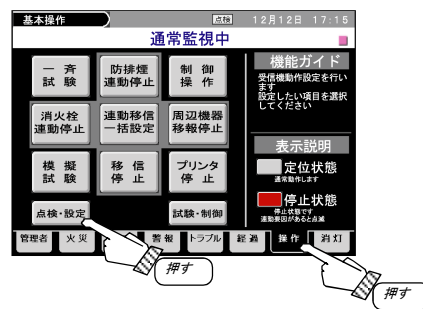


- ⑥ 登録するPX端末を選択すると、サブ表示部に「個別登録」及び「全て登録」が表示されます。いずれかを選択し、「実行」を押してください。
- ⑦ 復旧スイッチを押してください。

<予約登録削除>

受信機に登録したPX端末のアドレスを削除します。

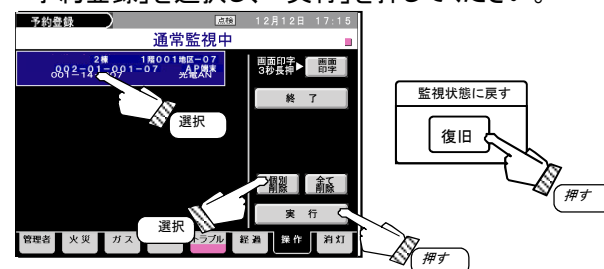
- ① 削除したいPX端末を取り外してください。
「伝送不良(予約)」トラブルが発生します。
- ② 受信機内部の点検スイッチを『点検』側に切替えてください。



- ③ 受信機の液晶画面で「操作」を押してください。
- ④ 「点検・設定」を押してください。



- ⑤ 「予約登録」を選択し、「実行」を押してください。



- ⑥ 削除するPX端末を選択すると、サブ表示部に「個別削除」及び「全て削除」が表示されます。いずれかを選択し、「実行」を押してください。
- ⑦ 復旧スイッチを押してください。

メモ

- ・復旧スイッチを押した後、受信機の交流電源スイッチを「切」側(予備電源もはずした状態)にしても、PX端末の登録情報は保持されます。
- ・連動テーブルを入れ替えても、PX端末の予約登録情報は保持されます。(ただし、P型自動試験中継器の登録を削除した連動テーブルを受信機に転送した場合、PX端末の登録情報もクリアされます。)
- ・予約登録(操作)履歴は最新600件まで記録できます。(RX感知器の予約登録操作との合計)
- ・PX端末のアドレスは、副表示機、防災CRTには表示されません。

3. 機器の設定

3-4. PX端末のメッセージファイルを受信機に読み込む方法(SDカード⇒受信機)

事前準備: PX端末のメッセージファイルのSDカードへの保存(別紙『SDツール(F4SD)操作マニュアル』参照)
F4SDで『APメッセージ-編集』を実行すると、PX端末のメッセージファイル[F4xxxxx. 4PM]がパソコン上のC: ¥F4TG¥ROMフォルダに作成されます。(※[F4xxxxx]は件名ファイル名と同じです。)
PXメッセージファイル(4PM)をSDカードのルートディレクトリにコピーしてください。

(注) PX端末のメッセージファイルの登録を行う際は、事前に、PX端末を接続するP型自動試験中継器が登録された連動テーブルを受信機に転送しておく必要があります。受信機内の連動テーブルにP型自動試験中継器が登録されていない回線のPX端末のメッセージは受信機に読み込みできません。

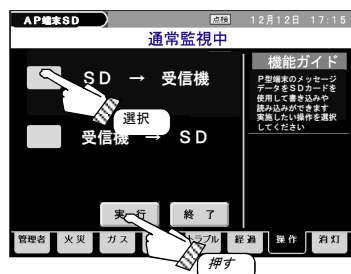
- ① SDカードを受信機に挿入してください。
(SDカードの挿入方法(18~21ページ)参照)
- ② 受信機内部の点検スイッチを『点検』側に切替えてください。



- ③ 受信機の液晶画面で「操作」を押してください。
- ④ 「点検・設定」を押してください。



- ⑤ 「AP端末SD」を選択し、「実行」を押してください。



- ⑥ 「SD → 受信機」の左のボタンを選択し、「実行」を押してください。



- ⑦ PXメッセージファイル(4PM)のファイル名を確認後、「SD → 受信機」の左のボタンを選択し、「実行」を押してください。
(※読み込み中は進捗率が更新されます。)
- ⑧ 読み込みが完了したら、「終了」を押してください。

メモ

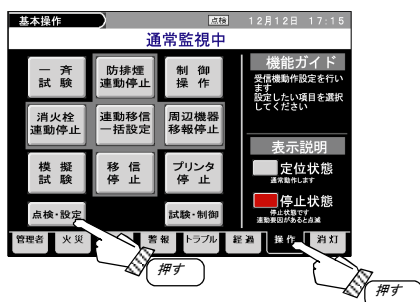
- ・受信機の交流電源スイッチを「切」側(予備電源もはずした状態)にしても、PX端末のメッセージ情報は保持されます。
- ・連動テーブルを転送しても、PX端末のメッセージは保持されます。(ただし、P型自動試験中継器の登録を削除した連動テーブルを受信機に転送した場合、PX端末のメッセージもクリアされます。)
- ・SDツール(F4SD)でメッセージを変更する場合、受信機の盤面操作で変更したメッセージを反映するため、受信機からSDカードに最新のメッセージファイルを書き込み、変更前ファイルにしてください。
(「3-5. PX端末のメッセージファイルをSDカードに書きこむ方法(受信機⇒SDカード)」参照)
- ・メッセージの登録は、受信機でPX端末のアドレス登録を行う前後のどちらでも実施できます。ただし、PX端末のアドレス登録は別途実施する必要があります。
- ・PX端末のメッセージは、副表示機、防災CRTには表示されません。
- ・SDカードは商品に同梱していません。別途手配が必要です。
【推奨SDカード】パナソニック製SDカード
(SD/SDHC対応 32GBまで)

3. 機器の設定

3-5. PX端末のメッセージファイルをSDカードに書き込む方法(受信機⇒SDカード)

- (注) SDツール(F4SD)でメッセージを変更する場合、受信機の盤面操作で変更したメッセージを反映するため、受信機からSDカードに最新のメッセージファイルを書き込み、変更前ファイルにしてください。

- ① SDカードを受信機に挿入してください。
(SDカードの挿入方法(18～21ページ)参照)
- ② 受信機内部の点検スイッチを『点検』側に切替えてください。



- ③ 受信機の画面操作で「操作」を押してください。
- ④ 「点検・設定」を押してください。



- ⑤ 「AP端末SD」を選択し、「実行」を押してください。



- ⑥ 「受信機 → SD」の左のボタンを選択し、「実行」を押してください。



- ⑦ 「受信機 → SD」の左のボタンを選択し、「実行」を押してください。
(※書き込み中は進捗率が更新されます。)
- ⑧ 書き込みが完了したら、「終了」を押してください。

メモ

- ・PXメッセージファイル [F4xxxxxx. 4PM]は、SDカードのルートディレクトリに作成されます。
(※[F4xxxxxx]は件名ファイル名と同じです。)
- ・SDカードをパソコンに挿入し、PXメッセージファイルをデスクトップ等にコピーしてから、SDツール(F4SD)で読み込んでください。
(別紙『SDツール(F4SD)操作マニュアル』参照)
- ・SDカードは商品に同梱していません。
別途手配が必要です。
【推奨SDカード】パナソニック製SDカード
(SD/SDHC対応 32GBまで)

3. 機器の設定

3-6. 受信機の各種履歴情報をSDカードに書き込む方法(受信機⇒SDカード)

各種の履歴情報ファイルをSDカードに書き込むことができます。

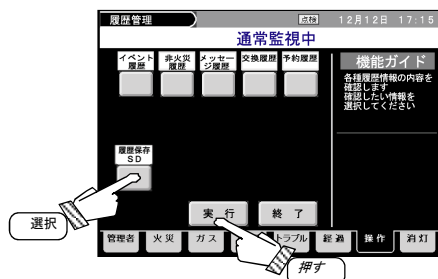
- ① SDカードを受信機に挿入してください。
(SDカードの挿入方法(18～21ページ)参照)
- ② 受信機内部の点検スイッチを『点検』側に切替えてください。



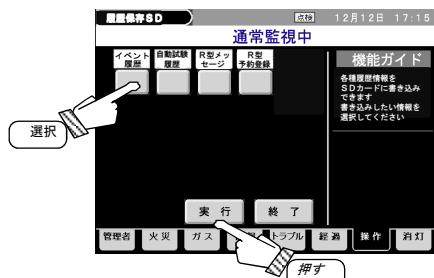
- ③ 「操作」を押してください。
- ④ 「点検・設定」を押してください。



- ⑤ 「履歴管理」を選択し、「実行」を押してください。



- ⑥ 「履歴保存SD」を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。



- ⑦ 書き込みしたい履歴情報(例はイベント履歴)を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。



- ⑧ 「受信機 → SD」の横にあるボタンを選択し、「実行」を押してください。
履歴ファイルがSDカードに書き込みされます。
(※書き込み中は進捗率が更新されます。)
- ⑨ 書き込みが完了したら、「終了」を押してください。

メモ

・履歴ファイルの確認方法

履歴ファイルは、SDツール『F4SD』にて、内容を確認する事ができます。
(別紙『SDツール(F4SD)操作マニュアル』参照)

『履歴情報のファイル名』

- イベント履歴 (MMDDhhmm.4EL)
最新600件のイベント履歴データファイル
- 自動試験結果 (MMDDhhmm.4AT)
自動試験の最新6ヶ月データファイル
- R型メッセージ (F4xxxxxx.4RM)
受信機盤面でメッセージ変更したRX端末の
最新メッセージと端末情報データファイル
- R型予約登録 (F4xxxxxx.4RR)
TGで、「予約登録」種別として登録したRX
端末のうち、実際に受信機盤面で予約登録
操作したRX端末の情報データファイル

(※MMDDhhmm: 操作した時の月日時分)
(※F4xxxxxx: 件名のテーブルファイル名)

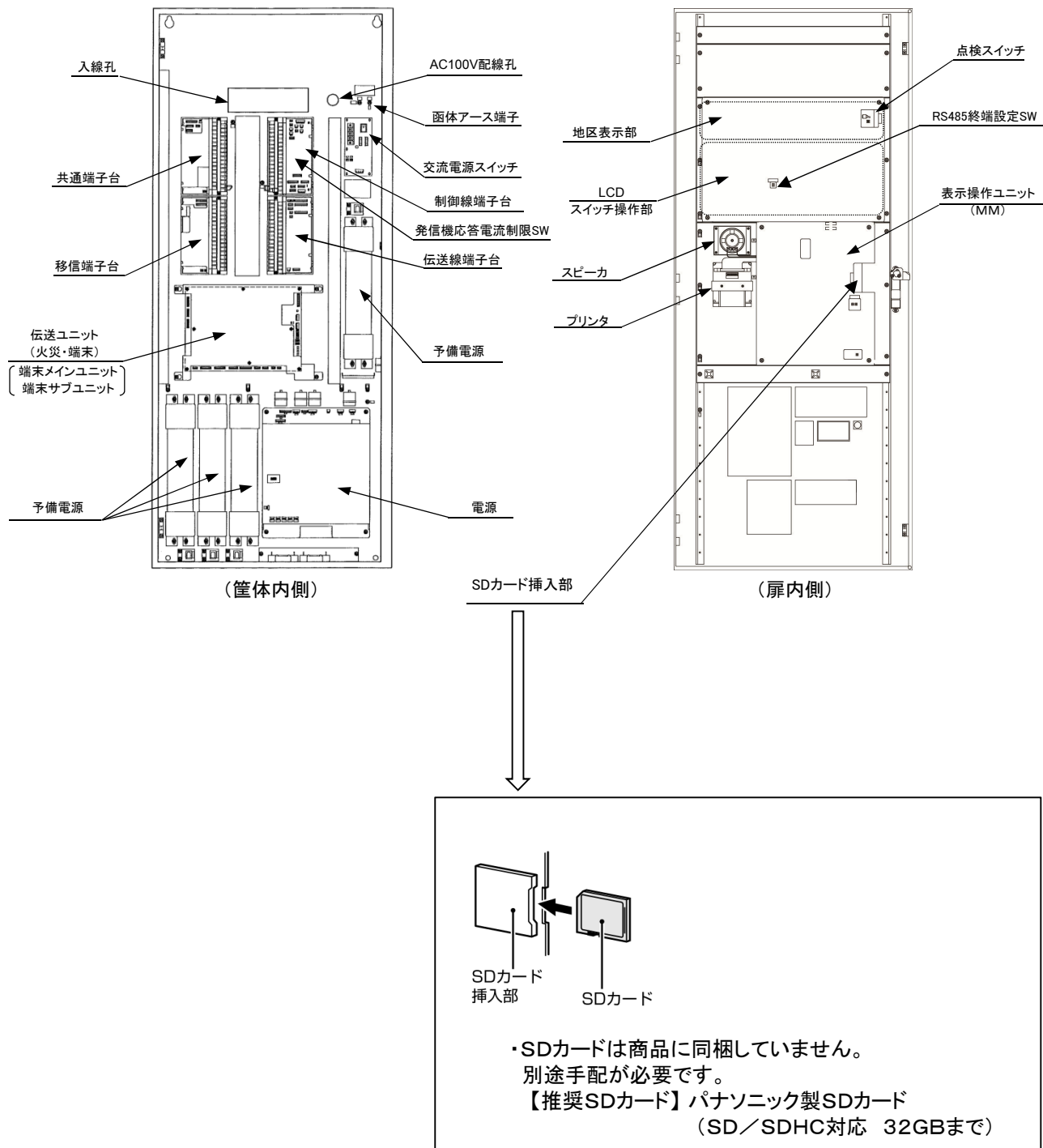
・SDカードは商品に同梱していません。
別途手配が必要です。

【推奨SDカード】パナソニック製SDカード
(SD/SDHC対応 32GBまで)

4. 受信機内器構成

4-1. 内器配置図

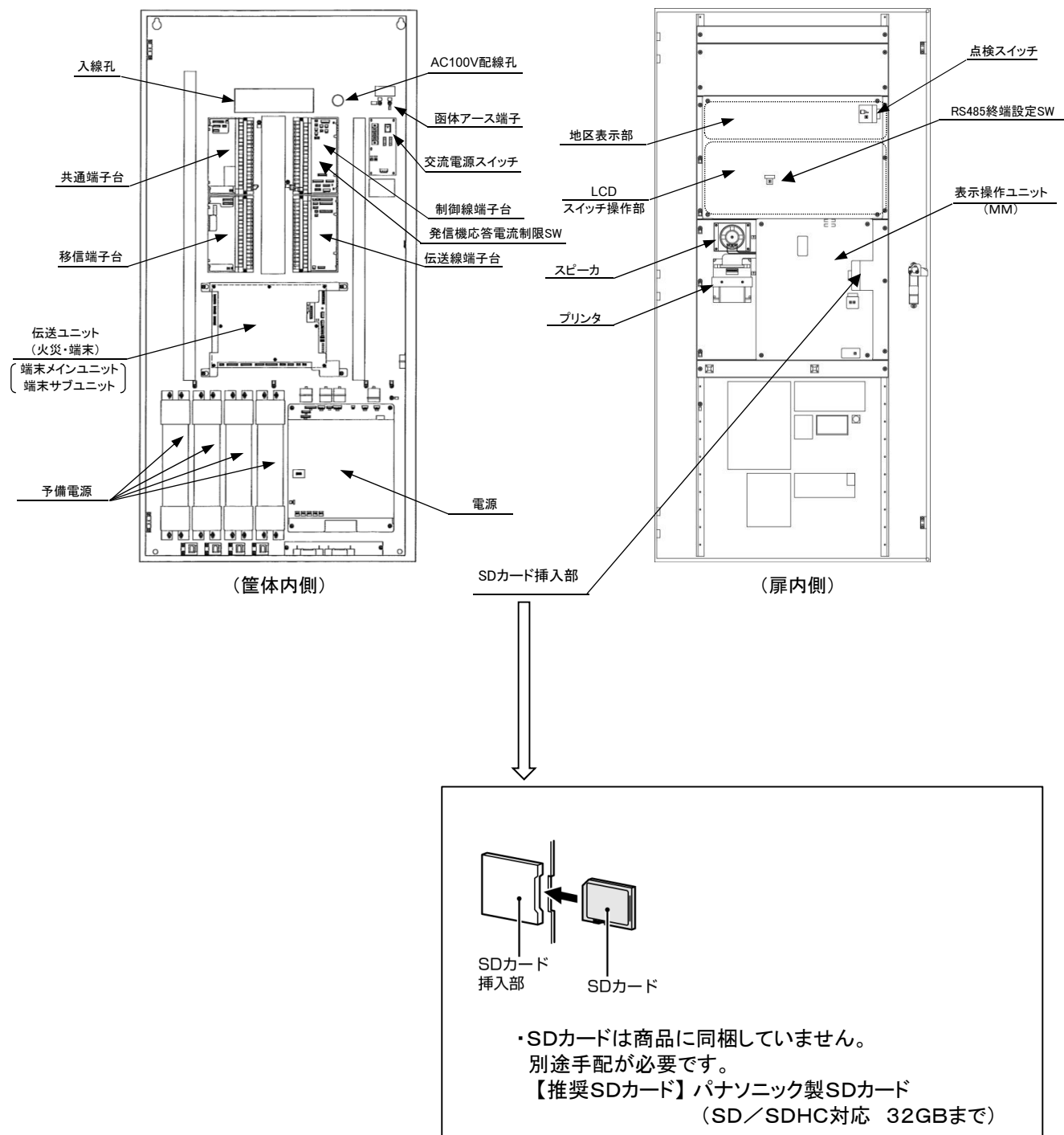
4-1-1. 受信機 壁掛型(1系統)



4. 受信機内器構成

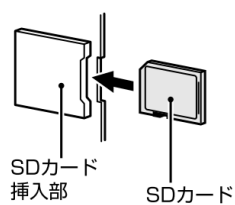
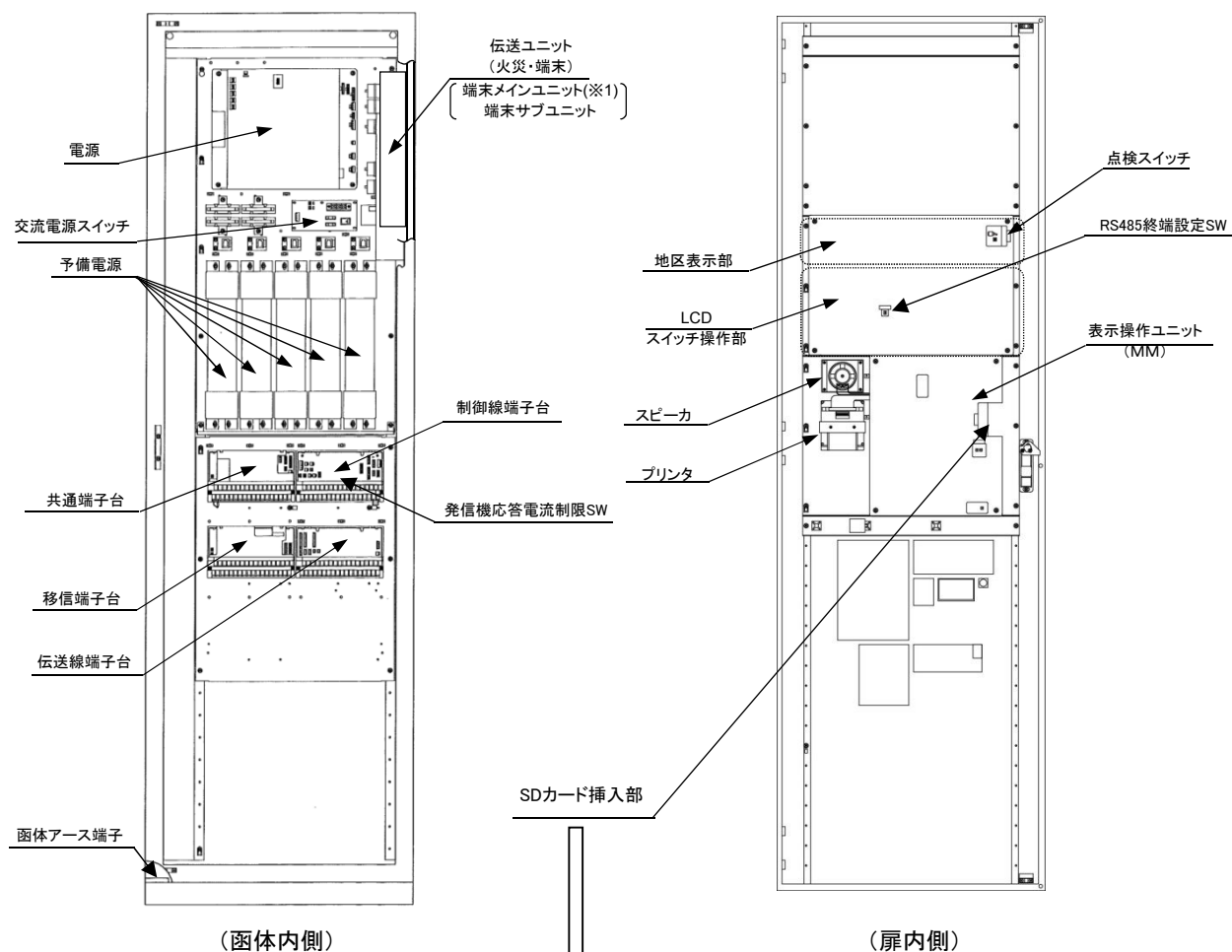
4-1. 内器配置図

4-1-2. 受信機 壁掛型(2系統)



4. 受信機内器構成

4-1-3. 受信機 自立型(4系統以下)

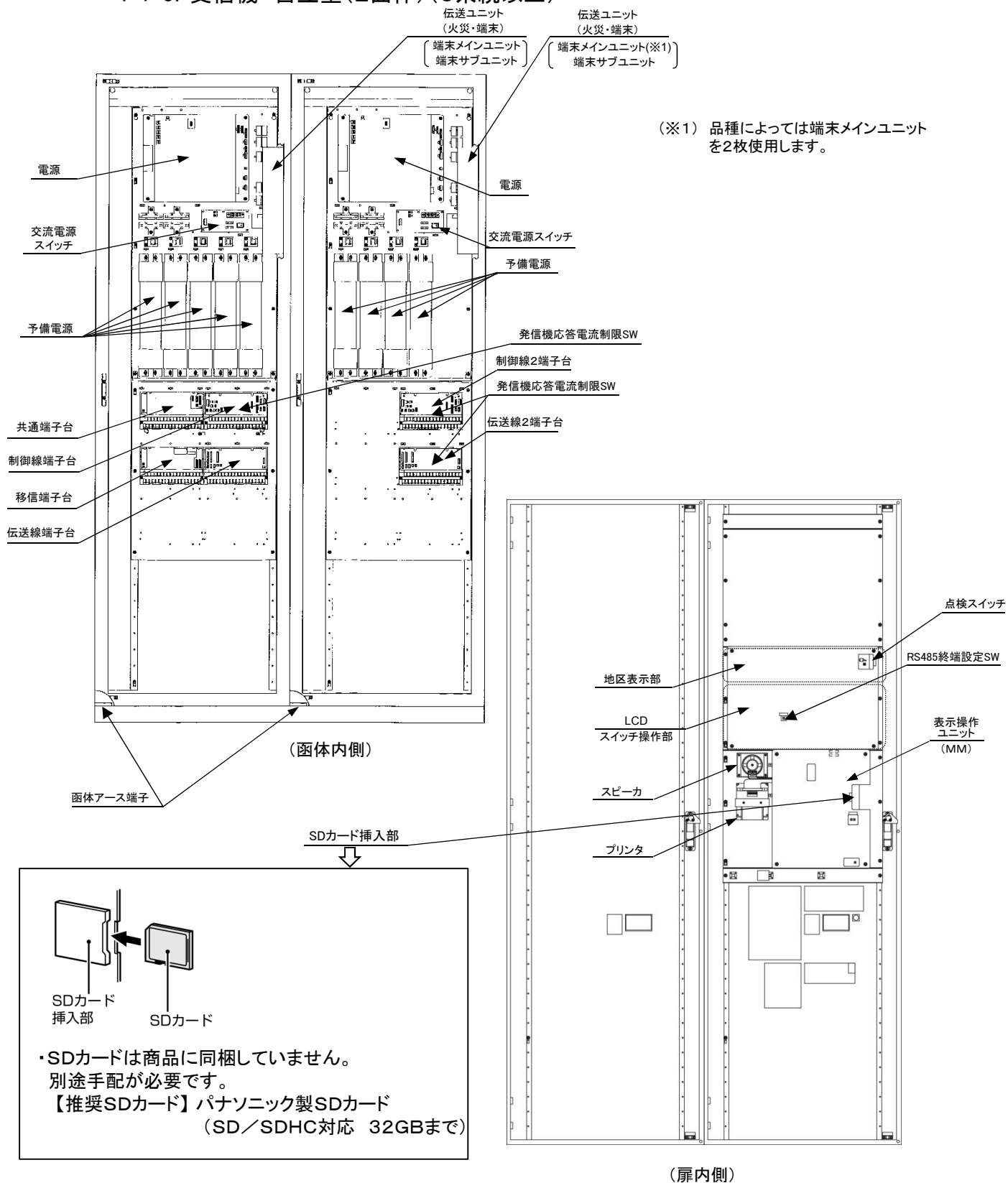


- ・SDカードは商品に同梱していません。別途手配が必要です。
- 【推奨SDカード】パナソニック製SDカード (SD/SDHC対応 32GBまで)

(※1) 品種によっては端末メインユニットを2枚使用します。

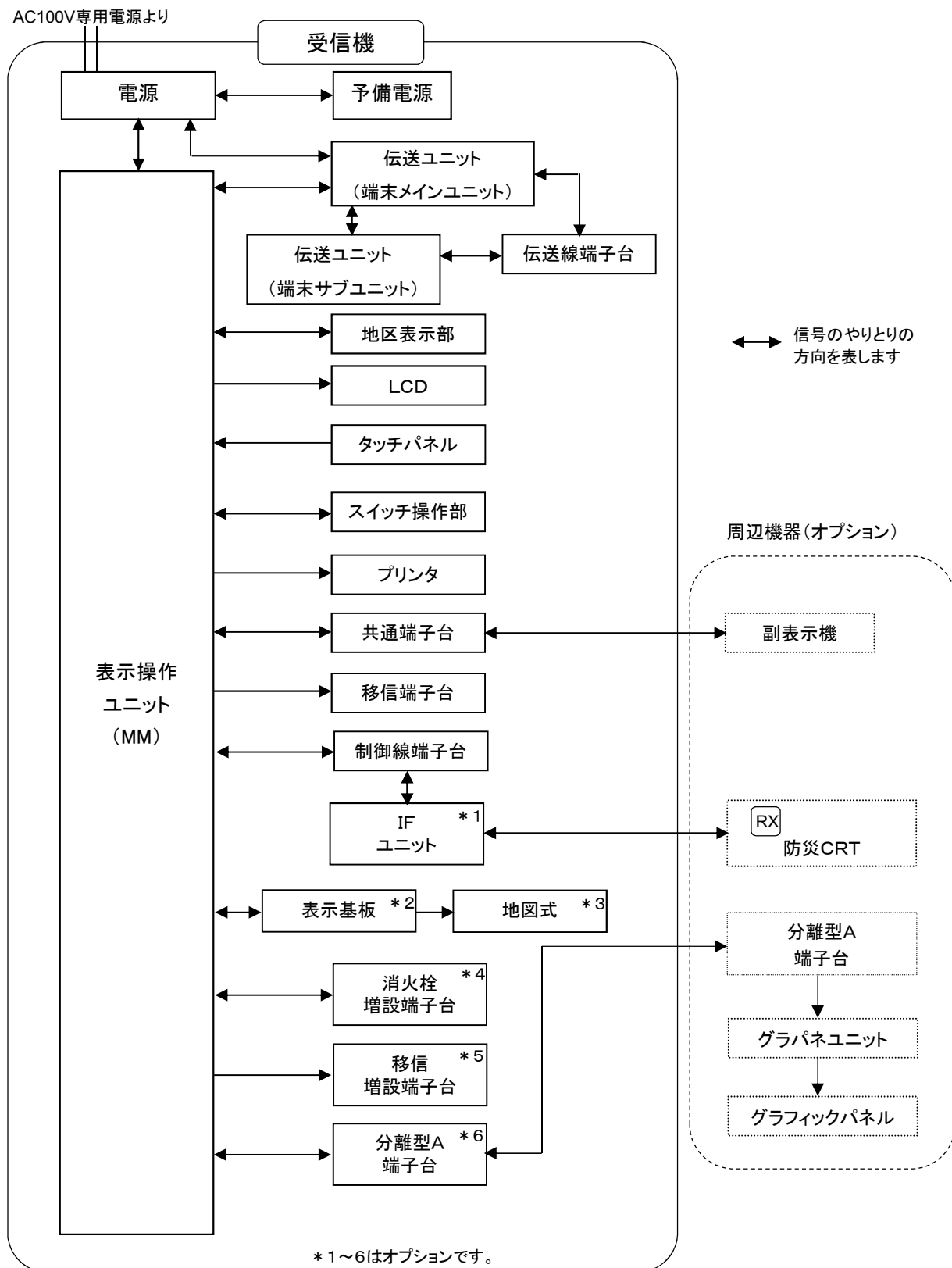
4. 受信機内器構成

4-1-3. 受信機 自立型(2面体)(6系統以上)



4. 受信機内器構成

4-2. 受信機ブロック図



4. 受信機内器構成

4-3. 端子定格

【共通端子台】

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
EB+,EB-	非常放送 地区音響停止	無電圧a接点入力 (DC30V,1A)	非常放送設備のマイクスイッチ入力 10kΩ 終端抵抗必要	A
EF,EC	非常放送 火災確認移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	2報以上の火災信号、発信機信号、火災断定時の非常放送設備への移信出力 移信停止1 (ITb1,ITc1) 端子を経由させて配線することにより、移信停止スイッチ操作により、移信出力を停止する	A
HL1-1,HL2-1	消火栓起動	有電圧接点入力 (AC24V,22.5mA)	消火栓機器からの作動信号入力	A
H1-1,H2-1	消火栓始動	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	消火栓機器への作動連動信号出力 消火栓連動停止スイッチ操作により、出力停止する	A
GFa,GFc	ガス漏れ 代表移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	ガス漏れの代表移信出力	A
KDa,KDb,KDc	火災断定移信	無電圧c接点出力 (DC30V,1A)	火災断定スイッチ操作の移信出力	A
GTa,GTc	ガス故障 代表移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	ガス漏れ検知器故障の代表移信出力	A
Fa1,Fb1,Fc1	火災代表移信	無電圧c接点出力 (DC30V,1A)	火災発生の代表移信出力	A
Fa2,Fb2,Fc2	火災代表移信	無電圧c接点出力 (DC30V,1A)	火災発生の代表移信出力	A
Fa3,Fb3,Fc3	火災代表移信	無電圧c接点出力 (DC30V,1A)	火災発生の代表移信出力	A
TFa,TFc	故障代表移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	故障発生の代表移信出力	A
ITb1,ITc1 ※1	移信停止1 (非常放送専用)	無電圧b接点出力 (DC30V,1A)	非常放送設備への移信出力を移信停止したい場合の出力端子	A
ITb2,ITc2 ※1	移信停止2	無電圧b接点出力 (DC30V,1A)	各設備ごとの移信出力を移信停止したい場合の出力端子	A
ITb3,ITc3 ※1	移信停止3	無電圧b接点出力 (DC30V,1A)	各設備ごとの移信出力を移信停止したい場合の出力端子	A
S+,S-	RS485 副表示機伝送線	RS485出力	副表示機接続用伝送線	J
SG	SG		RS485副表示機伝送線のグラウンド処理用 (シールド線処理用)	—

※1: 移信停止1～3端子は、あらかじめ登録された移信停止画面の移信停止スイッチ1～3と連動して動作します。

(移信停止スイッチの操作方法については取扱説明書を参照してください)

移信停止スイッチ1(非常放送固定) → ITb1, ITc1

移信停止スイッチ2(名称はTGにて入力) → ITb2, ITc2

移信停止スイッチ3(名称はTGにて入力) → ITb3, ITc3

配線長 A : 1km未満

配線長 J : 「9-3. 副表示機の接続について」を参照してください。

(TG: テーブルジェネレータ)

4. 受信機内器構成

【制御線端子台】

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
F+,CC(-)	外部制御 (自火報制御)	有電圧出力 (DC27V,0.7A)	常時通電 ヒューズ有り(F2:2.0A)	B
VP11+,VPC(-)	防排煙制御線	有電圧出力 (DC27V,2A)(合計)	ヒューズ有り(F5:3.0A)	C
VP12+,VPC(-)	防排煙制御線	有電圧出力 (DC27V,2A)(合計)	ヒューズ有り(F6:3.0A)	C
DA+,CC(-)	監視制御線	有電圧出力 (DC27V,0.9A)	ヒューズ有り(F3:2.0A)	D
B+,BC(-) ※1	地区音響 制御線	有電圧出力 (DC27V,0.8A)	ヒューズ有り(F4:2.0A)	E
LA,LB	基幹伝送路	多重伝送 (LON伝送)	シリアル伝送線 (周辺機器接続用)	F
Ira,Irb,Irc	火災復旧出力	無電圧c接点出力 (DC30V,1A)	火災復旧中接点出力	A
FG	FG		シリアル伝送線(シールド線)のグラウンド処理	—

※1：非常放送設備を使用する場合等で、地区音響端子を使用しない場合があります。

配線長A：1km未満

配線長B：配線抵抗「R1」Ω以下

配線長C：配線抵抗「R2」Ω以下

配線長D：配線抵抗 20Ω以下

配線長E：配線抵抗「R3」Ω以下

配線長F：「9-4. IFユニットの接続について」又は「9-5. RXコントローラの接続について」を参照してください。

$$\left[R1 \leq \frac{5}{0.022 \times (\text{一般R型中継器接続個数} + \text{アドレスアダプタ4回線用接続個数}) + 0.058 \times (\text{P型自動試験中継器の接続個数}) + 0.215} \right]$$

$$\left[R2 \leq \frac{26.5 - \text{該当防排煙回線に接続する端末の最低動作電圧(V)}}{\text{該当防排煙回線に接続する端末の制御(動作)電流(A)}} \right]$$

$$\left[R3 \leq \frac{6.5}{\text{一斉鳴動時の制御(動作)電流(A)} \div 2} \right]$$

4. 受信機内器構成

【制御線2端子台】(6系統以上のタイプで使用します)

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
F2+,CC2(-) ※1	外部制御 (自火報制御)	有電圧出力 (DC27V,0.7A)	常時通電 ヒューズ有り(F2:2.0A)	B
VP21+,VPC2(-)	防排煙制御線	有電圧出力 (DC27V,2A)(合計)	ヒューズ有り(F5:3.0A)	C
VP22+,VPC2(-)	防排煙制御線	有電圧出力 (DC27V,2A)(合計)	ヒューズ有り(F6:3.0A)	C
DA2+,CC2(-)	監視制御線	有電圧出力 (DC27V,0.9A)	ヒューズ有り(F3:2.0A)	D
B2+,BC2(-) ※2	地区音響 制御線	有電圧出力 (DC27V,0.8A)	ヒューズ有り(F4:2.0A)	E
Ira2,Irb2,Irc2	火災復旧出力	無電圧c接点出力 (DC30V,1A)	火災復旧中接点メイク	A

※1：電流容量は仕様によっては異なる場合があります。

※2：非常放送設備を使用する場合等で、地区音響端子を使用しない場合があります。

配線長 A：1km未満

配線長 B：配線抵抗「R1」Ω以下

配線長 C：配線抵抗「R2」Ω以下

配線長 D：配線抵抗 20 Ω以下

配線長 E：配線抵抗「R3」Ω以下

$$\left[\begin{array}{l} R1 \leq \frac{5}{0.015 \times (\text{一般R型中継器接続個数} + \text{アドレスアダプタ4回線用接続個数}) \div 2 + 0.17} \\ R2 \leq \frac{26.5 - \text{該当防排煙回線に接続する端末の最低動作電圧(V)}}{\text{該当防排煙回線に接続する端末の制御(動作)電流(A)}} \\ R3 \leq \frac{6.5}{\text{一斉鳴動時の制御(動作)電流(A)} \div 2} \end{array} \right]$$

4. 受信機内器構成

【移信端子台】 ※1

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
I1～I5, IC1	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGIにて設定)	A
I6～I10, IC2	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGIにて設定)	A
I11～I15, IC3	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGIにて設定)	A
I16～I20, IC4	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGIにて設定)	A
I21～I25, IC5	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGIにて設定)	A
I26～I30, IC6	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGIにて設定)	A

※1: 移信端子台は1・2系統で15回線、3～8系統で30回線が標準で使用できます。

配線長A: 1km未満

(TG: テーブルジェネレータ)

【伝送線端子台】

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
SA1,SB1	感知器伝送線 1系統	多重伝送	感知器伝送線1系統	I
SA2,SB2	感知器伝送線 2系統	多重伝送	感知器伝送線2系統 RX700(2系統)以上のタイプで使用	I
SA3,SB3	感知器伝送線 3系統	多重伝送	感知器伝送線3系統 RX700(3系統)以上のタイプで使用	I
SA4,SB4	感知器伝送線 4系統	多重伝送	感知器伝送線4系統 RX700(4系統)以上のタイプで使用	I
NA1,NB1	中継器伝送線 1系統	多重伝送	中継器伝送線1系統	H
NA2,NB2	中継器伝送線 2系統	多重伝送	中継器伝送線2系統 RX700(3系統)以上のタイプで使用	H
A1,AC	発信機応答	DC27V,0.3A	発信機応答入力1系統 ヒューズ有り(F1:0.5A)	G
A2,AC	発信機応答	DC27V,0.3A	発信機応答入力2系統 ヒューズ有り(F1:0.5A)	G
A3,AC	発信機応答	DC27V,0.3A	発信機応答入力3系統 ヒューズ有り(F1:0.5A)	G
GS+,CC(-)	ガス表示灯 電源	有電圧出力 DC27V,0.25A	ガス漏れ表示灯中継器(パナソニック株)製 BG37103K,BG371037K)12個接続可 ヒューズ有り(F7:0.5A)	G
T,TC	電話		発信機又は副表示機と受信機間の電話線 (自火報電話機のみ接続可)	G

配線長G: 配線抵抗50Ω以下

配線長H: 配線抵抗20Ω以下「6-1. 中継器伝送線の伝送距離(1系統あたり)」を参照してください。

配線長I: 配線抵抗20Ω以下「6-2. 感知器伝送線の伝送距離(1系統あたり)」を参照してください。

4. 受信機内器構成

【伝送線2端子台】（6系統以上のタイプで使用します）

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
SA5,SB5	感知器伝送線 5系統	多重伝送	感知器伝送線5系統 RX700(6系統)以上のタイプで使用	I
SA6,SB6	感知器伝送線 6系統	多重伝送	感知器伝送線6系統 RX700(6系統)以上のタイプで使用	I
SA7,SB7	感知器伝送線 7系統	多重伝送	感知器伝送線7系統 RX700(8系統)のタイプで使用	I
SA8,SB8	感知器伝送線 8系統	多重伝送	感知器伝送線8系統 RX700(8系統)のタイプで使用	I
NA3,NB3	中継器伝送線 3系統	多重伝送	中継器伝送線3系統 RX700(6系統)以上のタイプで使用	H
NA4,NB4	中継器伝送線 4系統	多重伝送	中継器伝送線4系統 RX700(8系統)のタイプで使用	H
A4,AC	発信機応答	DC27V,0.3A	発信機応答入力4系統 ヒューズ有り(F1:0.5A)	G
A5,AC	発信機応答	DC27V,0.3A	発信機応答入力5系統 ヒューズ有り(F1:0.5A)	G
A6,AC	発信機応答	DC27V,0.3A	発信機応答入力6系統 ヒューズ有り(F1:0.5A)	G
GS2+,CC2(-)	ガス表示灯 電源	有電圧出力 DC27V,0.25A	ガス漏れ表示灯中継器(パナソニック株製 BG37103K,BG371037K)12個接続可 ヒューズ有り(F7:0.5A)	G
T,TC	電話		発信機又は副表示機と受信機間の電話線 (自火報電話機のみ接続可)	G

配線長 G : 配線抵抗50Ω以下

配線長 H : 配線抵抗20Ω以下「6-1. 中継器伝送線の伝送距離(1系統あたり)」を参照してください。

配線長 I : 配線抵抗20Ω以下「6-2. 感知器伝送線の伝送距離(1系統あたり)」を参照してください。

【移信増設端子台】(オプション)※1

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
I31~I35, IC7	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGにて設定)	A
I36~I40, IC8	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGにて設定)	A
I41~I45, IC9	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGにて設定)	A
I46~I50, IC10	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGにて設定)	A
I51~I55, IC11	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGにて設定)	A
I56~I60, IC12	移信	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	他設備、非常放送設備への移信出力 (TGにて設定)	A

※1 : 増設回線数により端子記号は異なります。(最大100回線)

配線長A: 1km未満

(TG:テーブルジェネレータ)

4. 受信機内器構成

【消火栓増設端子台】(オプション)※1

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
HL1-2,HL2-2	消火栓起動	有電圧接点入力 (AC24V,22.5mA)	消火栓機器からの作動信号入力	A
H1-2,H2-2	消火栓始動	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	消火栓機器への作動連動信号出力 消火栓連動停止スイッチ操作により、出力停止 する	A
HL1-3,HL2-3	消火栓起動	有電圧接点入力 (AC24V,22.5mA)	消火栓機器からの作動信号入力	A
H1-3,H2-3	消火栓始動	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	消火栓機器への作動連動信号出力 消火栓連動停止スイッチ操作により、出力停止 する	A
HL1-4,HL2-4	消火栓起動	有電圧接点入力 (AC24V,22.5mA)	消火栓機器からの作動信号入力	A
H1-4,H2-4	消火栓始動	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	消火栓機器への作動連動信号出力 消火栓連動停止スイッチ操作により、出力停止 する	A
HL1-5,HL2-5	消火栓起動	有電圧接点入力 (AC24V,22.5mA)	消火栓機器からの作動信号入力	A
H1-5,H2-5	消火栓始動	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	消火栓機器への作動連動信号出力 消火栓連動停止スイッチ操作により、出力停止 する	A
HL1-6,HL2-6	消火栓起動	有電圧接点入力 (AC24V,22.5mA)	消火栓機器からの作動信号入力	A
H1-6,H2-6	消火栓始動	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	消火栓機器への作動連動信号出力 消火栓連動停止スイッチ操作により、出力停止 する	A
HL1-7,HL2-7	消火栓起動	有電圧接点入力 (AC24V,22.5mA)	消火栓機器からの作動信号入力	A
H1-7,H2-7	消火栓始動	無電圧a接点出力 (DC30V,1A)	消火栓機器への作動連動信号出力 消火栓連動停止スイッチ操作により、出力停止 する	A

※1：増設回線数により端子記号は異なります。(最大13系統)

配線長A：1km未満

4. 受信機内器構成

【分離型A端子台】(オプション)※1

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
CT+,CT-	カレント出力	多重伝送 (調歩同期式)		K
CR+,CR-	カレント入力	多重伝送 (調歩同期式)		K
PI+,PI-	電源入力	DC24V入力		L
ZG	ZG		カレント線(多重伝送線)のグランド処理用 (FGと接続しないでください)	—

※1 : グラパネユニット(オプション)接続時に必要です。

配線長 K : 500m未満

配線長 L : 30m以下

【IFユニット】(オプション)

端子記号	名 称	定 格	備 考	配線長
PI+,PI-	電源入力	DC24V入力		L
LA,LB	基幹伝送路	多重伝送 (LON伝送)	シリアル伝送路 (受信機接続用)	F
SE	SE		シリアル伝送路(シールド線)のグランド処理用 (制御線端子台のFG端子と接続してください)	—

配線長 F : 「9-4. IFユニットの接続について」を参照してください

配線長 L : 30m以下

4. 受信機内器構成

4-4. 受信機ヒューズ一覧

盤 名 称	端子台・ユニット名称		ヒューズ番号	定格	備考
受 信 機	標 準	制御線端子台 制御線2端子台	F1 : 発信機	0. 5A	A1,AC A2,AC A3,AC 又は A4,AC A5,AC A6,AC
			F2 : 外部制御	2. 0A	F+,CC(-) 又は F2+,CC2(-)
			F3 : 監視	2. 0A	DA+,CC(-) 又は DA2+,CC2(-)
			F4 : 地区音響	2. 0A	B+,BC(-) 又は B2+,BC2(-)
			F5 : 防排煙1	3. 0A	VP11+,VPC(-) 又は VP21+,VPC2(-)
			F6 : 防排煙2	3. 0A	VP12+,VPC(-) 又は VP22+,VPC2(-)
		伝送線端子台 伝送線2端子台	F7 : ガス表示灯	0. 5A	GS+,CC(-) 又は GS2+,CC2(-)
		電 源	AF1 : 1次側	15. 0A	・電源毎にヒューズが存在します。 ・受信機のタイプにより 予備電源の本数は、異なります。 ・6系統以上のタイプは電源が2台 あります。
			AF2 : 1次側	15. 0A	
			AF3 : 予備電源1	10. 0A	
			AF4 : 予備電源2	10. 0A	
			AF5 : 予備電源3	10. 0A	
			AF6 : 予備電源4	10. 0A	
			AF7 : 予備電源5	10. 0A	

5. 接続数について

5-1. システム容量

受信機に接続される感知器アドレス数、中継器回線数、周辺機器接続数を説明します。

【受信機】受第30～4号の場合				
品種	対応規模	システム容量		電源タイプ(予備電源)
RX700 GR型受信機 (382アドレス)	～12,500㎡	自火報アドレス	～254アドレス(1感知器伝送線)	電源
		防排煙(監視)回線数	～256回線	AC100V(50/60Hz) 380VA
		移信回線数	～256回線	予備電源(Ni.Cd蓄電池)
		地区音響回線数	～80回線	DC24V 4.0Ah × 4本(※2)
		ガス漏れ回線数	～160回線	
		一般R型回線数(※1)	～256回線	
RX700 GR型受信機 (636アドレス)	～25,000㎡	自火報アドレス	～508アドレス(2感知器伝送線)	電源
		防排煙(監視)回線数	～256回線	AC100V(50/60Hz) 400VA
		移信回線数	～256回線	予備電源(Ni.Cd蓄電池)
		地区音響回線数	～80回線	DC24V 4.0Ah × 4本(※2)
		ガス漏れ回線数	～160回線	
		一般R型回線数(※1)	～256回線	
RX700 GR型受信機 (1018アドレス)	～37,500㎡	自火報アドレス	～762アドレス(3感知器伝送線)	電源
		防排煙(監視)回線数	～512回線	AC100V(50/60Hz) 450VA
		移信回線数	～512回線	予備電源(Ni.Cd蓄電池)
		地区音響回線数	～80回線	DC24V 4.0Ah × 4本(※2)
		ガス漏れ回線数	～320回線	
		一般R型回線数(※1)	～512回線	
RX700 GR型受信機 (1272アドレス)	～50,000㎡	自火報アドレス	～1016アドレス(4感知器伝送線)	電源
		防排煙(監視)回線数	～512回線	AC100V(50/60Hz) 450VA
		移信回線数	～512回線	予備電源(Ni.Cd蓄電池)
		地区音響回線数	～80回線	DC24V 4.0Ah × 5本(※2)
		ガス漏れ回線数	～320回線	
		一般R型回線数(※1)	～512回線	
RX700 GR型受信機 (1908アドレス)	～75,000㎡	自火報アドレス	～1524アドレス(6感知器伝送線)	電源
		防排煙(監視)回線数	～768回線	AC100V(50/60Hz) 800VA
		移信回線数	～768回線	予備電源(Ni.Cd蓄電池)
		地区音響回線数	～160回線	DC24V 4.0Ah × 8本(※2)
		ガス漏れ回線数	～480回線	
		一般R型回線数(※1)	～768回線	
RX700 GR型受信機 (2544アドレス)	～100,000㎡	自火報アドレス	～2032アドレス(8感知器伝送線)	電源
		防排煙(監視)回線数	～1024回線	AC100V(50/60Hz) 850VA
		移信回線数	～1024回線	予備電源(Ni.Cd蓄電池)
		地区音響回線数	～160回線	DC24V 4.0Ah × 9本(※2)
		ガス漏れ回線数	～640回線	
		一般R型回線数(※1)	～1024回線	

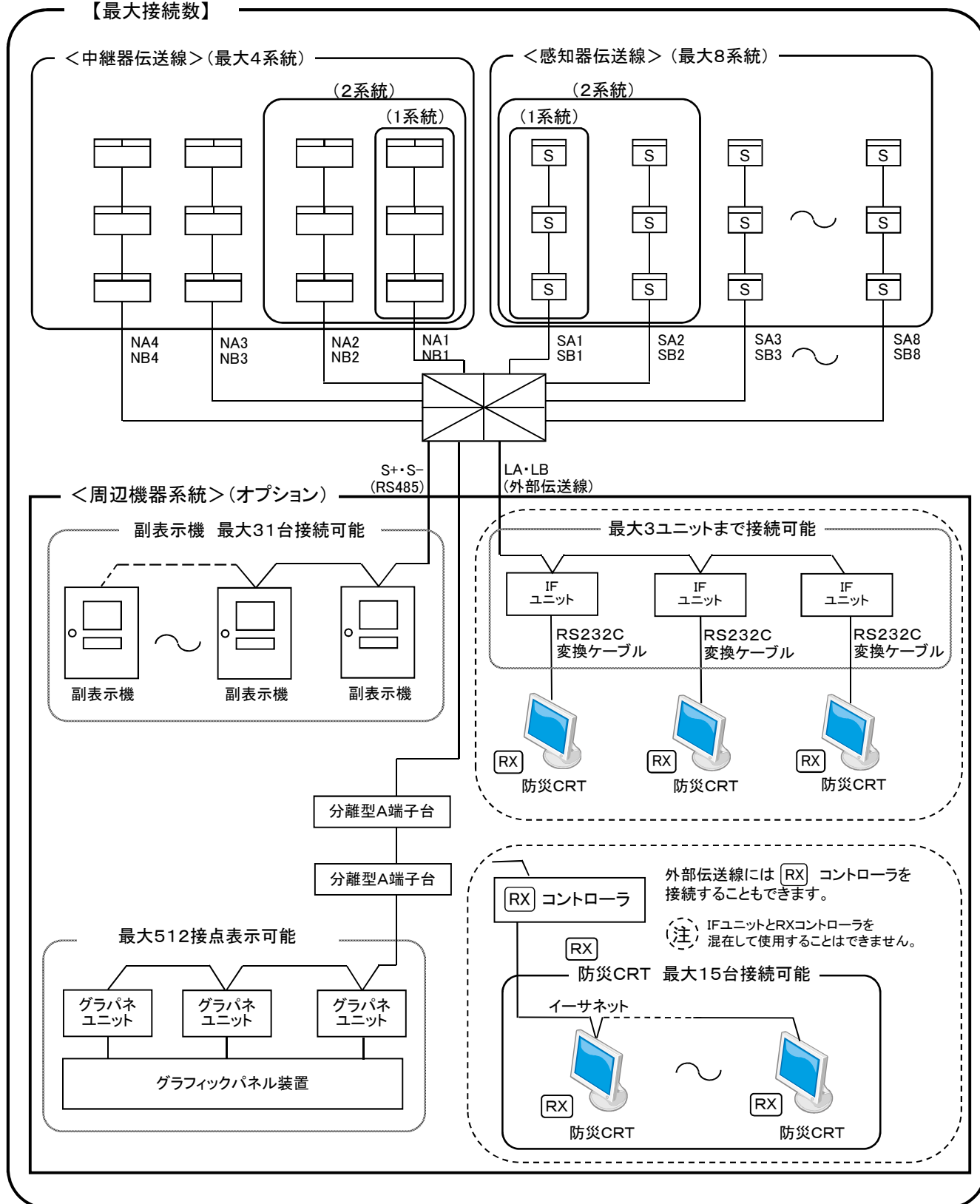
(※1) 受信機の汎用電源(F+、CC(-))の容量に制限があるため、回線数によっては別電源からの電源供給が必要となります。

(※2) 仕様により異なる場合があります。

5. 接続数について

5-2. 周辺機器接続数

【最大接続数】



5. 接続数について

5-3. 中継器接続数

【RX中継器(1系統あたり)最大接続数】

[単位: 回線数/1系統]

	中継器								
	ガス 漏れ 中継器	地区 音響 中継器 ※1	防排煙 中継器	防排煙 遠隔 復帰用 中継器	監視 中継器		移信 中継器		一般 R型 中継器 ※2
	NCH553EX	NCH560EX	NCH555EX	NCH556EX	NCH558EX	NCH559EX	NCH562EX	NCH563EX	NCH554EX
1台あたりのアドレス数と回線数	1アドレス 2回線	1アドレス 2回線	1アドレス 4回線	2アドレス 4回線	1アドレス 4回線	2アドレス 8回線	1アドレス 4回線	2アドレス 8回線	2アドレス 4回線
タイプ	c	e	b	d	b	a	b	a	f
制限1: 最大回線数制限	160回線	80回線	256回線	256回線	256回線	256回線	256回線	256回線	256回線
制限2: 端末混在時 トータル接続数 (3つの式を満足 すること)	$8a+4b+2c+4d+2e+4f \leq 256$ $2c \leq 160$ $2e \leq 80$ $4(a+b+c+d+e+f) \leq 400$								
制限3: システム接続数 (受信機タイプ)	受信機タイプによるシステム容量を超えない								

※1: 地区音響中継器は、タイプにより系統数が増加しても、トータル接続数は受信機1面体あたり最大80回線以下となります。

※2: 受信機汎用電源(F+, CC(-))の電流容量制限について

受信機1台あたりの一般R型中継器(4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用の接続数が下記の式を満足しない場合は、汎用電源(F+, CC(-))の容量が不足するため、別電源からの電源供給が必要となります。

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} \leq 700(\text{mA})$$

$$\begin{aligned} \textcircled{1} &= \text{一般感知器使用時の監視時消費電流(終端抵抗10kΩ時)} \\ &= 22 \times (\text{一般R型中継器(4回線)とアドレスアダプタ4回線用の接続数}) \\ &\quad + 58 \times (\text{P型自動試験中継器4回線用の接続数})(\text{mA}) \end{aligned}$$

$$\textcircled{2} = \text{一般感知器使用時の5回線発報時消費電流} = 215 (\text{mA})$$

$$\textcircled{3} = \text{一般R型中継器(4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用以外の機器の総消費電流}(\text{mA})$$

・アドレス設定器(NSY452またはNSY501)の取扱説明書を参照し、同系統に接続するアドレスは以下のアドレス範囲で重複しない様に設定してください。

中継器	アドレス範囲
防排煙中継器(4回線) 防排煙遠隔復帰用中継器(4回線) 監視中継器(4回線、8回線) 移信中継器(4回線、8回線) ガス漏れ中継器(2回線) 一般R型中継器(4回線)	1~128
地区音響中継器(2回線)	129~224

5. 接続数について

5-4. 感知器接続数

【RX中継器・RX感知器・RX発信機（1系統あたり） 最大接続数】

[単位:個/1系統]

	中継器				感知器・発信機			
	(RX) アイソレータ (NCH534EX)	(RX) アドレス アダプタ (NCH535EXA)	(RX) ※1 アドレス アダプタ 4回線用 (NCH537EX)	(RX) ※1 P型自動試験 中継器 4回線用 (NCH573EX)	(RX) ※3 アドレス付 スポット型 感知器	(RX) アドレス付 発信機 (NYM107CF)	(RX) アドレス付 熱電対 検出器 (NSD204EXB)	(RX) アドレス付 光電式 分離型 感知器
1台あたりのアドレス数	1アドレス	1アドレス	4アドレス	4アドレス	1アドレス	1アドレス	1アドレス	1アドレス
タイプ	D	C	C'	G	A	B	E	F
制限1: 同一端末最大接続数	25個	100個	25個	25個	254個	254個	60個	30個
制限2: 端末混雑時 トータル接続数 (6つの式を満足するこ と)	$A+B+ C+ 4C' +D+E+F+4G \leq 254$ $A+B+3C+10C' +5D+4E+5F+10G \leq 300$ $C+4C' +4G \leq 100$ $D \leq 25$ $E \leq 60$ $F \leq 30$							

※1: 受信機汎用電源(F+, CC(-))の電流容量制限について

受信機1台あたりの一般R型中継器(4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用の接続数が下記の式を満足しない場合は、汎用電源(F+, CC(-))の容量が不足するため、別電源からの電源供給が必要となります。

①+②+③≤700(mA)

①一般感知器使用時の監視時消費電流(終端抵抗10kΩ時)
=22×(一般R型中継器(4回線)とアドレスアダプタ4回線用の接続数)
+58×(P型自動試験中継器4回線用の接続数)(mA)

②一般感知器使用時の5回線発報時消費電流=215 (mA)

③一般R型中継器(4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用以外の機器の総消費電流(mA)

・アドレス設定器(NSY452またはNSY501)の取扱説明書を参照し、同系統に接続するアドレスは以下のアドレス範囲で重複しない様に設定してください。

機器	アドレス範囲
(RX) アドレス付感知器 (RX) アドレス付発信機 (RX) アドレスアダプタ (RX) アドレスアダプタ4回線用 (RX) P型自動試験中継器4回線用	1～254
(RX) アイソレータ	230～254

5. 接続数について

【アドレスアダプタ(NCH535EXA)2次側(1系統あたり)最大接続数】

[単位:個/1系統]

感知器タイプ	一般感知器(当社製)				
	電子式 自己保持型 熱感知器	煙感知器 (光電式 スポット型)	光電式 分離型 感知器	熱電対 検出器	炎感知器
制限1: 同一種別の最大接続数	2000個	500個	20セット	125個	100個
制限2:複数種別混在時 トータル接続数	$A+4B+16D+100C+20E \leq 2000$				

【アドレスアダプタ(NCH535EXA)2次側(1回線あたり) 最大接続数】

[単位:個/1回線]

感知器タイプ	一般感知器(当社製)				
	電子式 自己保持型 熱感知器	煙感知器 (光電式 スポット型)	光電式 分離型 感知器	熱電対 検出器	炎感知器
制限1: 同一種別の最大接続数	30個	20個	1セット	7個	2個
制限2:複数種別混在時 トータル接続数	$A+1.5B+15D \leq 30$ $0.35B+3.5D+E \leq 7$ $C=1$ ※光電式分離型感知器と他の一般感知器との混在接続はできません。				

【アドレスアダプタ4回線用(NCH557EX) 2次側(1回線あたり)最大接続数】
【一般R型中継器(NCH554EX)2次側(1回線あたり)最大接続数】

[単位:個/1回線]

感知器タイプ	一般感知器(当社製)				
	電子式 自己保持型 熱感知器	煙感知器 (光電式 スポット型)	光電式 分離型 感知器	熱電対 検出器	炎感知器
制限1: 同一種別の最大接続数	80個	20個	1セット	7個	4個
制限2:複数種別混在時 トータル接続数	$A+4B+20D \leq 80$ $0.35B+1.75D+E \leq 7$ $C=1$ ※光電式分離型感知器と他の一般感知器との混在接続はできません。				

5. 接続数について

【P型自動試験中継器(NCH573EX) 2次側(1回線あたり)最大接続数】

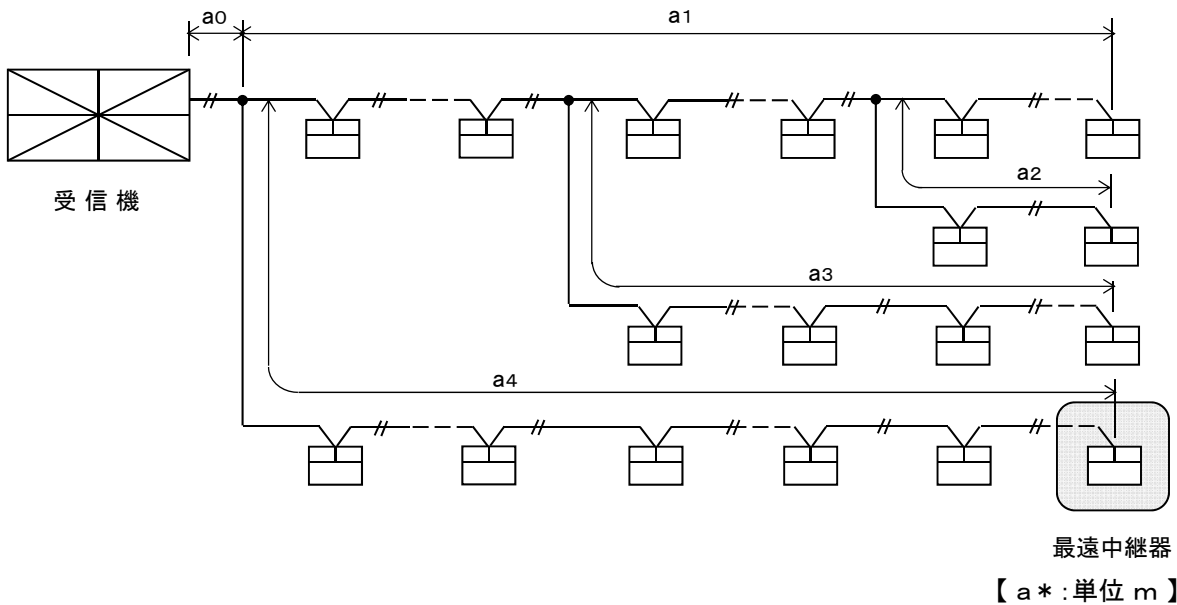
[単位:個/1系統]

センサータイプ	一般感知器							PX感知器 (アドレス付) (※1) PX発信機 (アドレス付)
	熱感知器 (電子式自己 保持タイプ)	煙感知器 (2空間式)	煙感知器 (1種)	煙感知器 (2信号)	光電式 分離型 感知器	差動式 分布型 感知器 (熱電対式)	炎感知器	
制限1: 同一種類の最大接続数	80個	30個	30個	20個	1セット	5個	4個	30個
制限2: 複数種別 混在時トータル接続数	$A+4D+(8/3)(B+C+H)+20G+16F \leq 80$ $E \leq 1$ ※光電式分離型感知器と他の感知器との混在接続はできません。							

(※1) PX感知器(2信号)(NSS409EG)は接続できません。

6. 伝送線について

6-1. 中継器伝送線の伝送距離（1系統当たり）



伝送方式	ポーリング／セレクトイング方式	
伝送電圧	±30V 定電圧化	
配線形態	2線 無極性 分岐配線可能	
伝送距離	最遠配線長	$a_0 + a_4 \leq 600\text{m}$ (Φ1.2) ※1
	総配線長	$a_0 + a_1 + a_2 + a_3 + a_4 \leq 2.0\text{km}$
線路条件	使用電線	耐熱ケーブル (ツイストペア)
	配線抵抗	20Ω以下 (最遠配線長距離)
	静電容量	0.2μF以下

※1: 伝送距離については電線の線径により異なります。(下記参照)

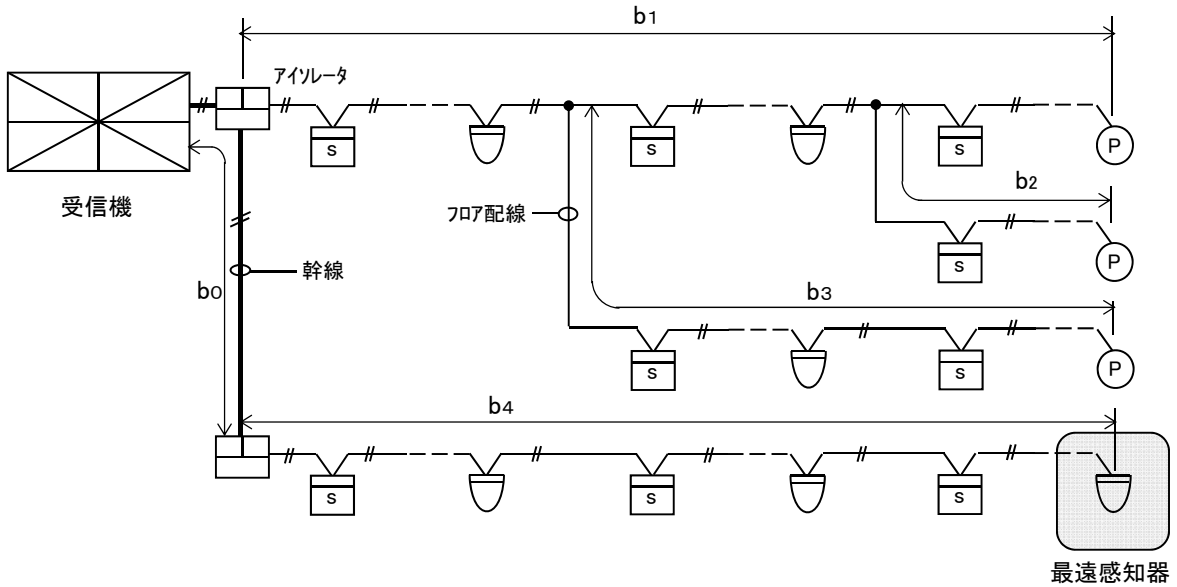
使用電線の線径と最遠配線長距離の関係				
線径	Φ0.9	Φ1.2	Φ1.6	Φ2.0
最遠配線長距離	340m	600m	1.0km	1.5km

(注) 建屋をわたる伝送線については、シールドが必要です。

(処理方法については「6-4. 伝送線シールドの処理方法」を参照してください)

6. 伝送線について

6-2. 感知器伝送線の伝送距離（1系統当たり）



【b* : 単位 m】

伝送方式	ポーリング／セレクトイング方式	
伝送電圧	±30V 定電圧化	
配線形態	2線 無極性 分岐配線可能	
伝送距離	最遠配線長	$b_0 + b_4 \leq 600\text{m}$ (Φ1.2) ※1
	総配線長	$b_0 + b_1 + b_2 + b_3 + b_4 \leq 2.0\text{km}$
線路条件	使用電線	幹線 : 耐熱ケーブル (ツイストペア) フロア配線 : 耐熱ケーブル
	配線抵抗	20Ω以下 (最遠配線長距離)
	静電容量	0.2μF以下

※1: 伝送距離については電線の線径により異なります。(下記参照)

使用電線の線径と最遠配線長距離の関係				
線径	Φ0.9	Φ1.2	Φ1.6	Φ2.0
最遠配線長距離	340m	600m	1.0km	1.5km

- (注)
- ・感知器ベース速結端子の適合電線はΦ0.9～1.2 Cu(銅)単線になります。
 - ・未使用配線(余剰配線、感知器等未接続配線)が接続されている場合、伝送トラブルの原因となりますので、必ず接続を外してください。
 - ・フロア配線の同一シース内の電線に異なる感知器伝送線複数系統の配線を混在させないでください。(未使用系統配線(感知器等未接続配線)の場合でも絶対に混在させないでください。)
 - ・建屋をわたる伝送線については、シールドが必要です。(処理方法については「6-5. 伝送線シールドの処理方法」を参照してください)

6. 伝送線について

6-3. 使用電線種類 (1) 受信機—端末機器間

受信機					端末機器				
	名称	備考	端子		使用電線		端子	備考	
標準	感知器伝送線	1～4系統 ※1※2※3	SA SB	○ ○	耐熱ケーブル (ツイストペア)	○	SA	アイソレータ・感知器へ	
	中継器伝送線	1～2系統 ※1※2※3	NA NB	○ ○		○	SB		
	地区音響制御線		B+ BC(-)	○ ○		○	NA	各中継器へ	
	制御線 (防排煙制御線)		VP1+,VP12+ VP21+,VP22+ VPC(-), VPC2(-)	○ ○ ○		○	NB		
	監視制御線		DA+,DA2+ CC(-),CC2(-)	○ ○	耐熱ケーブル	○	B+	地区音響中継器へ	
						○	CC		
	外部制御線		F+,F2+ CC(-),CC2(-)	○ ○		○	VP+	防排煙中継器へ	
	ガス表示灯電源線		GS+,GS2+ CC(-),CC2(-)	○ ○		○	DA+	監視中継器へ	
	発信機応答線	※4	A AC	○ ○	一般配線	○	CC	ガス漏れ中継器へ	
	電話線	※2	T TC	○ ○		○	G+	ガス漏れ中継器へ	
	副表示機伝送線 (RS485)	※2 ※5	S+ S- SG	○ ○ ○		○	F+	一般R型中継器などへ	
	外部伝送線 (LON伝送線)	※1 ※2 ※6	LA LB FG	○ ○ ○		○	CC	ガス表示灯などへ	
オプション	カレントループ線	分離型A 端子台	CT+ CT- CR+ CR- ZG	○ ○ ○ ○ ○	耐熱ケーブル (ツイストペア シールド) Φ1.2	○	A	発信機へ	
	ガス漏れ検知器 電源	別電源装置	B+ B-	○ ○	一般配線	○	AC	発信機・副表示機の 電話接続端子へ	
	排煙口用電源	別電源装置	B+ B-	○ ○		○	T		
	防災用直流電源	別電源装置	V G	○ ○	耐熱ケーブル	○	TC		
						○	R+	副表示機へ (オプション)	
						○	R-		
						○	SG		
						○	LA	[RX] コントローラ等へ (オプション)	
						○	LB		
						○	SE		
						○	CR+		
						○	CR-		
						○	CT+	分離型A端子台	
						○	CT-		
						○	ZG		
						○	BG+	ガス漏れ検知器 などへ	
						○	BG-		
						○	V1	排煙口電気式 手動開放装置へ	
						○	CC	アドレスアダプタ4回線用 一般R型中継器4回線用 P型自動試験中継器などへ	
						○	F+		
						○	CC		

*○は端子を表します

※1：外部伝送線と、伝送線(感知器伝送線、中継器伝送線)を同一シース線に混在させないでください。

※2：外部伝送線、及び伝送線(感知器伝送線、中継器伝送線)と、電話線を同一シース線に混在させないでください。

※3：建屋をわたる伝送線(感知器伝送線、中継器伝送線)については、シールドが必要です。
処理方法については「6-4. 伝送線シールドの処理方法」を参照してください。

※4：6系統以上の受信機の一般発信機応答線の接続は「7-3. 発信機応答線接続時の注意事項について」を参照してください。

※5：副表示機(オプション)の接続方法は「9-3. 副表示機の接続について」を参照してください。

※6：[RX]コントローラ(オプション)の接続方法は「9-5. [RX]コントローラの接続について」を参照してください。

使用電線については、
所轄消防署と十分
打ち合わせを行って
ください。

6. 伝送線について

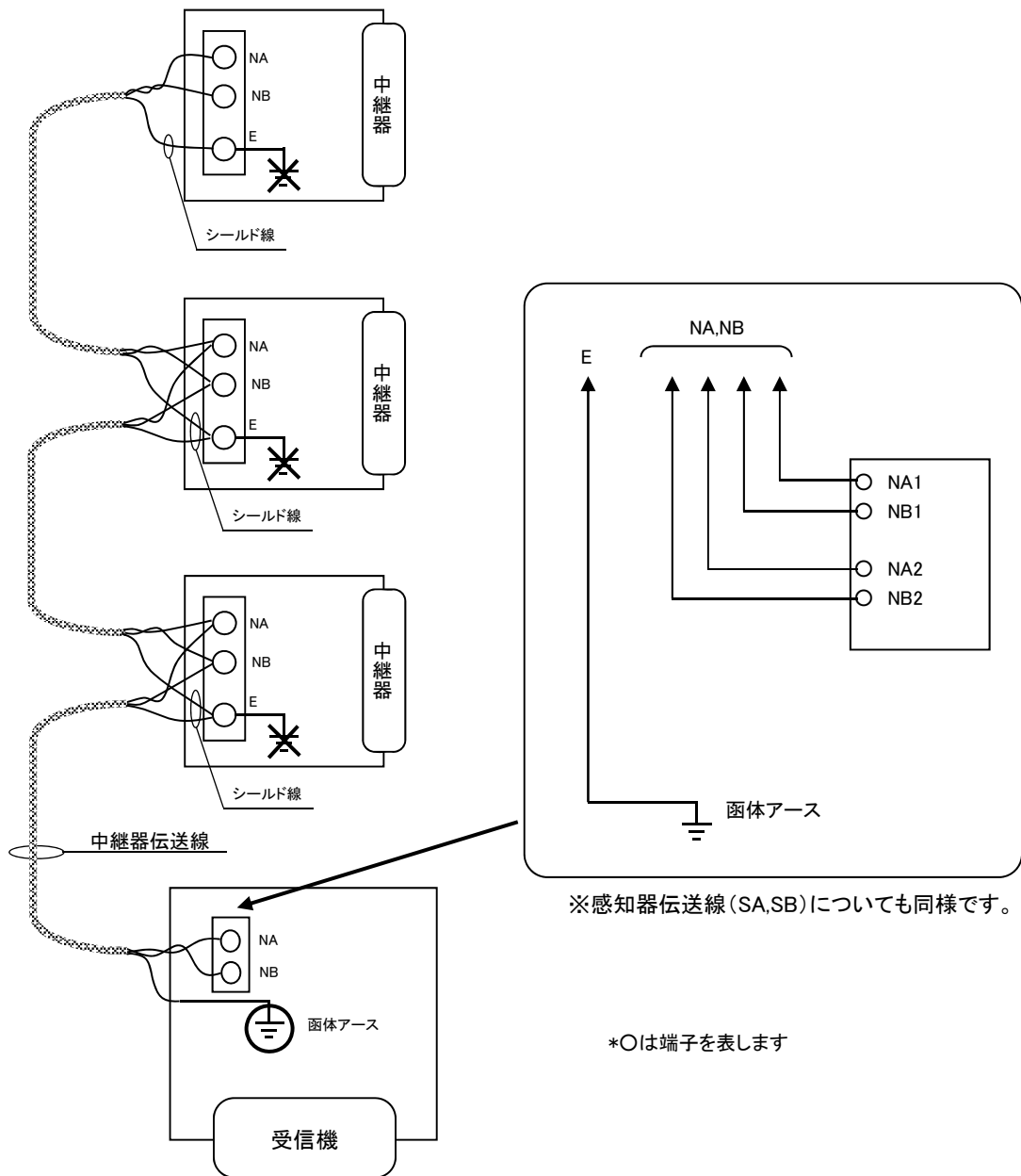
6-4. 伝送線シールドの処理方法

6-4-1. 中継器伝送線、感知器伝送線

中継器伝送線、感知器伝送線については、建屋をわたる場合、必ず耐熱ケーブル(ツイストペアシールド付)を使用し、シールド線を接地する必要があります。

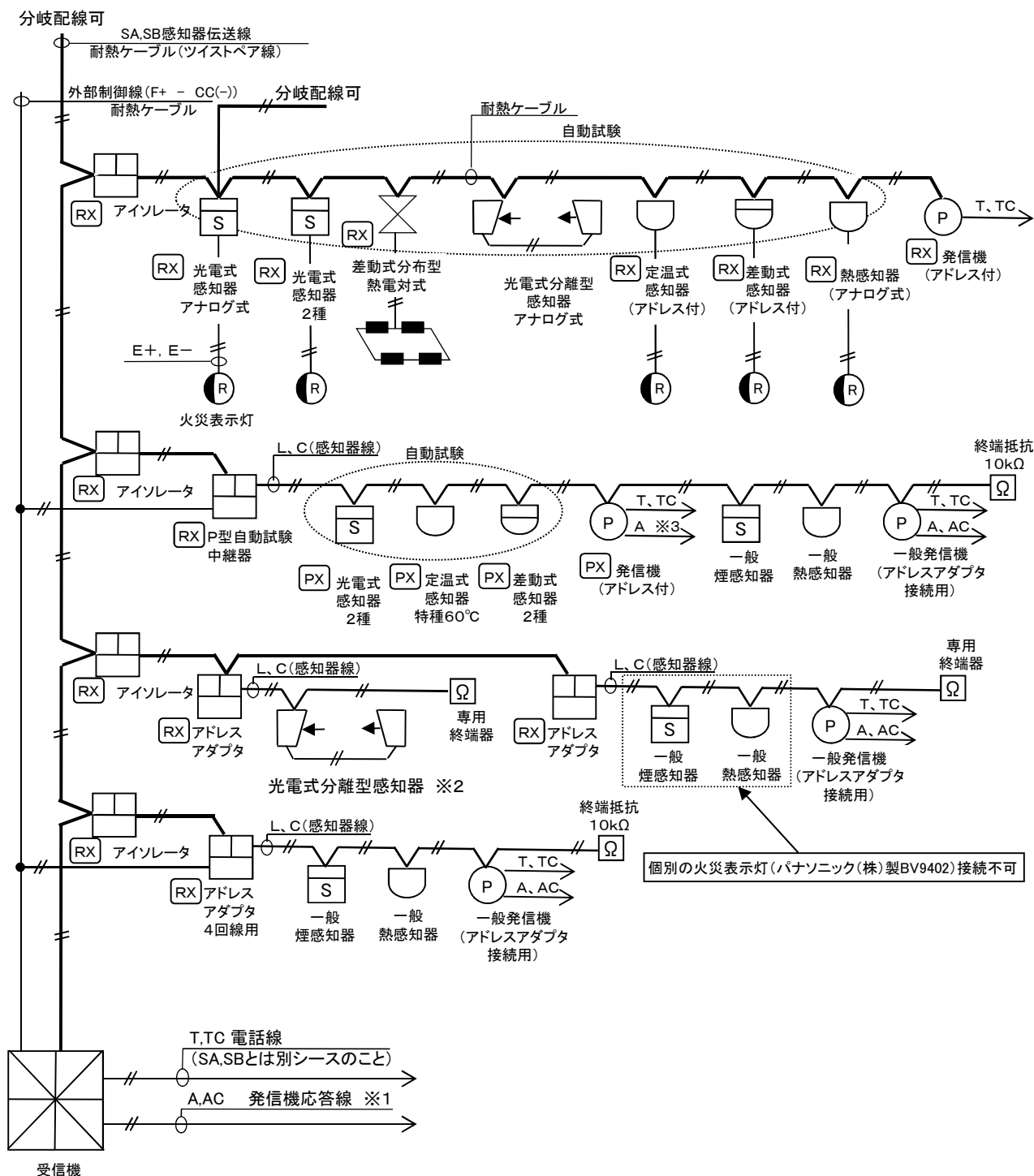
シールドの処理方法は以下にしたがって行ってください。

伝送線のシールドは、途中の中継器盤及び最終端では接地せずに、受信機にて一点アースとしてください。



7. 受信機～感知器について

7-1. 感知器配線系統圖



※1：一般発信機(アドレスアダプタ接続用)及びPX 発信機の応答線の接続は「7-3. 発信機応答線の接続について」を参照してください。

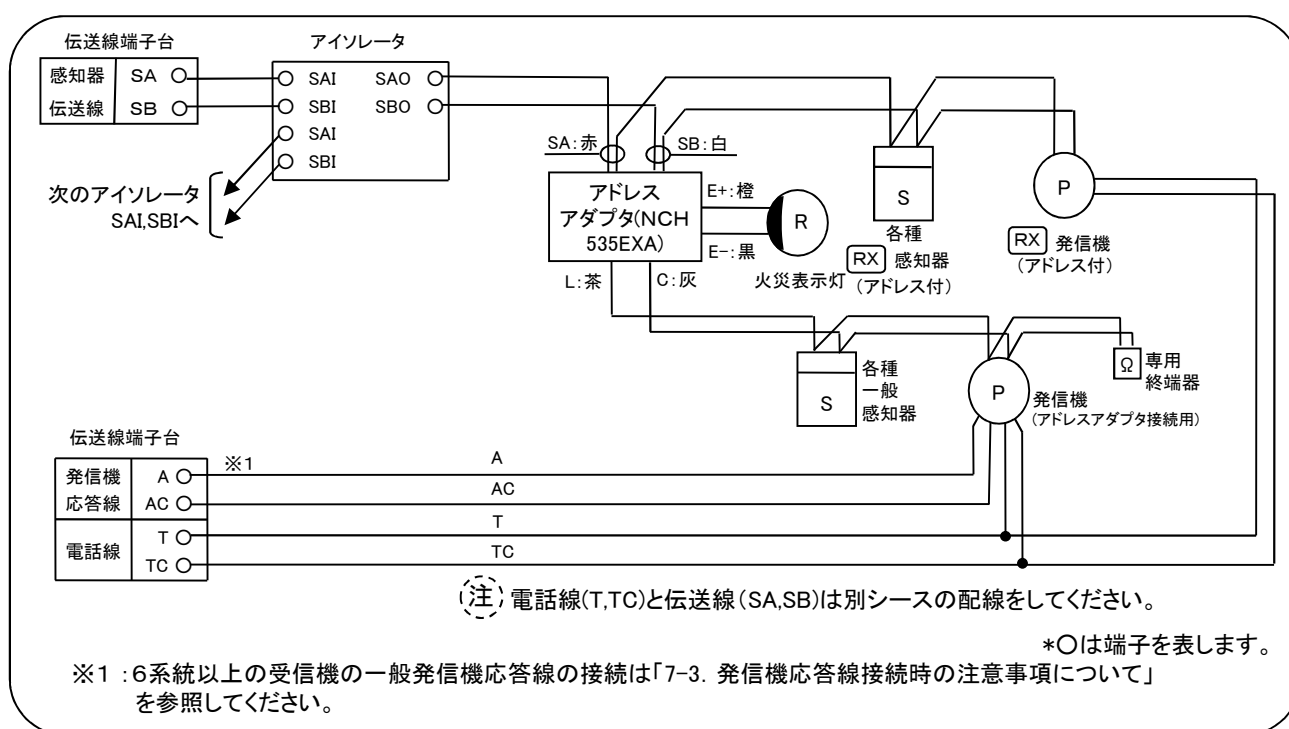
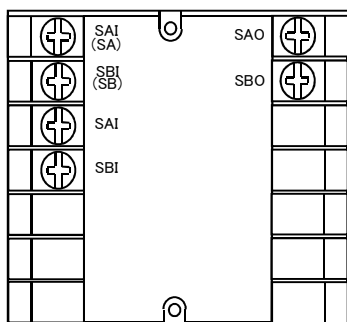
※2: **[RX]** アドレスアダプタ(NCH535EXA)を使用した場合には光電式分離型感知器のトラブル信号の検出は行えません。
光電分離型感知器のトラブル信号を検出する場合の接続方法についてはf8-11. 光電式分離型感知器の接続についてを参照してください。

※3： **〔PX〕** 発信機(NYM119CF等)を接続する場合、発信機にAC端子が無いため、受信機のAC端子とP型自動試験中継器に供給している電源のコモン(CC)端子を接続してください。
(接続方法は48ページを参照してください。)

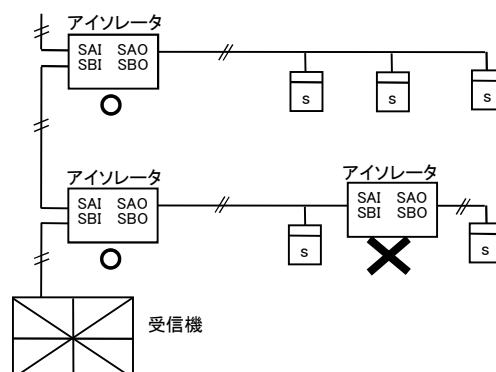
7. 受信機～感知器について

7-2. アイソレータ中継器の接続について

◆ アイソレータ中継器（NCH534EX）



(注) 短絡検出時のアイソレータ機能を損なう為、アイソレータの直列接続は行わないでください。



7. 受信機～感知器について

7-3. 発信機応答線の接続について

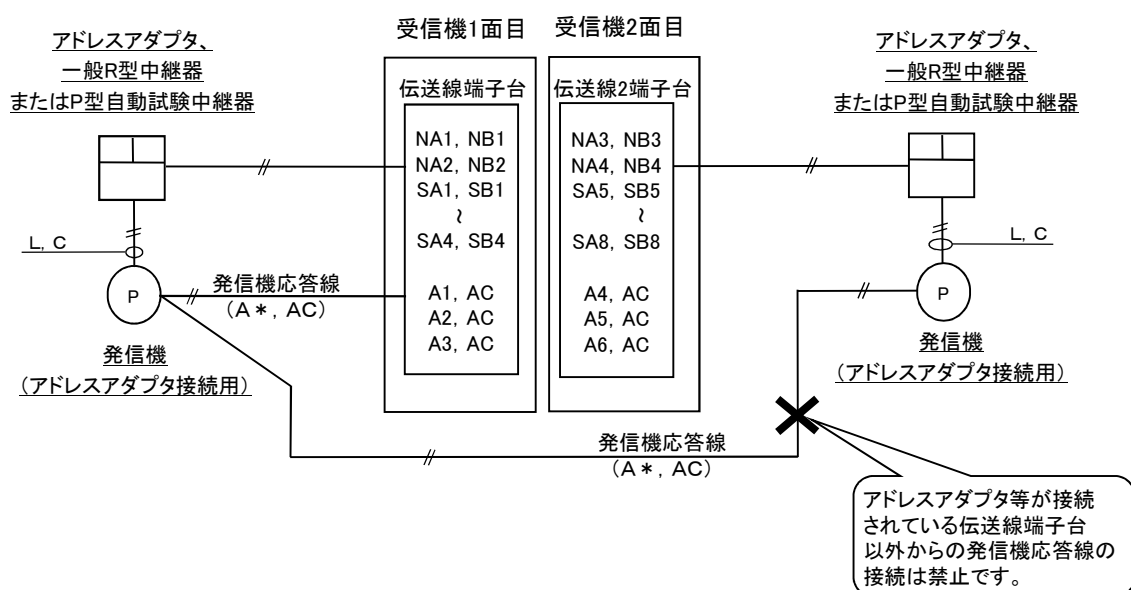
◆発信機応答線接続時の注意事項について

伝送線と発信機応答線の接続組み合わせが誤っていると、発信機の発信機発報が処理できなくなりますので、必ず、下記内容に従って、伝送線と発信機応答線を接続してください。

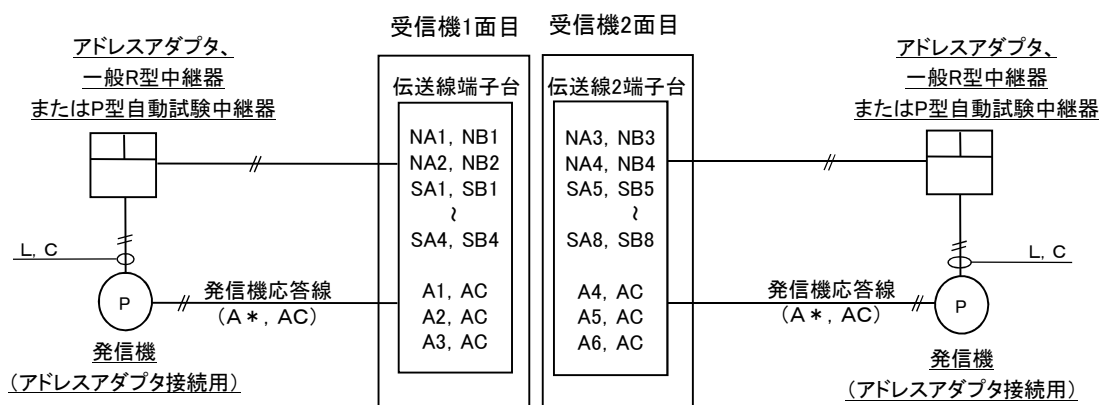
発信機応答線の接続組み合わせ

- ・受信機1面目からの感知器伝送線(SA1,SB1～SA4,SB4)、中継器伝送線(NA1,NB1・NA2,NB2)に接続されている発信機(アドレスアダプタ接続用)及び[PX] 発信機の発信機応答線は、受信機1面目内のA1,AC～A3,ACのいずれかに、接続してください。([PX] 発信機にはAC端子はありません。)
- ・受信機2面目からの感知器伝送線(SA5,SB5～SA8,SB8)、中継器伝送線(NA3,NB3・NA4,NB4)に接続されている発信機(アドレスアダプタ接続用)及び[PX] 発信機の発信機応答線は、受信機2面目内のA4,AC～A6,ACのいずれかに、接続してください。([PX] 発信機にはAC端子はありません。)

【誤った接続組み合わせの例(発信機(アドレスアダプタ接続用))】



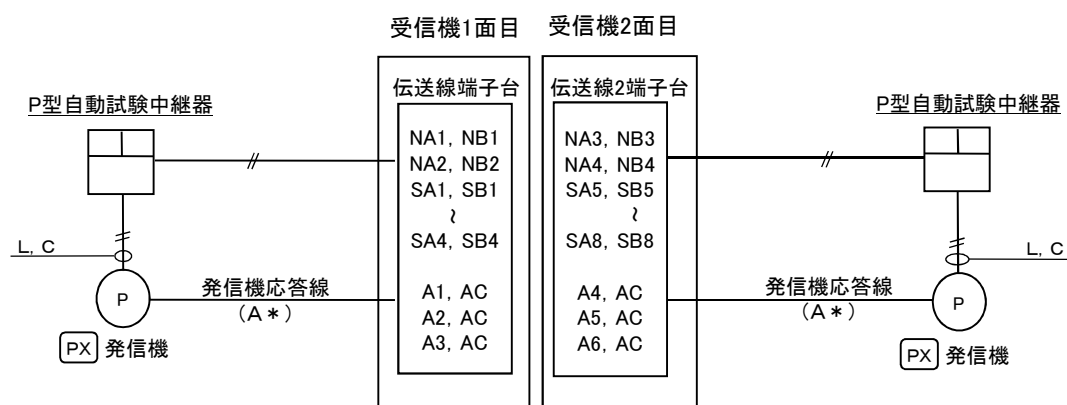
【適切な接続組み合わせの例(発信機(アドレスアダプタ接続用))】



7. 受信機～感知器について

7-3. 発信機応答線の接続について

【適切な接続組み合わせの例(☐ PX 発信機)】



- (注)
- ・ ☐ PX 発信機はP型自動試験中継器2次側にしか接続できません。
 - ・ ☐ PX 発信機(NYM119CF等)を接続する場合、発信機にAC端子が無いため、受信機のAC端子とP型自動試験中継器の電源コモン(CC)を接続してください。

◆ 発信機応答灯に対する電流制限機能の設定について

受信機の制御線端子台には、発信機応答線(A線)を接続した発信機に対する発信機応答灯の電流を制限する機能を設定する「発信機応答灯 電流制限設定SW(JP2)」があります。

(制御線端子台の配置は4-1. 内器配置図を参照してください。)

出荷時設定は電流制限「あり」の設定となっています。

受信機にP型自動試験中継器を接続する場合は、必ず出荷時設定(電流制限「あり」)のままで使用してください。

ただし、接続する発信機によっては、複数の発信機を操作した際に、発信機応答灯の明るさが若干暗くなる場合があります。

受信機にP型自動試験中継器を接続しない場合に限り、「発信機応答灯 電流制限設定SW(JP2)」を電流制限「なし」側に変更することにより、発信機応答灯の明るさを変更することが可能です。

発信機応答灯
電流制限設定SW(JP2)

☐ なし



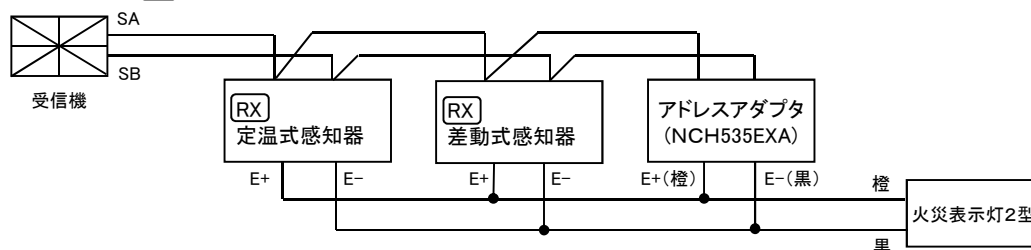
☐ あり

7. 受信機～感知器について

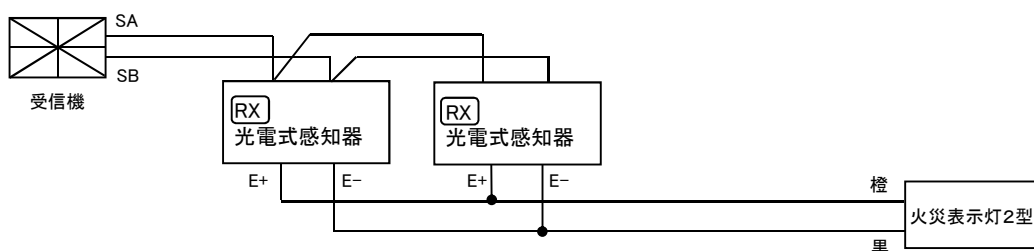
7-4. R型火災表示灯の接続について

◆ R型火災表示灯2型（パナソニック製BVR9401）

・**[RX]**定温式感知器・**[RX]**差動式感知器・アドレスアダプタ



・**[RX]**光電式感知器のみ



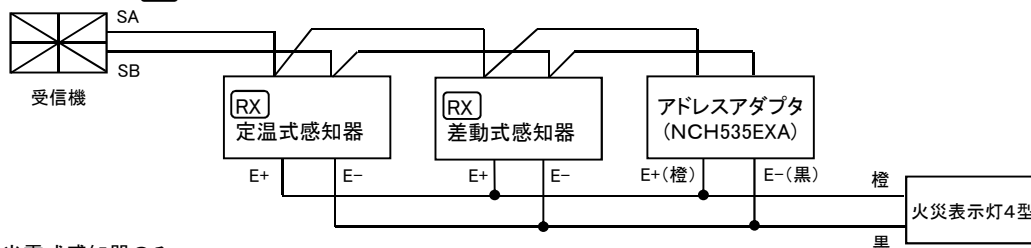
・適応感知器ベース: NSY509EH . NSY509FH

・複数の感知器で1つの火災表示灯2型を点灯することができます。

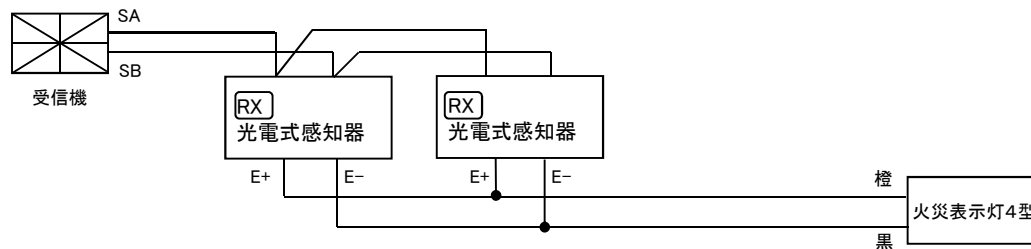
(但し、**[RX]**定温式感知器・**[RX]**差動式感知器またはアドレスアダプタ(NCH535EXA)と**[RX]**光電式感知器の混在使用はできません。)

◆ R型火災表示灯4型（パナソニック製BVR9402）

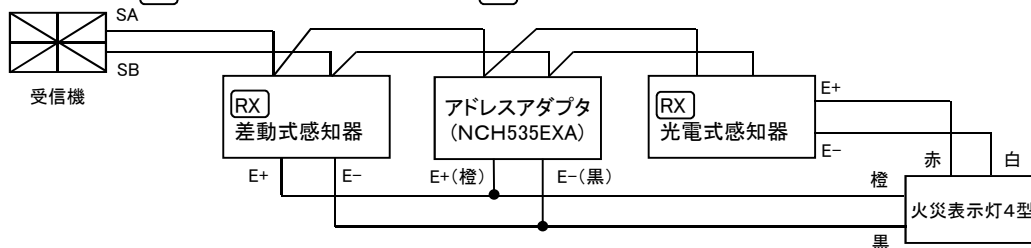
・**[RX]**定温式感知器・**[RX]**差動式感知器・アドレスアダプタ



・**[RX]**光電式感知器のみ



・**[RX]**定温式感知器・**[RX]**差動式感知器・アドレスアダプタ・**[RX]**光電式感知器の混在



・適応感知器ベース: NSY509EH . NSY509FH

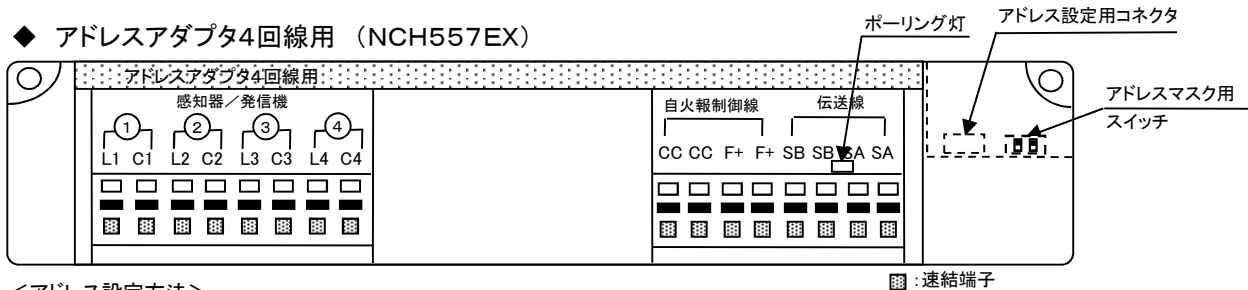
・複数の感知器で1つの火災表示灯4型を点灯することができます。

(**[RX]**定温式感知器・**[RX]**差動式感知器またはアドレスアダプタ(NCH535EXA)と**[RX]**光電式感知器との混在使用が可能です)

7. 受信機～感知器について

7-5. アドレスアダプタ4回線用の接続について

◆ アドレスアダプタ4回線用（NCH557EX）



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定用コネクタ(4P)を抜き、中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)の取扱説明書を参照してください。)
これにより設定アドレス (n) と設定アドレス+1、+2、+3 (n+1、n+2、n+3) が自動的に設定されます。
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<アドレスマスク方法>

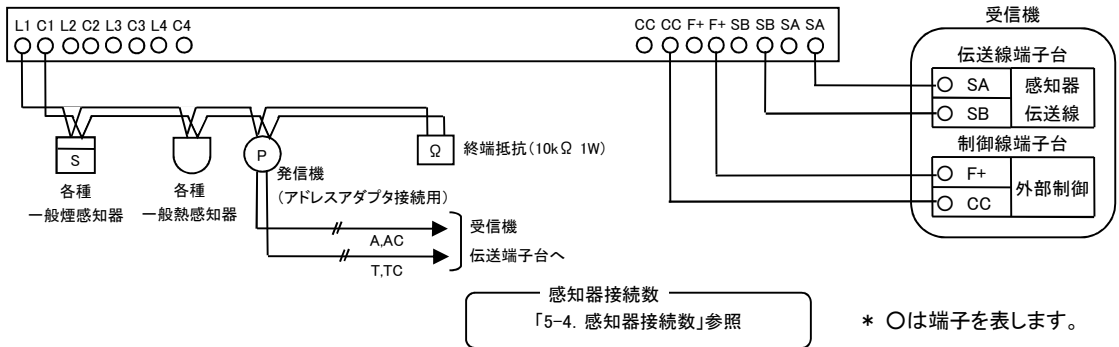
ON : 上側
OFF : 下側

アドレスマスク用 スイッチ番号		設定アドレス	対応するアドレス記入欄の番号
1 (左側)	2 (右側)		
OFF	OFF	n, n+1, n+2, n+3	n=①, n+1=②, n+2=③, n+3=④
ON	OFF	n, n+1, n+2	n=①, n+1=②, n+2=③
OFF	ON	n, n+1	n=①, n+1=②
ON	ON	n ※1	n=①

※1 : n+1、n+2、n+3のアドレスマスク設定

<接続方法>

(注) 感知器は必ず送り配線接続をし、終端抵抗 (10kΩ 1W) を接続してください。



(注)

受信機汎用電源 (F+, CC) の電流容量制限について
受信機1台あたりの一般R型中継器 (4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用の接続数が下記の式を満足しない場合は、汎用電源 (F+, CC) の容量が不足するため、別電源からの電源供給が必要となります。

$$①+②+③ \leq 700(\text{mA})$$

①一般感知器使用時の監視時消費電流(終端抵抗10kΩ時)
= 22 × (一般R型中継器 (4回線) とアドレスアダプタ4回線用の接続数)
+ 58 × (P型自動試験中継器4回線用の接続数) (mA)

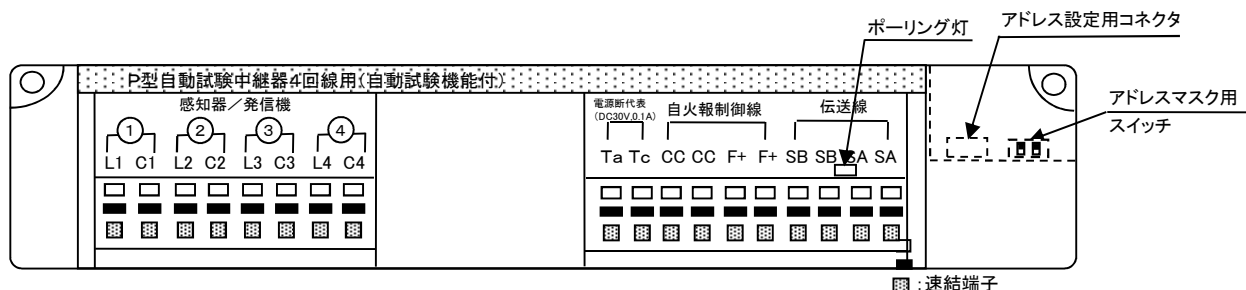
②一般感知器使用時の5回線発報時消費電流 = 215 (mA)

③一般R型中継器 (4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用以外の機器の総消費電流 (mA)

7. 受信機・～感知器について

7-6. P型自動試験中継器4回線用の接続について

◆ P型自動試験中継器4回線用（NCH573EX）



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には(F+-CC)端子への電源供給(DC24V)が必要です。

アドレス設定時には上記アドレス設定用コネクタ(4P)を抜き、中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)の取扱説明書を参照してください。)

これにより設定アドレス (n) と設定アドレス+1、+2、+3 (n+1、n+2、n+3) が自動的に設定されます。

上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<アドレスマスク方法>



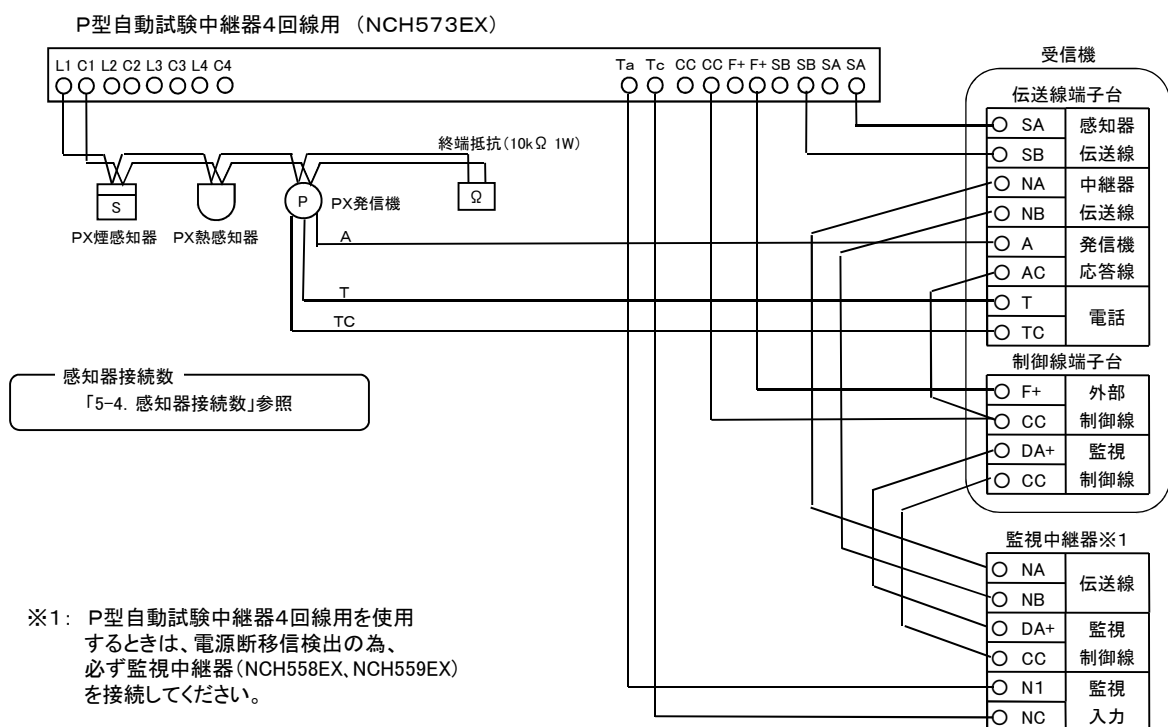
アドレスマスク用 スイッチ番号		設定アドレス	対応するアドレス記入欄の番号
1 (左側)	2 (右側)		
OFF	OFF	n, n+1, n+2, n+3	n=①, n+1=②, n+2=③, n+3=④
ON	OFF	n, n+1, n+2	n=①, n+1=②, n+2=③
OFF	ON	n, n+1	n=①, n+1=②
ON	ON	n ※1	n=①

※1 : n+1、n+2、n+3のアドレスマスク設定

7. 受信機・～感知器について

<接続方法>

- ・感知器は必ず送り配線接続をし、終端抵抗（10kΩ 1W）を接続してください。
（アドレス付終端器（NSY453）、5. 1kΩの終端抵抗等は使用できません。）
- ・P型自動試験中継器2次側の感知器コモン線を共通配線にする場合、原則、同一中継器内（最大4回線）のみにしてください。
（システム動作に影響があるため。）
- ・PX感知器、PX発信機に設定するアドレスは1～30としてください。また、PX感知器（2信号）（NSS409EG）は接続できません。
- ・PX発信機（NYM119CF等）を接続する場合、発信機にAC端子が無い場合、受信機（または）のAC端子とP型自動試験中継器の電源コモン（CC）を接続してください。



* ○は端子を表します。



受信機汎用電源（F+、CC）の電流容量制限について

受信機1台あたりの一般R型中継器（4回線）、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用の接続数が下記の式を満足しない場合は、汎用電源（F+、CC）の容量が不足するため、別電源からの電源供給が必要となります。

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} \leq 700(\text{mA})$$

$$\begin{aligned} \textcircled{1} & \text{一般感知器使用時の監視時消費電流(終端抵抗10kΩ時)} \\ & = 22 \times (\text{一般R型中継器(4回線)とアドレスアダプタ4回線用の接続数}) \\ & \quad + 58 \times (\text{P型自動試験中継器4回線用の接続数})(\text{mA}) \end{aligned}$$

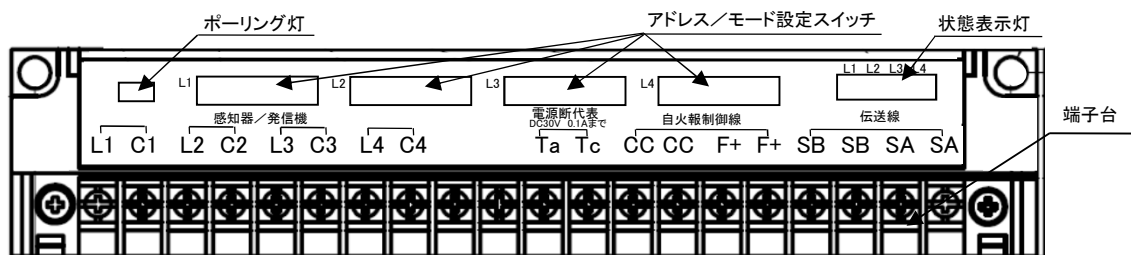
$$\textcircled{2} \text{一般感知器使用時の5回線発報時消費電流} = 215 (\text{mA})$$

$$\textcircled{3} \text{一般R型中継器(4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用以外の機器の総消費電流}(\text{mA})$$

7. 受信機～感知器について

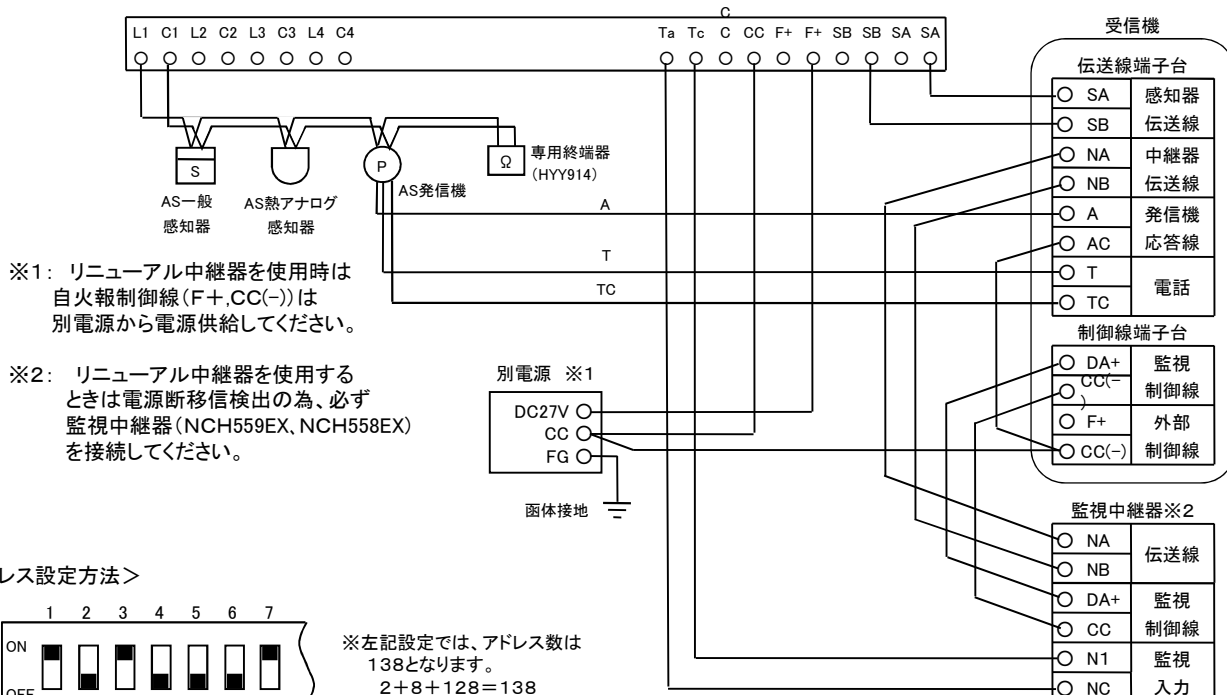
7-7. リニューアル中継器4回線用の接続について

◆ リニューアル中継器4回線用 (NCH566EX)



<接続方法>

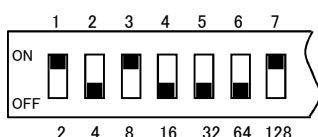
- (注)
- ・感知器は必ず送り配線接続をし、専用終端抵抗器を接続してください。
 - ・自火報制御線 (F+, CC(-)) は24V電源を切った状態で接続してください(中継器が故障することがあります)。
 - ・Ln, Cn回線は中継器への電源(24V)を切った状態で接続してください(感知器が故障することがあります)。



※1: リニューアル中継器を使用時は自火報制御線 (F+, CC(-)) は別電源から電源供給してください。

※2: リニューアル中継器を使用するときは電源断移行検出の為、必ず監視中継器 (NCH559EX, NCH558EX) を接続してください。

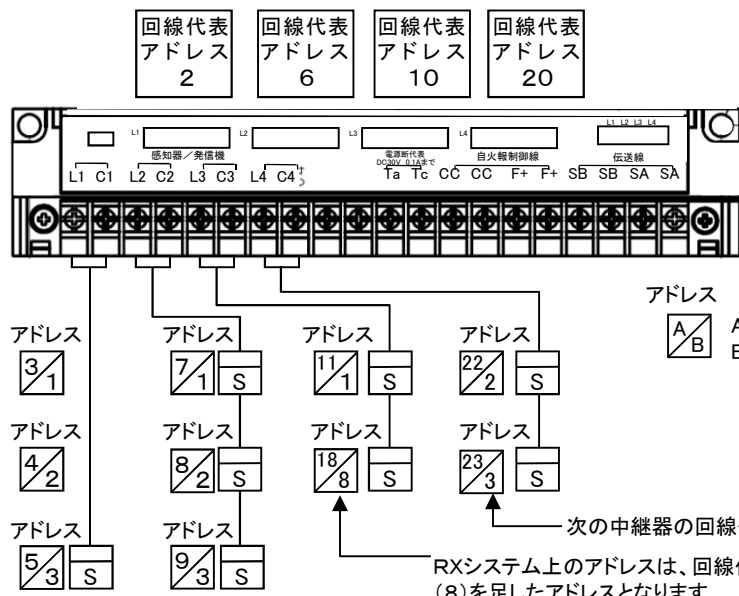
<アドレス設定方法>



※左記設定では、アドレス数は138となります。
 $2 + 8 + 128 = 138$

* ○は端子を表します。

注1) アドレスの先頭は「2」から始まることを考慮してテーブルデータ(TG)作成願います
 (アドレス1が使用できなくなります)



ひとつ前の回線の代表アドレス(10)とAS感知器アドレスの最大(8)を足した次のアドレスに設定します。
 $10 + 8 + 2 = 20$

(注意)
 奇数のアドレスを回線代表アドレスに設定できません

アドレス
 A/B
 A : RXシステム上のテーブルアドレス
 B : 感知器設定アドレス

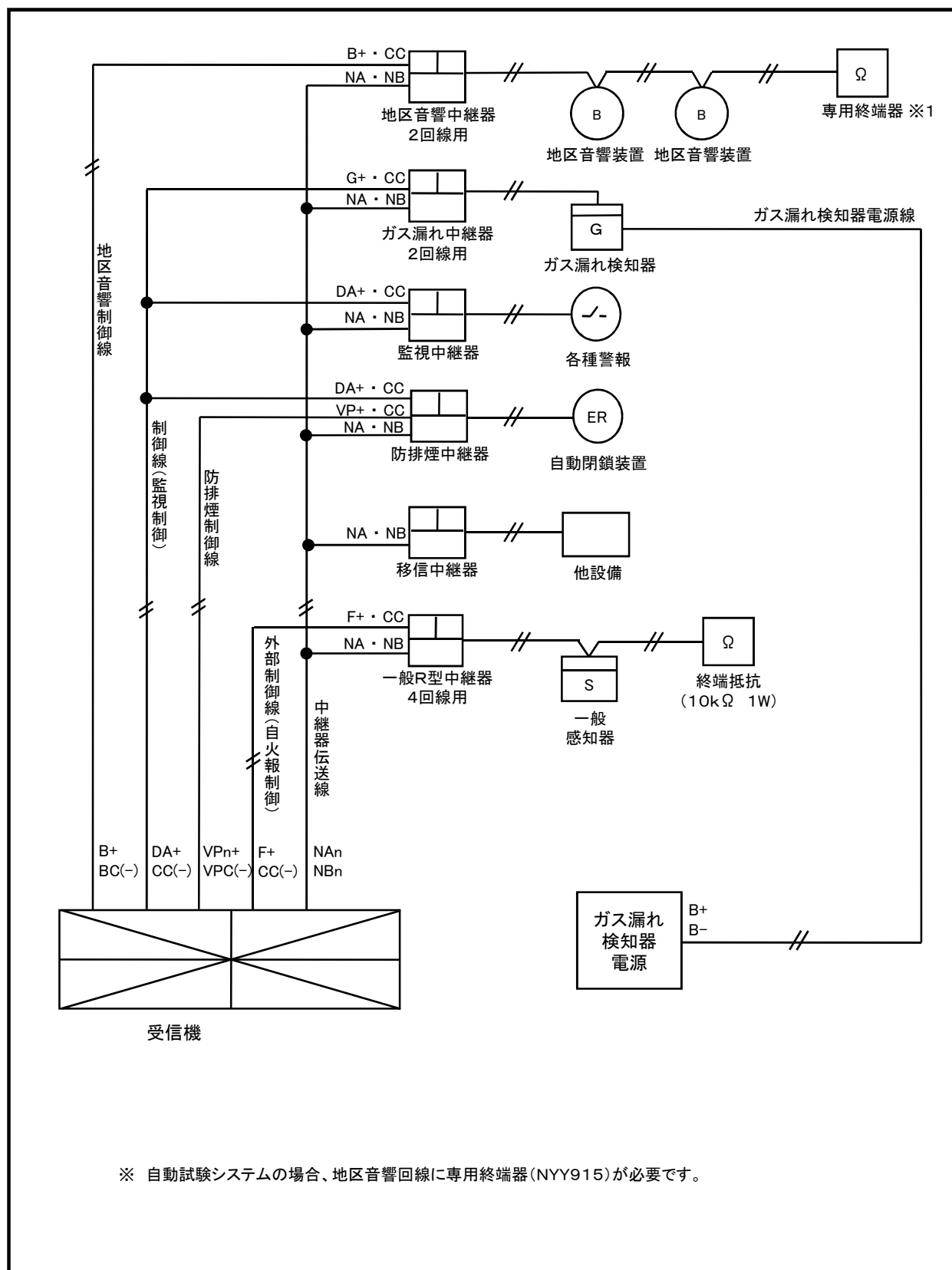
次の中継器の回線代表アドレスは、24以降としてください。
 RXシステム上のアドレスは、回線代表アドレス(10)とAS感知器アドレス(8)を足したアドレスとなります。

[illegible]

8. 受信機～中継器について

8-1. 中継器配線系統図

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。



8. 受信機～中継器について

8-2. ガス漏れ中継器2回線用の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ ガス漏れ中継器2回線用 (NCH553EX)

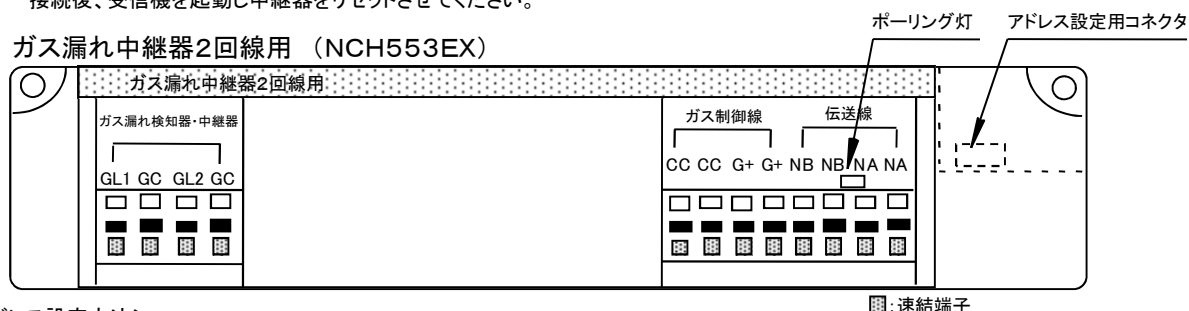


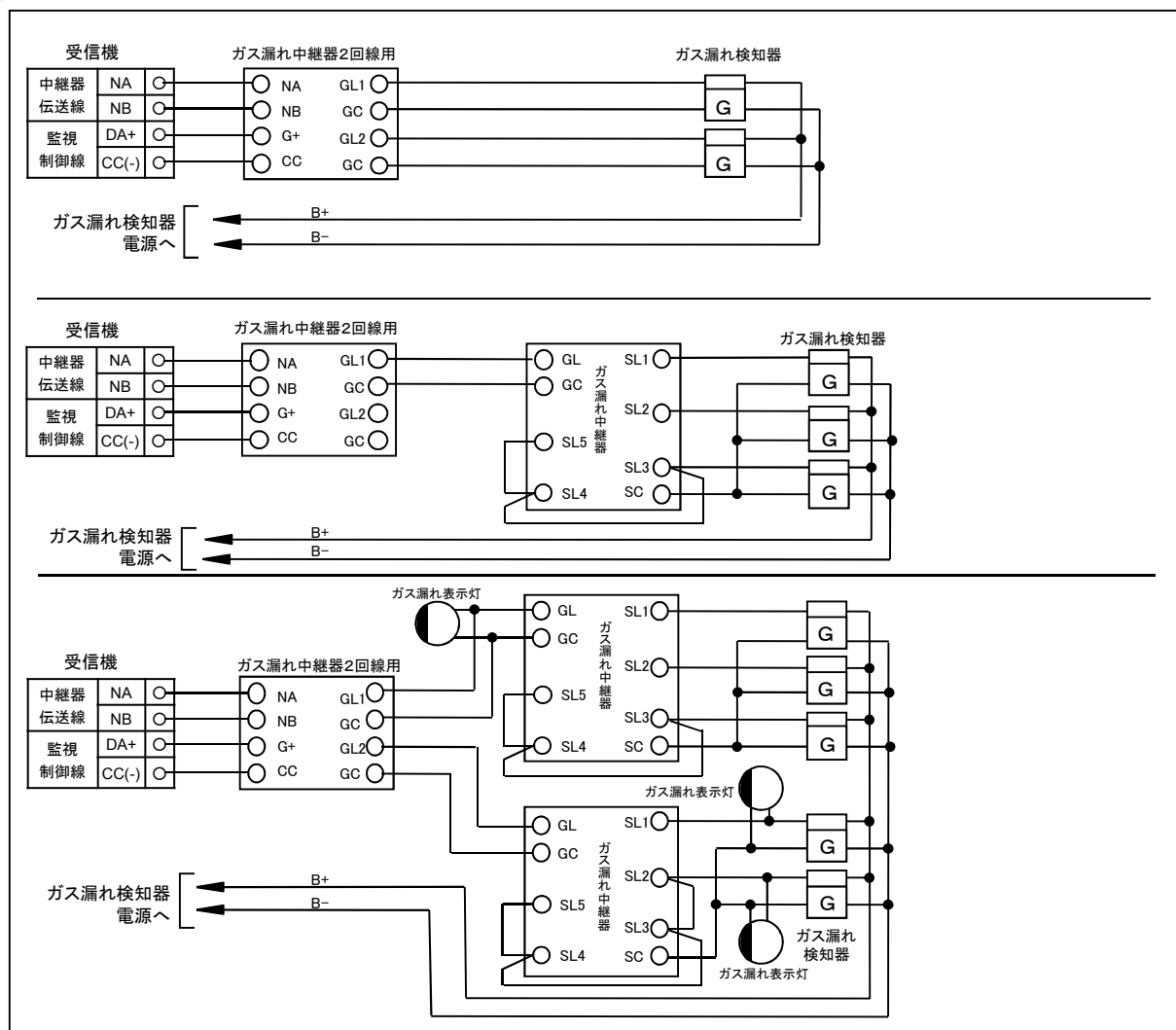
図: 連結端子

<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定用コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<接続方法>



* ○は端子を表します。

接続ガス漏れ中継器

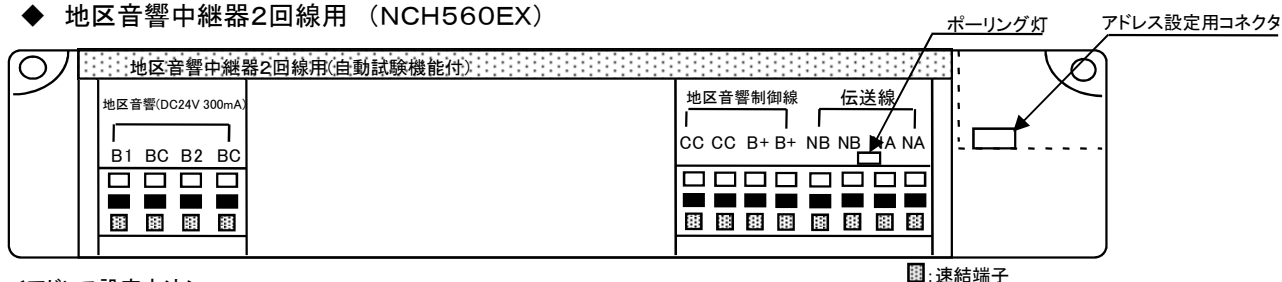
- ・ガス漏れ表示灯(NCH606FX)は検知器1個又はガス漏れ中継器1個に対して1個接続できます。
- ・ガス漏れ中継器(NCH605FX05) 1個／1回線

8. 受信機～中継器について

8-3. 地区音響中継器2回線用(自動試験機能付)の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 地区音響中継器2回線用 (NCH560EX)



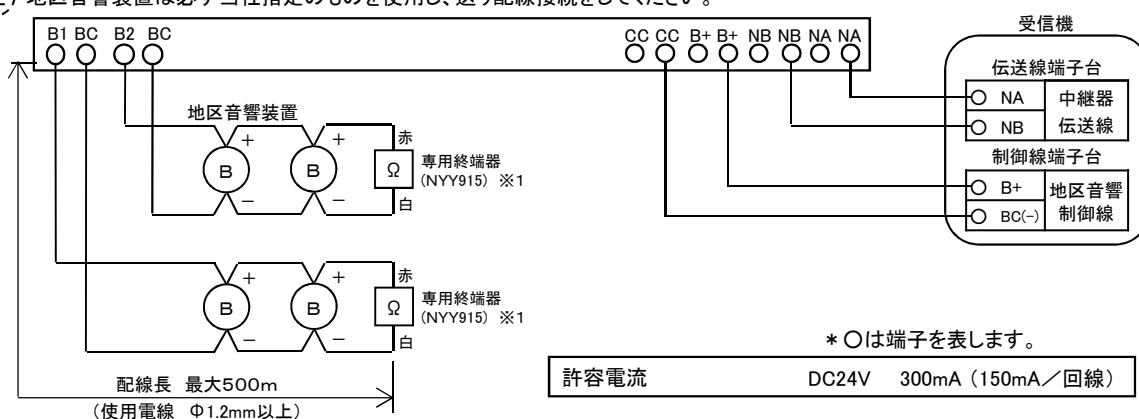
<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定用コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<接続方法>

(注) 地区音響装置は必ず当社指定のものを使用し、送り配線接続をしてください。



* ○は端子を表します。

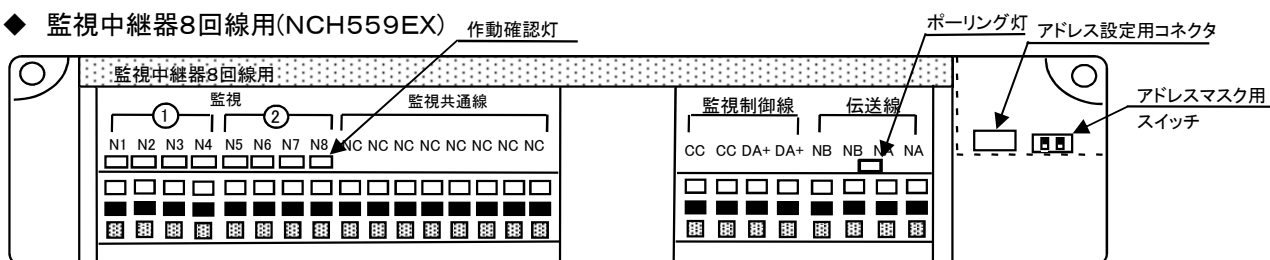
※1 自動試験システムの場合、地区音響回線に専用終端器(NYY915)が必要です。

8. 受信機～中継器について

8-4. 監視中継器の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 監視中継器8回線用(NCH559EX)



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
これにより設定アドレス(n)と設定アドレス(n+1)が自動的に設定されます。
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

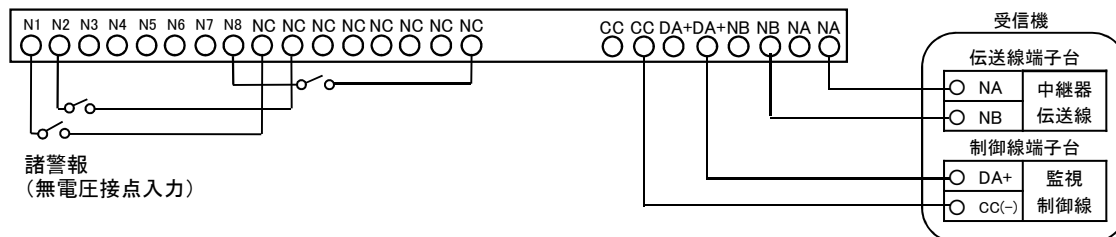
<アドレスマスク方法>

ON : 上側
OFF : 下側

アドレスマスク用 スイッチ番号		設定アドレス	対応するアドレス 記入欄の番号
1(左側)	2(右側)		
OFF	未使用	n, n+1	n=①、n+1=②
ON		n ※1	n=①

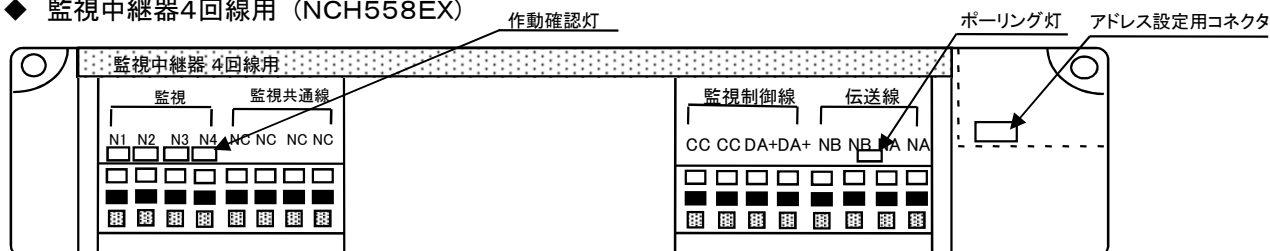
※1:n+1のアドレスマスク設定

<接続方法>



* ○は端子を表します。

◆ 監視中継器4回線用 (NCH558EX)



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<接続方法>

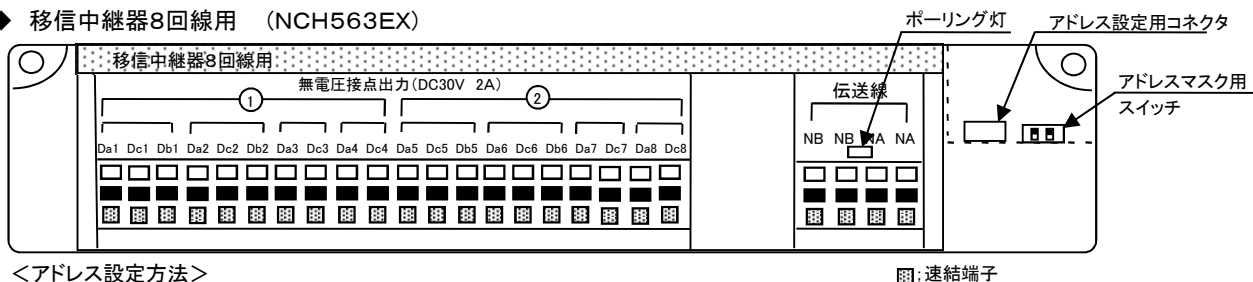
上記監視中継器8回線用を参考にしてください。

8. 受信機～中継器について

8-5. 移信中継器の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 移信中継器8回線用 (NCH563EX)



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
これにより設定アドレス(n)と設定アドレス(n+1)が自動的に設定されます。
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<アドレスマスク方法>

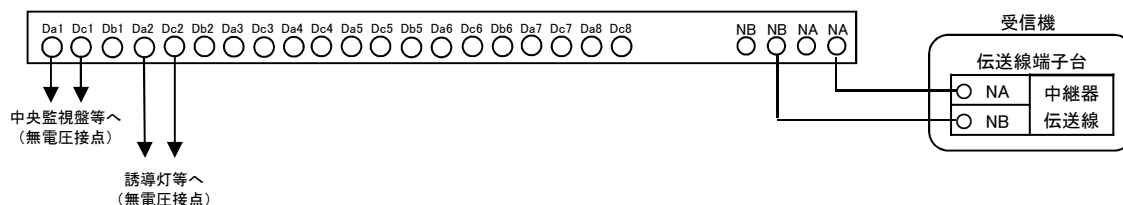


ON : 上側
OFF : 下側

アドレスマスク用 スイッチ番号		設定アドレス	対応するアドレス 記入欄の番号
1(左側)	2(右側)		
OFF	未使用	n, n+1	n=①、n+1=②
ON		n ※1	n=①

※1:n+1のアドレスマスク設定

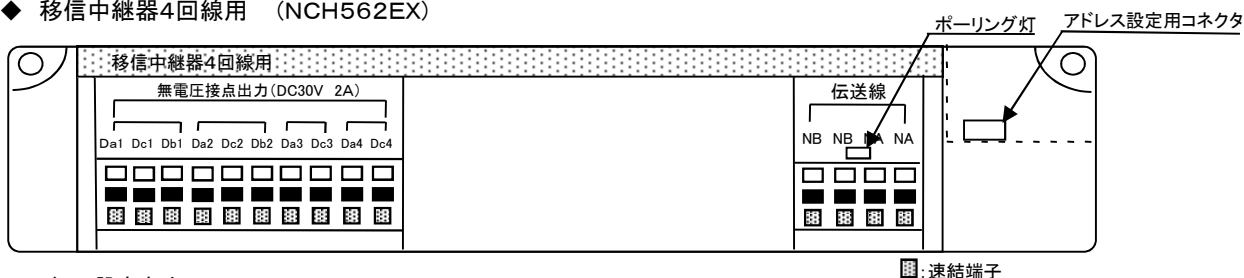
<接続方法>



* ○は端子を表します。

許容電流 DC30V 2A(無電圧接点出力)

◆ 移信中継器4回線用 (NCH562EX)



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定用コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<接続方法>

上記移信中継器8回線用を参考にしてください。

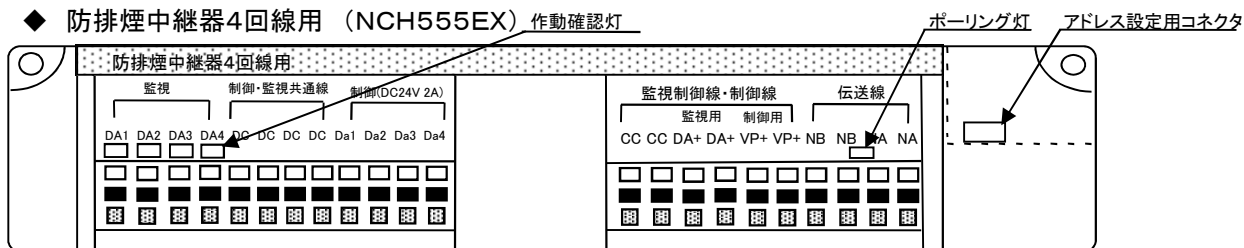
許容電流 DC30V 2A(無電圧接点出力)

8. 受信機～中継器について

8-6. 防排煙中継器4回線用の接続について

- (注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 防排煙中継器4回線用 (NCH555EX) 作動確認灯

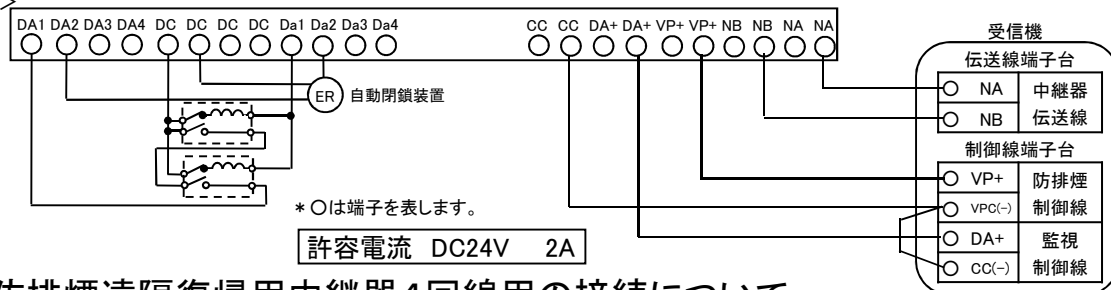


<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定用コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

- (注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

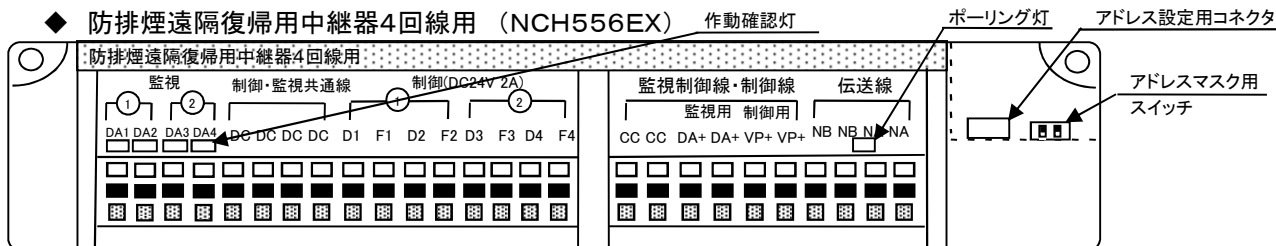
<接続方法>



8-7. 防排煙遠隔復帰用中継器4回線用の接続について

- (注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 防排煙遠隔復帰用中継器4回線用 (NCH556EX) 作動確認灯



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
これにより設定アドレス(n)と設定アドレス(n+1)が自動的に設定されます。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

- (注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

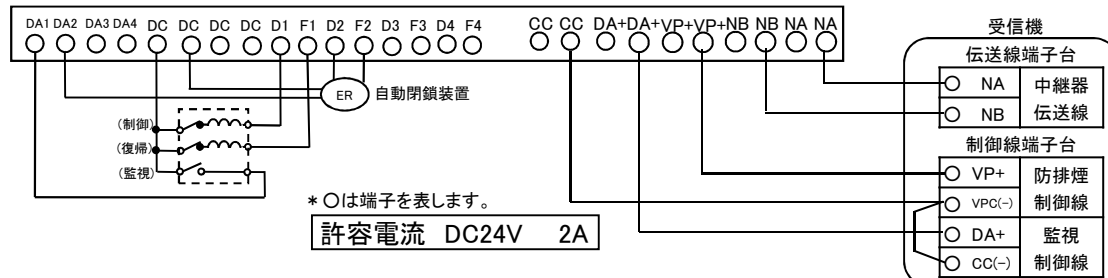
<アドレスマスク方法>

ON : 上側
OFF : 下側

アドレスマスク用 スイッチ番号		設定アドレス	対応するアドレス 記入欄の番号
1 (左側)	2 (右側)		
OFF	未使用	n, n+1	n=①、n+1=②
ON		n ※1	n=①

※1:n+1のアドレスマスク設定

<接続方法>



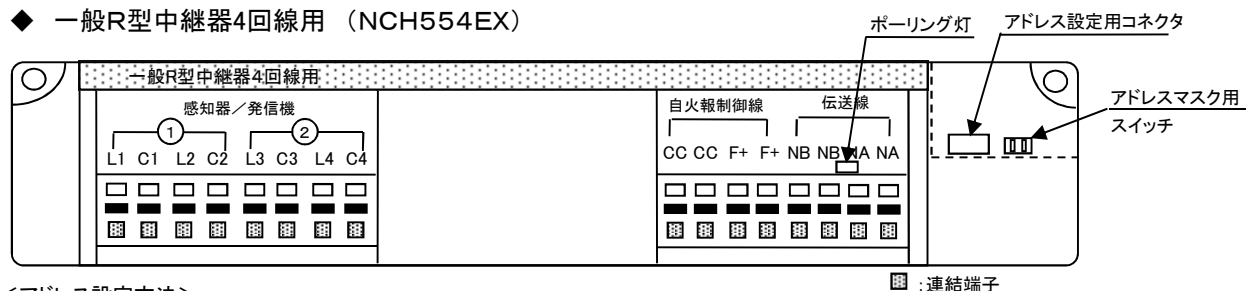
- (注) 復帰型端末に逆起防止用ダイオードが内蔵されていない場合は端末側に逆起防止用ダイオードを接続してください。

8. 受信機～中継器について

8-8. 一般R型中継器4回線用の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 一般R型中継器4回線用 (NCH554EX)



<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
これにより設定アドレス(n)と設定アドレス(n+1)が自動的に設定されます。
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<アドレスマスク方法>



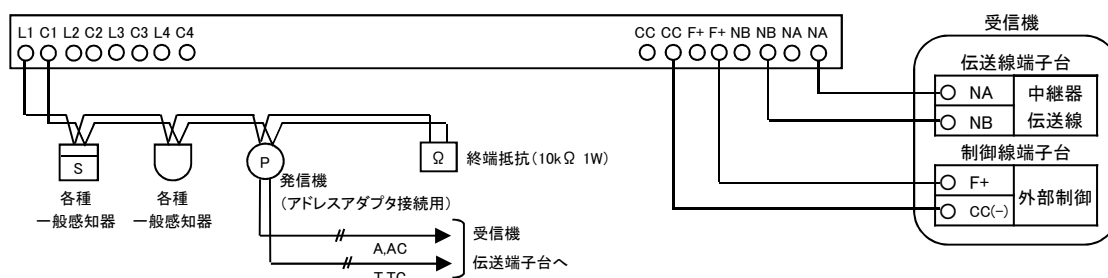
ON : 上側
OFF : 下側

アドレスマスク用 スイッチ番号		設定アドレス	対応するアドレス 記入欄の番号
1(左側)	2(右側)		
OFF	未使用	n, n+1	n=①、n+1=②
ON	未使用	n ※1	n=①

※1:n+1のアドレスマスク設定

<接続方法>

(注) 感知器は必ず送り配線接続をし、終端抵抗(10kΩ 1W)を接続してください。



* ○は端子を表します。

感知器接続個数
「5-4. 感知器接続数」参照

(注)

受信機汎用電源(F+, CC)の電流容量制限について

受信機1台あたりの一般R型中継器(4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用の接続数が下記の式を満足しない場合は、汎用電源(F+, CC)の容量が不足するため、別電源からの電源供給が必要となります。

$$①+②+③ \leq 700(\text{mA})$$

①一般感知器使用時の監視時消費電流(終端抵抗10kΩ時)
= $22 \times (\text{一般R型中継器(4回線)とアドレスアダプタ4回線用の接続数})$
+ $58 \times (\text{P型自動試験中継器4回線用の接続数})$ (mA)

②一般感知器使用時の5回線発報時消費電流=215 (mA)

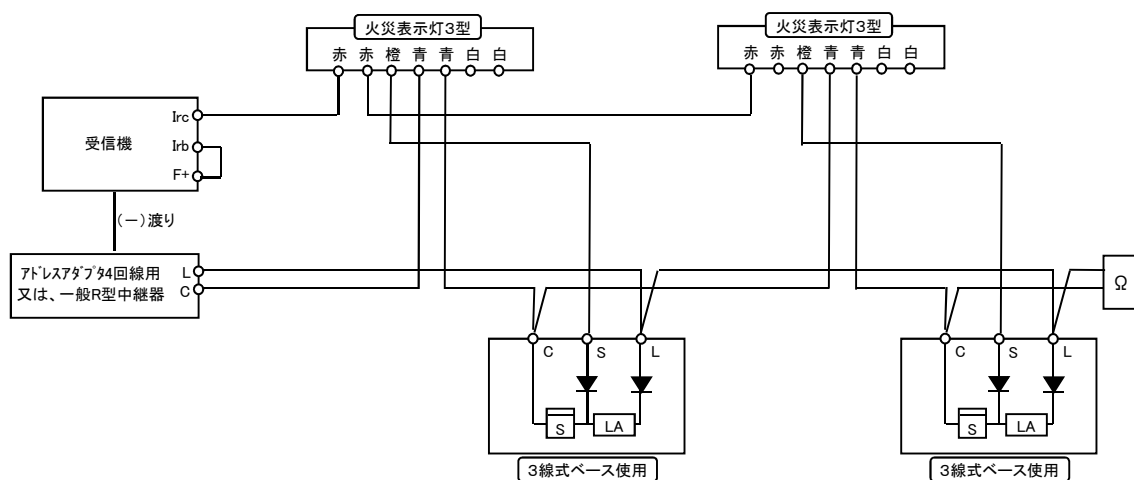
③一般R型中継器(4回線)、アドレスアダプタ4回線用、P型自動試験中継器4回線用以外の機器の総消費電流 (mA)

8. 受信機～中継器について

8-9. 火災表示灯3型の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 火災表示灯3型 (ハナソニック株製BV9403K)



* ○は端子を表します。

(注)

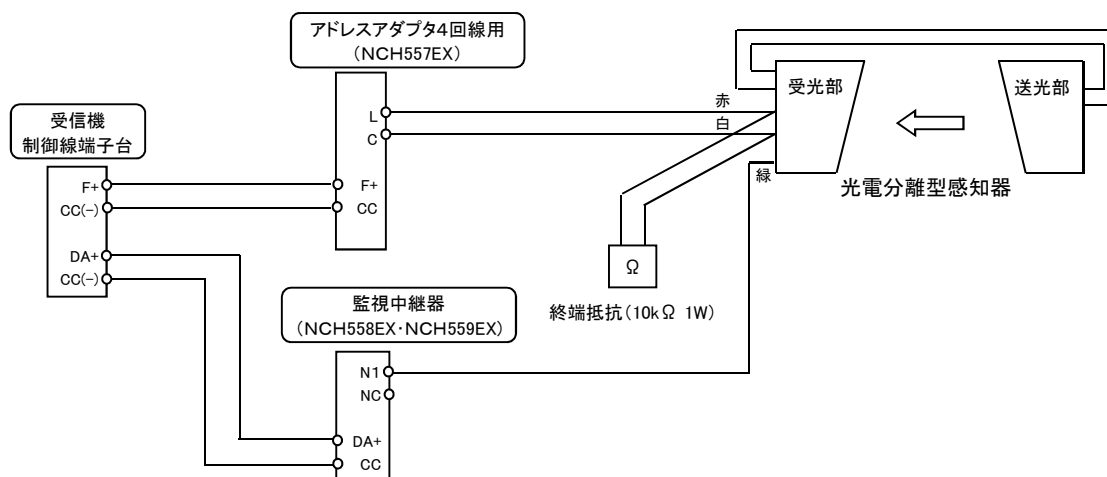
1. 従来の3線式ベース(ハナソニック株製BV4920)との混在使用はできません。
2. LAは確認灯回路を示します。
3. SとLを短絡したり極性をあやまらないでください。
4. 定温式スポット防水型の場合は3線式を使用してください。
5. 火災表示灯3型用の24V電源は、必ず受信機の火災復旧出力接点(Irb, Irco)を経由させて配線してください。
(経由させていないと、火災復旧操作時に火災表示灯が消灯しません)
6. 一般R型中継器の代わりにアドレスアダプタ4回線用が接続できます。

8. 受信機～中継器について

8-11. 光電式分離型感知器の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 光電式分離型感知器 (NSL103EX,NSL204EX)



* ○は端子を表します。

(注) 光電式分離型感知器のトラブル信号を検出する場合の注意事項

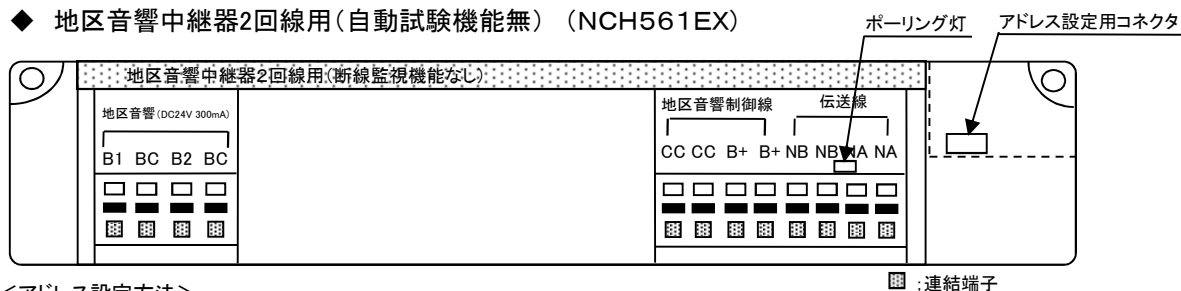
1. 外部制御線(F+・CC(-))と監視制御線(DA+・CC(-))は必ず同じ制御線端子台から接続してください。
2. アドレスアダプタ4回線用(NCH557EX)の代わりに一般R型中継器(NCH554EX)やP型自動試験中継器(NCH573EX)を使用した場合でもトラブル信号の検出ができます。
但し、アドレスアダプタ(NCH535EXA)を使用した場合は、監視中継器経由でのトラブル信号の検出はできません。
3. トラブル信号を接続した監視中継器の回線は光電式分離型感知器のトラブル信号用としてテーブル登録してください。
4. 光電分離型感知器は次のような場合にトラブル信号を出力しますが、トラブル内容の詳細は表示できません。
 - ・窓汚れがいちじるしく、清掃の必要がある場合。
 - ・内部回路に異常が発生した場合。
 - ・光軸がずれてしまった場合。

8. 受信機～中継器について

8-12. 地区音響中継器2回線用(自動試験機能無)の接続について

(注) 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

◆ 地区音響中継器2回線用(自動試験機能無) (NCH561EX)



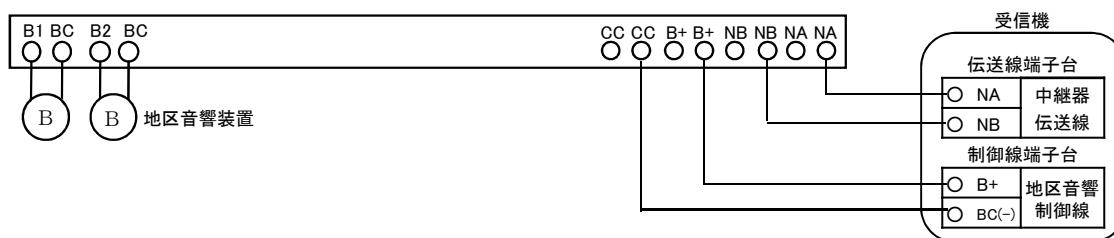
<アドレス設定方法>

アドレス設定時には上記アドレス設定コネクタ(4P)を抜き、
中継器用コードを接続してアドレス設定器(NSY452またはNSY501)にて設定してください。
(アドレス設定器(NSY452またはNSY501)取扱説明書を参照してください)
上面のアドレス記入欄に設定したアドレスを消えないように記入してください。

(注) アドレス設定後は必ず上記アドレス設定用コネクタ(4P)を確実に接続してください。

<接続方法>

(注) 地区音響装置は必ず当社指定のものを使用し、送り配線接続をしてください。



* ○は端子を表します。

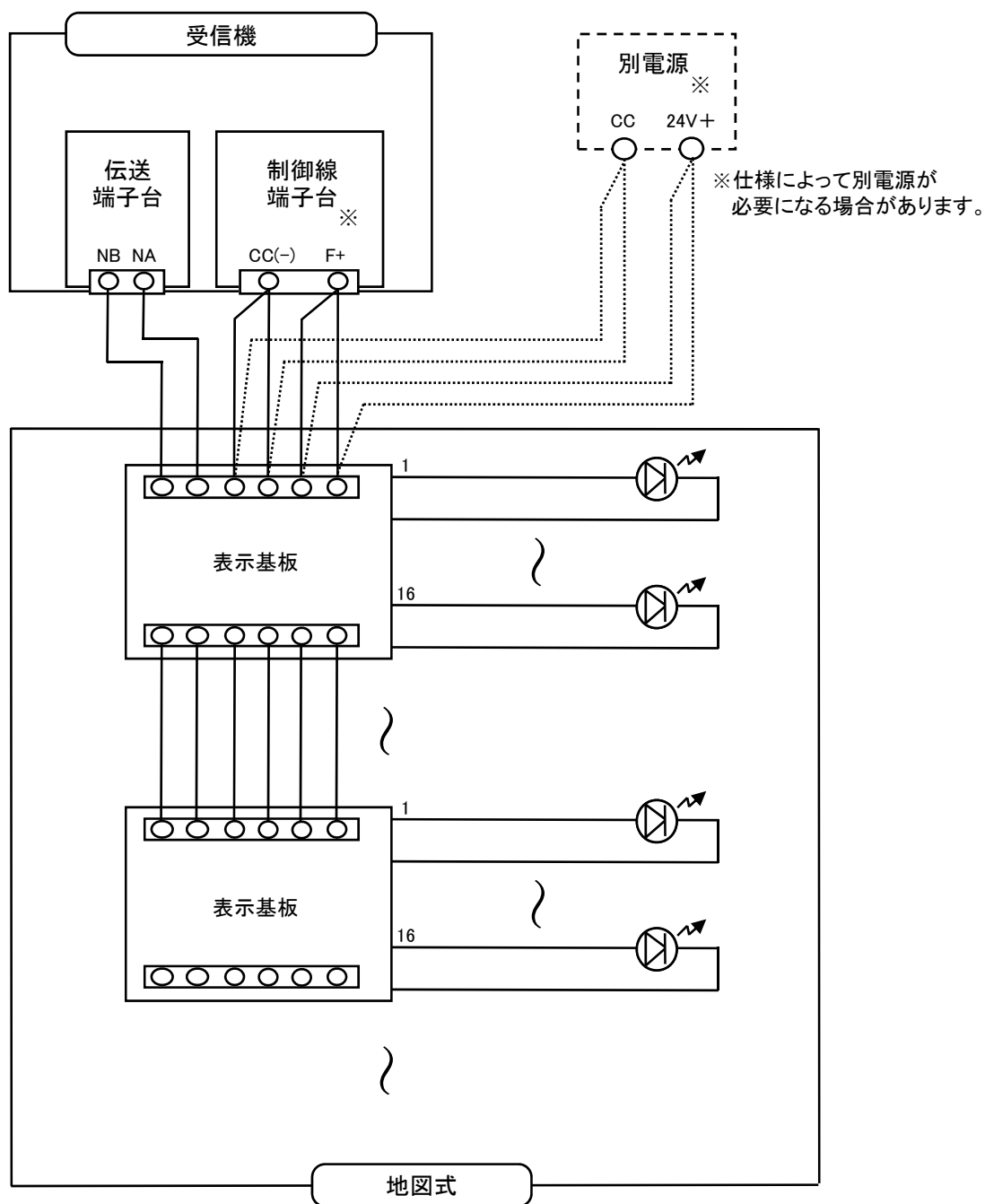
許容電流 DC24V 300mA (150mA/回線)

[illegible]

9. 受信機～周辺機器について

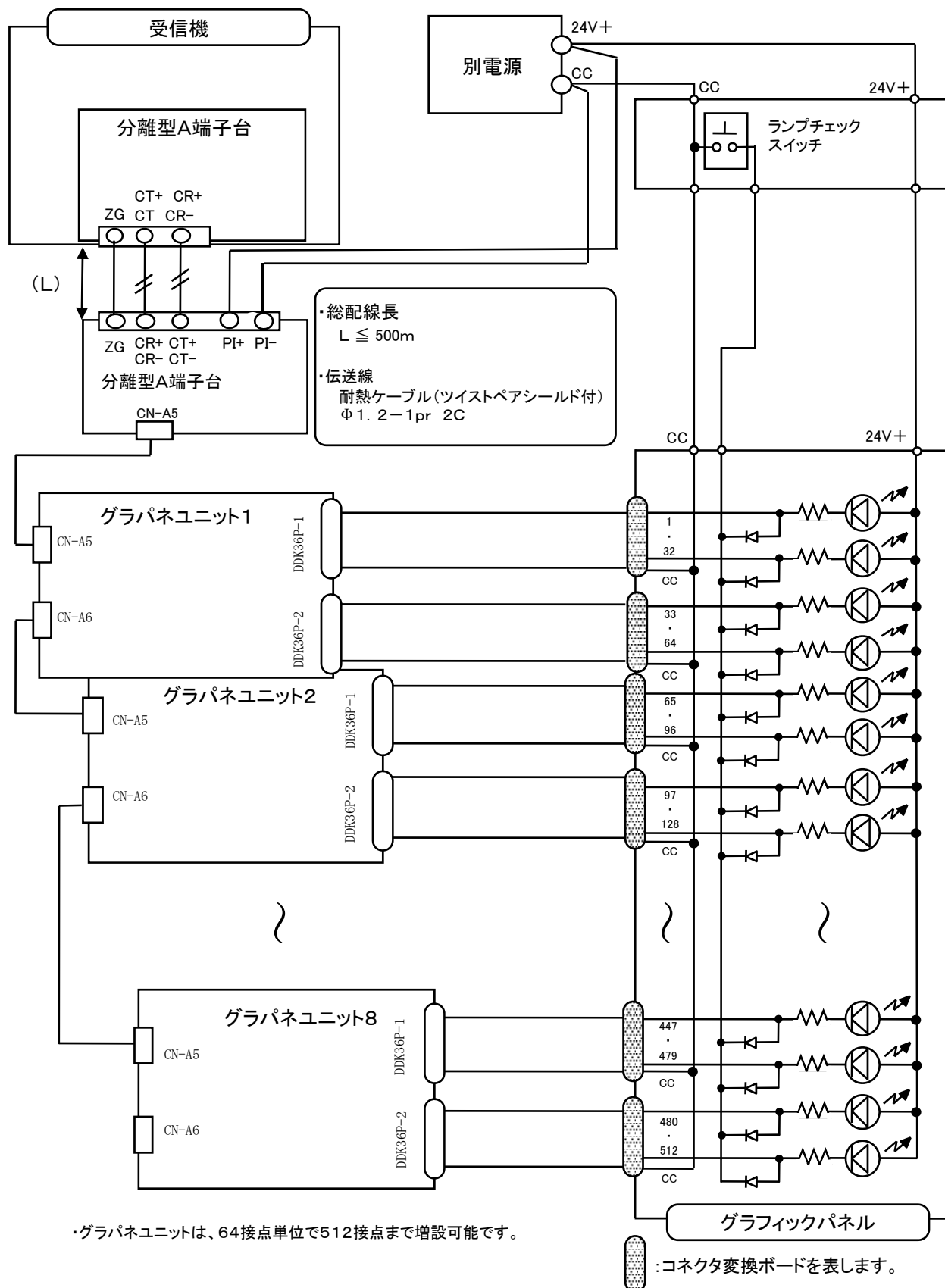
9-1. 地図式、グラフィックパネル(オプション)の接続について

9-1-1 表示基板、地図式(オプション)を使用する



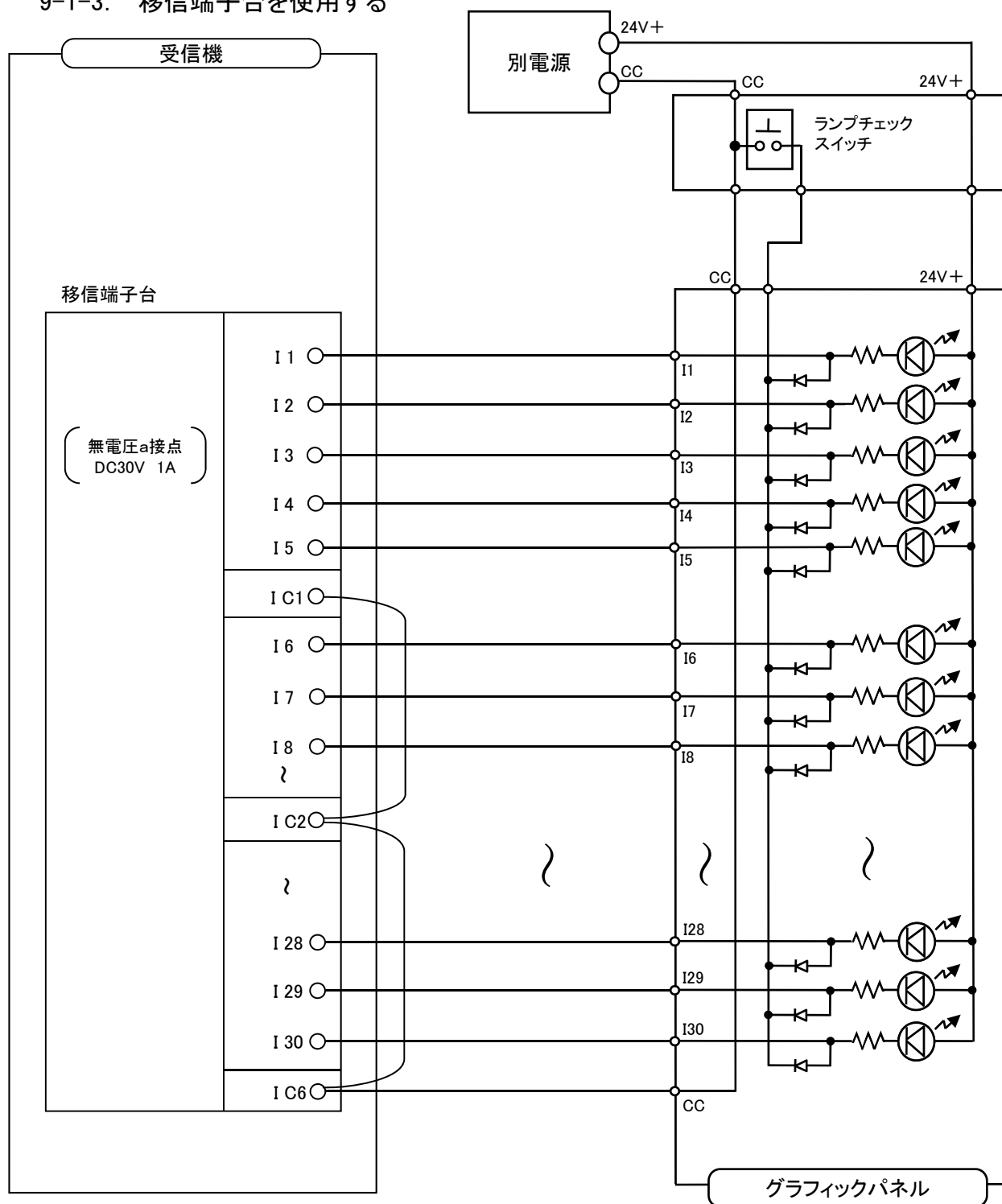
9. 受信機～周辺機器について

9-1-2. グラパネユニット(オプション)、分離型A端子台(オプション)を使用する



9. 受信機～周辺機器について

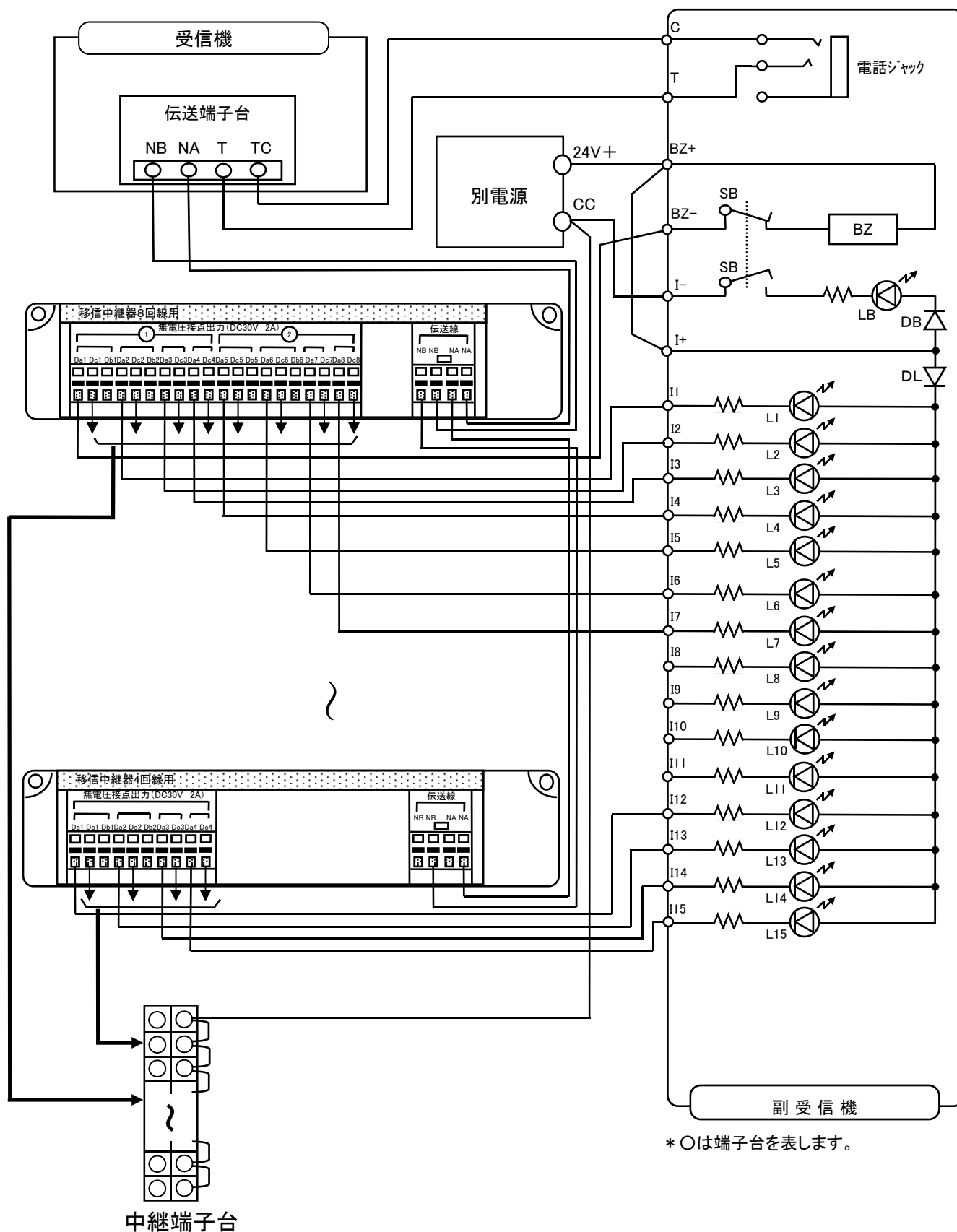
9-1-3. 移信端子台を使用する



* ○は端子台を表します。

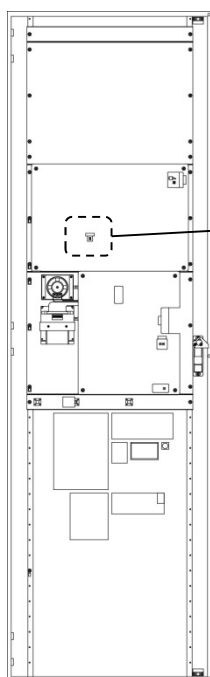
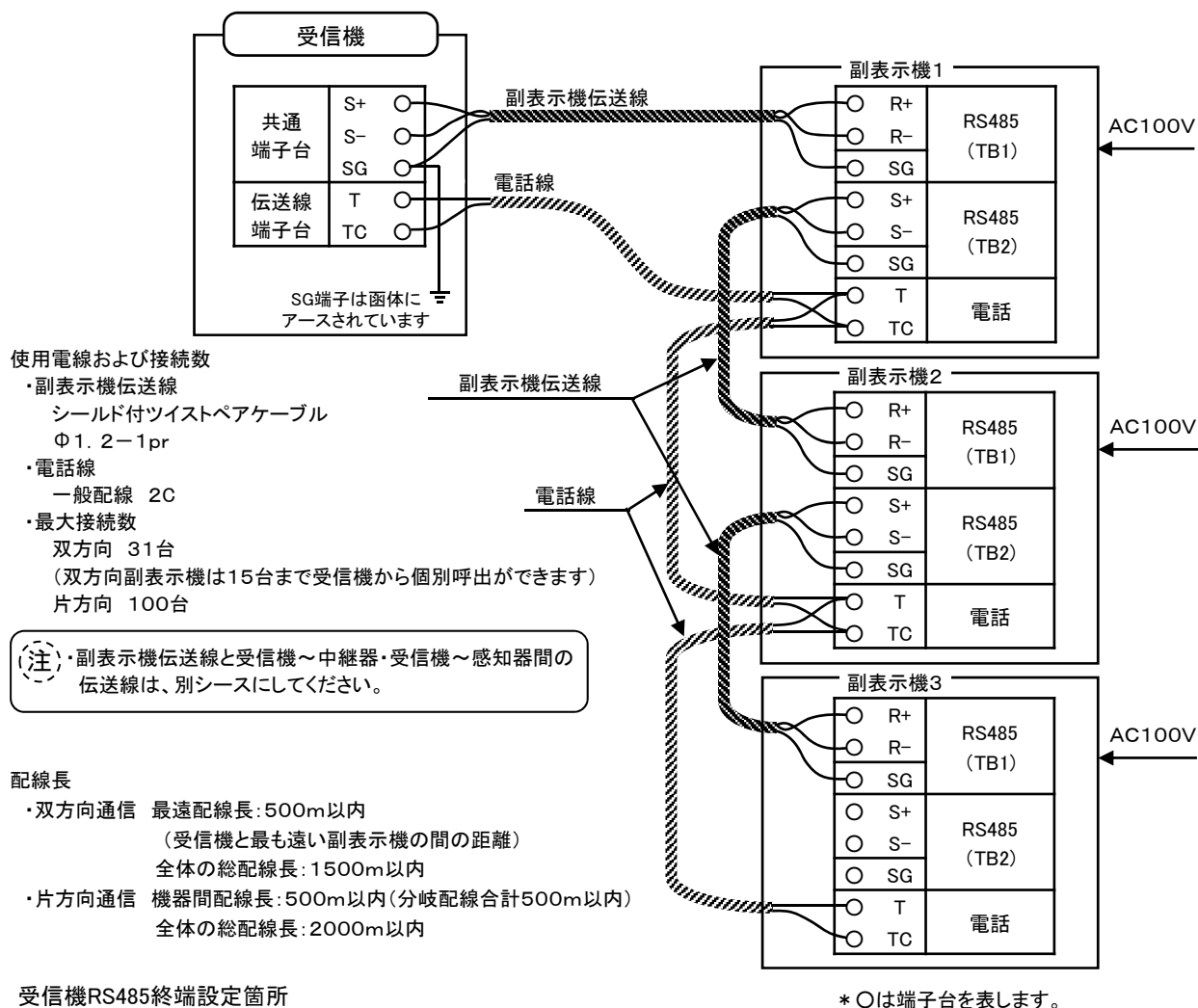
9. 受信機～周辺機器について

9-2. P型1級用副受信機の接続について

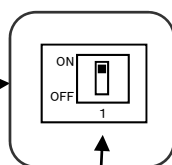


9. 受信機～周辺機器について

9-3. 副表示機の接続について



受信機扉内側図



ON(工場出荷時に設定済)

9. 受信機～周辺機器について

● 終端抵抗スイッチの設定と配線長（双方向通信の場合）

（1）双方向通信の送り配線の場合

終端抵抗スイッチの設定

□ 受信機

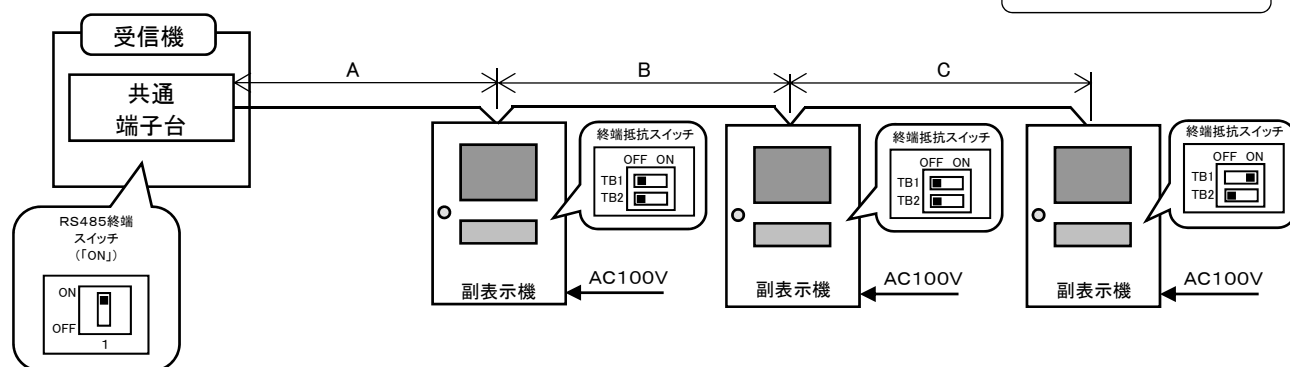
・RS485終端スイッチを「ON」側で使用してください。

□ 副表示機

・最遠でない副表示機を全てTB1・TB2を「OFF」側にし
最遠のみTB1を「ON」側にしてください。

＜配線長＞

$$A+B+C \leq 500\text{m}$$



（2）双方向通信の分岐配線の場合（3分岐まで接続できます）

終端抵抗スイッチの設定

□ 受信機

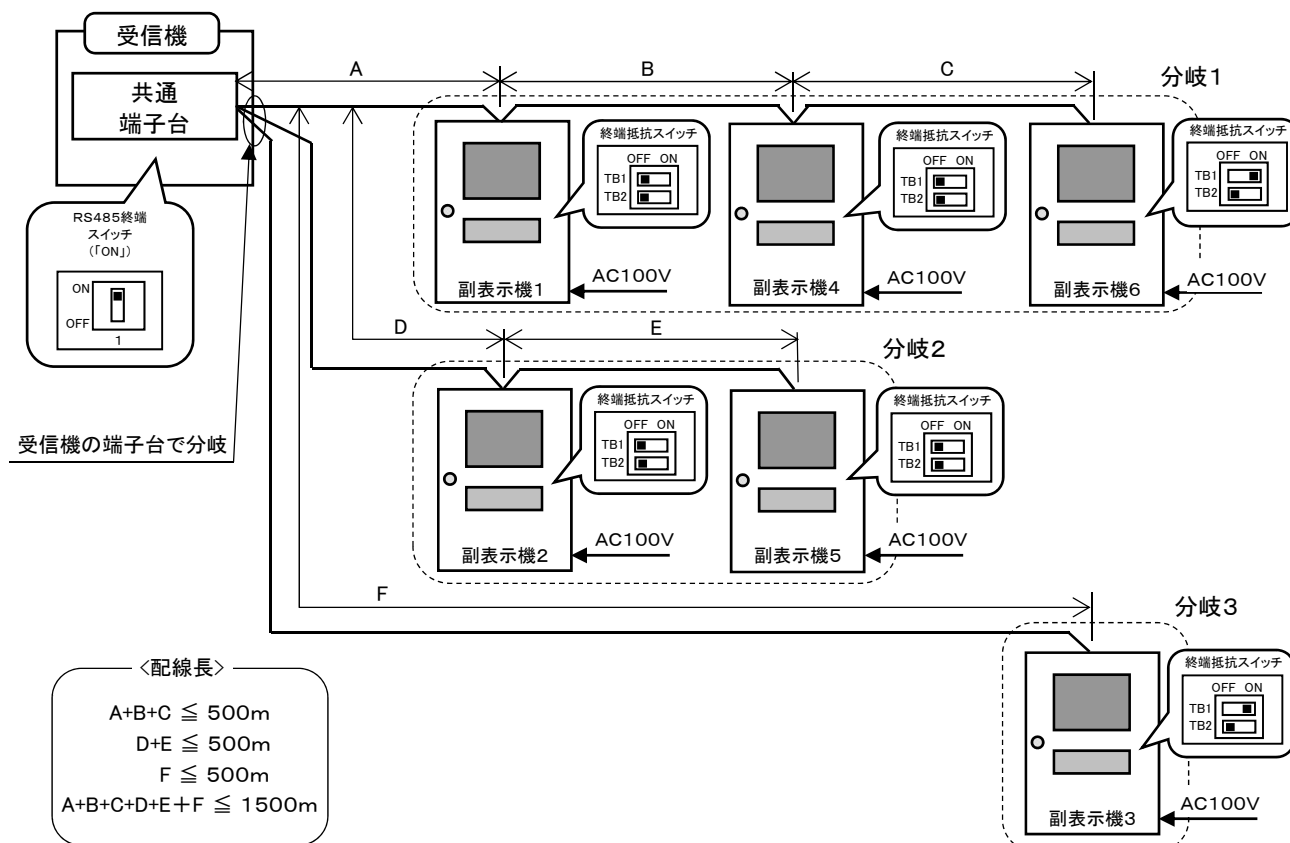
・RS485終端スイッチを「ON」側で使用してください。

□ 副表示機

・最遠配線長の副表示機2台のTB1を「ON」、TB2を「OFF」側にし、
その他の副表示機を全てTB1・TB2を「OFF」側にしてください。

例1) 受信機分岐する場合（配線長: $A+B+C > F > D+E$ ）

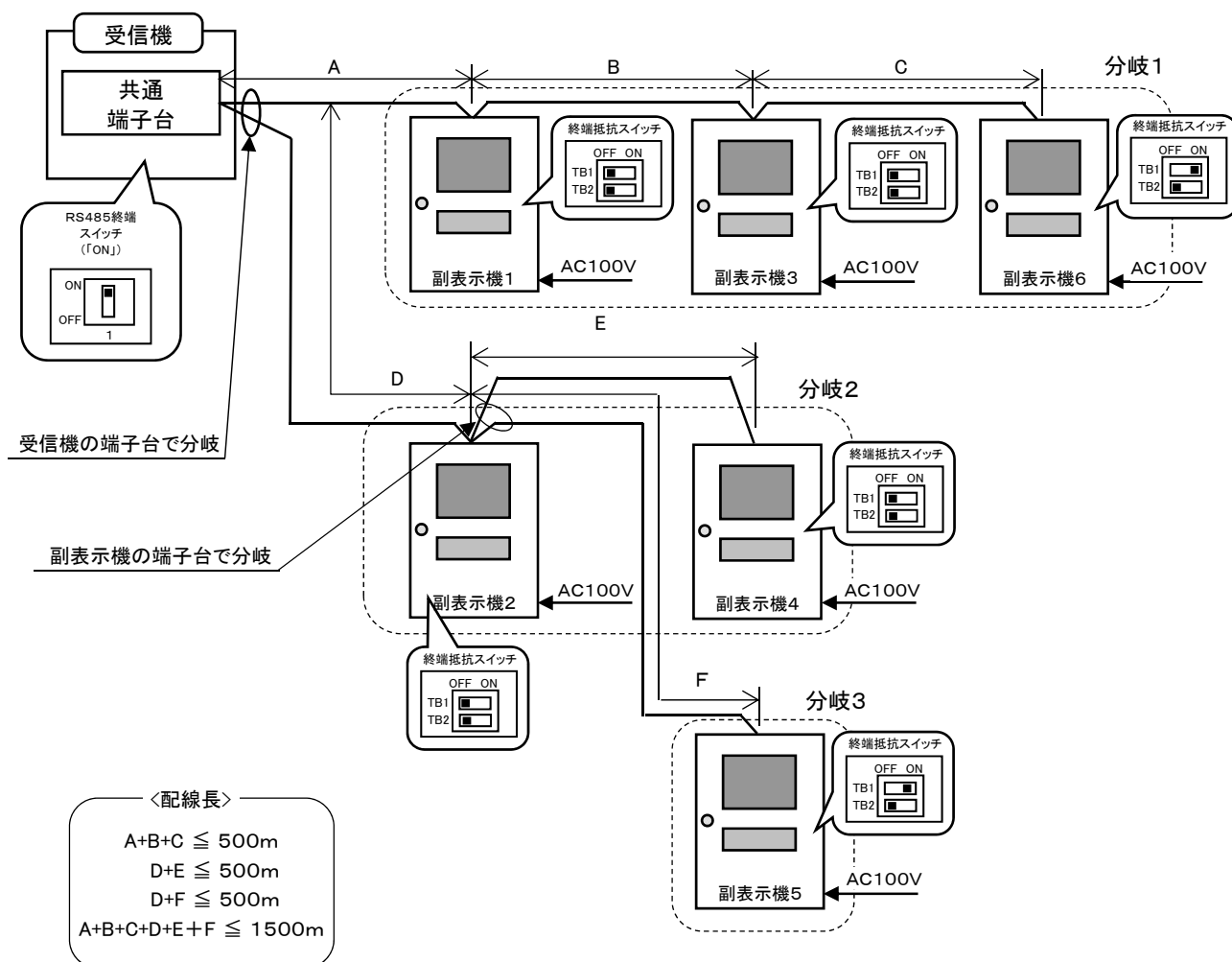
最遠長の副表示機6と副表示機3の終端抵抗スイッチと受信機のRS485終端スイッチを「ON」してください。



9. 受信機～周辺機器について

例2) 受信機と副表示機で分岐する場合 (配線長: $A+B+C > D+F > D+E$)

最遠配線長の副表示機6と副表示機5の終端抵抗スイッチと受信機のRS485終端スイッチを「ON」してください。

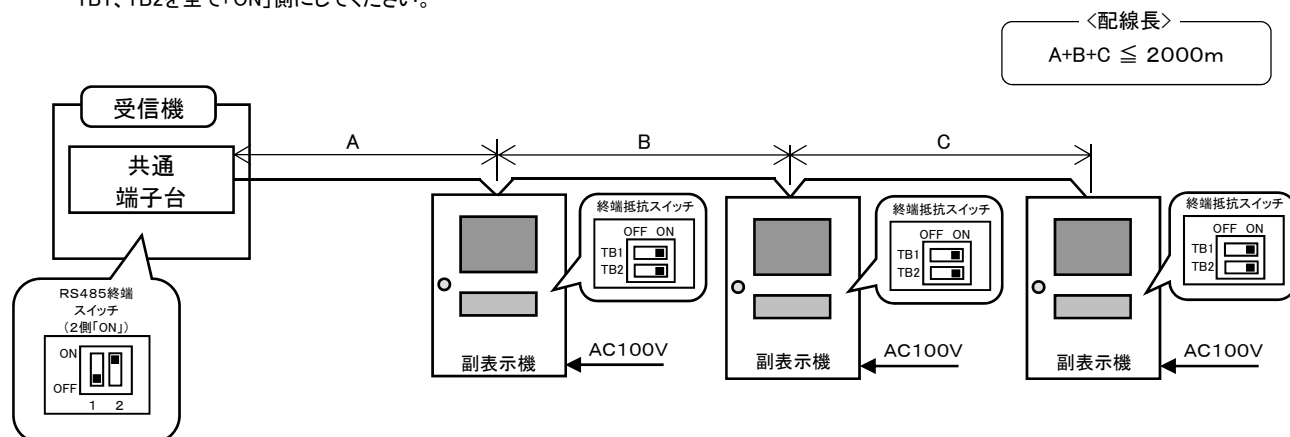


● 終端抵抗スイッチの設定と配線長（片方向通信の場合）

(1) 片方向通信の送り配線の場合

終端抵抗スイッチの設定

- ☐受信機
RS485終端スイッチを「ON」側で使用してください。
- ☐副表示機
TB1、TB2を全て「ON」側にしてください。



9. 受信機～周辺機器について

(2) 片方向通信の分岐配線の場合

終端抵抗スイッチの設定

□受信機

・RS485終端スイッチを「ON」側で使用してください。

□副表示機

・全ての副表示機のTB2を「ON」側にしてください。

・受信機及び副表示機からの分岐配線で最遠(配線長が長い)

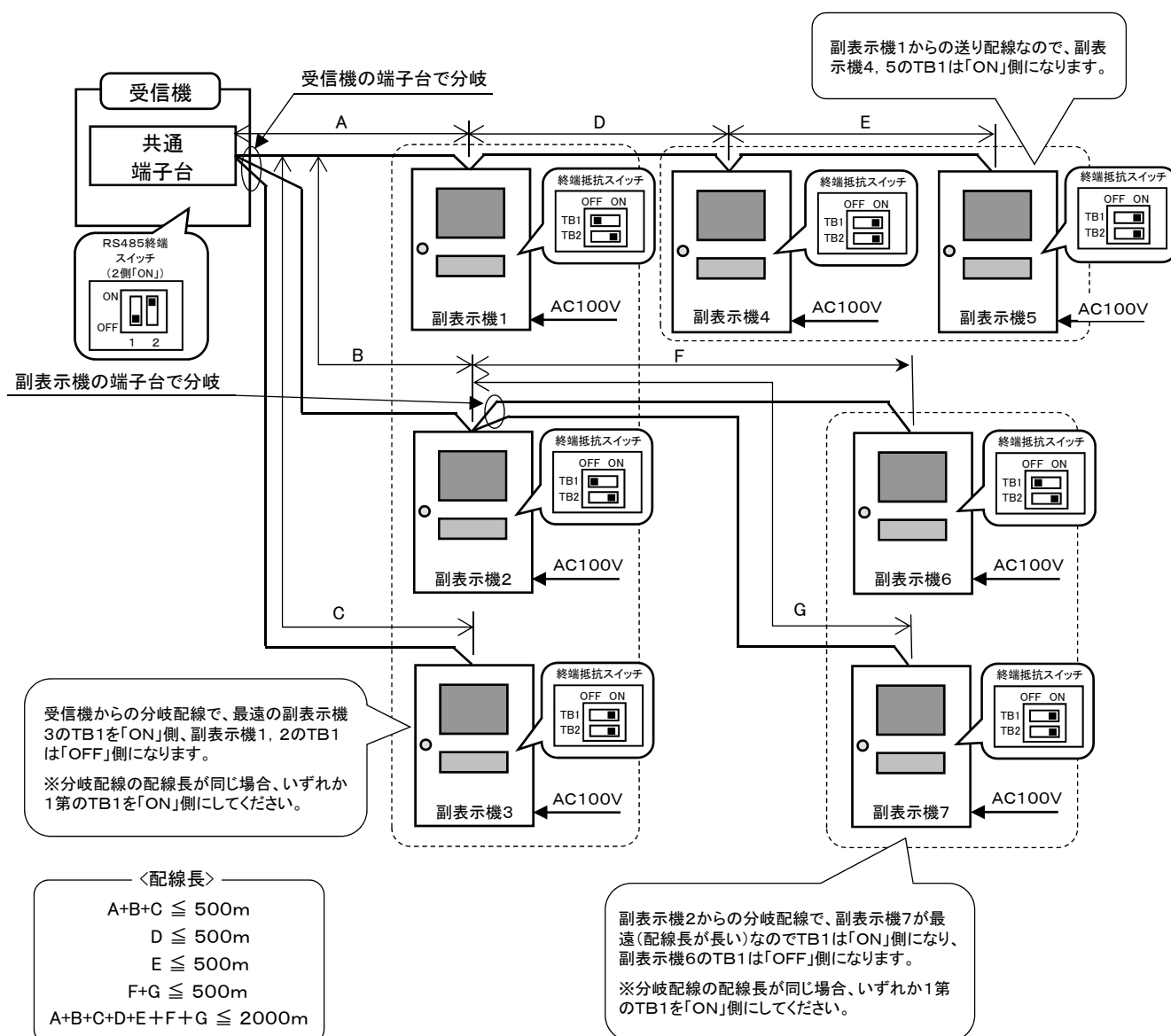
の副表示機の終端抵抗スイッチTB1を「ON」側にし、同分岐内の他の副表示機のTB1は「OFF」側にしてください。

・受信機及び副表示機からの配線が分岐されていない(送り配線)の場合は、接続副表示機のTB1は「ON」側にしてください。

※分岐配線の配線長が同じ場合、いずれか1台のTB1を「ON」側にしてください。

例) 受信機と副表示機で分岐する場合 (配線長: $A < B < C$, $F < G$)

各分岐で最遠長の副表示機の終端抵抗スイッチ[TB1]と受信機のRS485終端スイッチを「ON」してください。



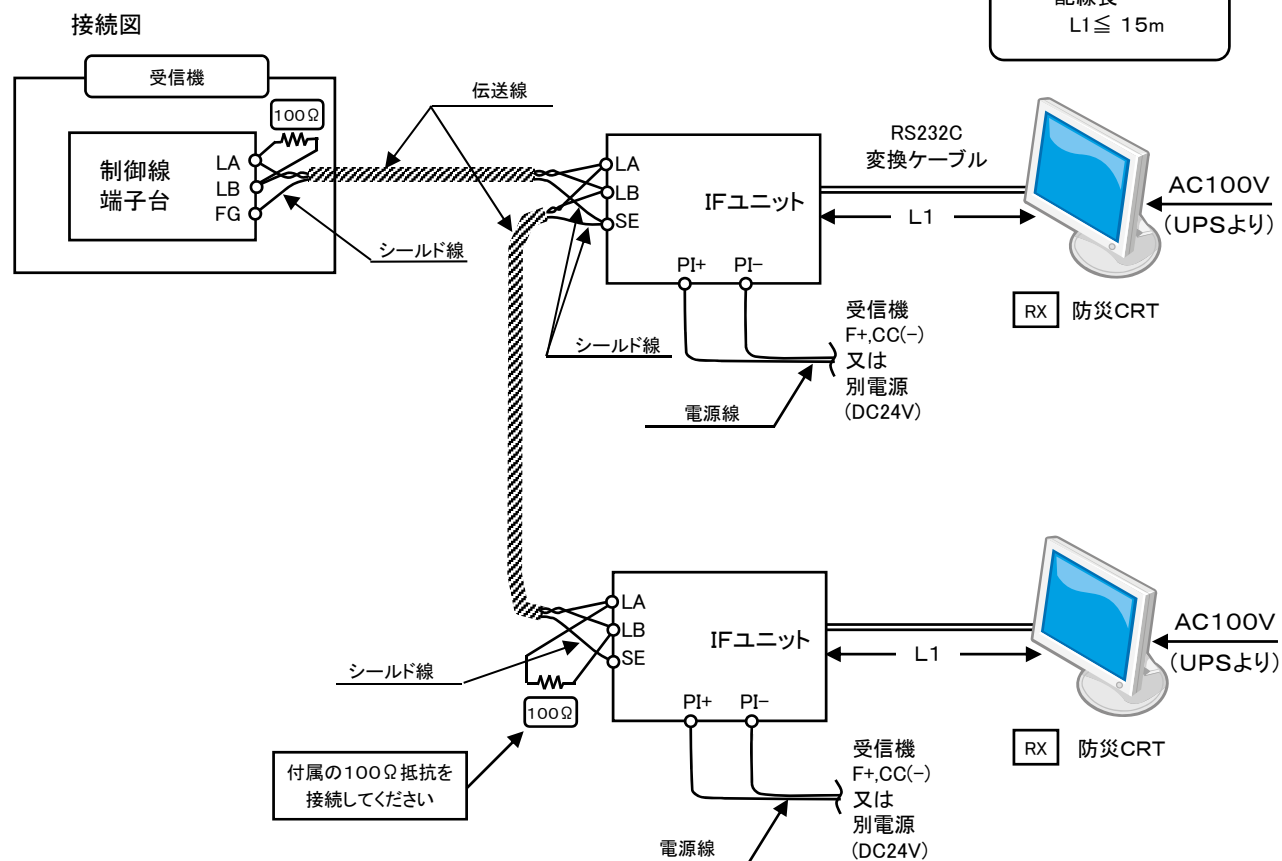
9. 受信機～周辺機器について

2) IFユニットを全て受信機外部に設置する場合

<線種および接続数>

- ・伝送線
耐熱ケーブル(ツイストペアシールド付) $\Phi 1.2-1pr\ 2C$
但し、列盤でかつ床下配線でない場合はHP線(シールド無)でも可
- ・電源線
電源用ケーブルまたはOP線
- ・最大接続台数
3台

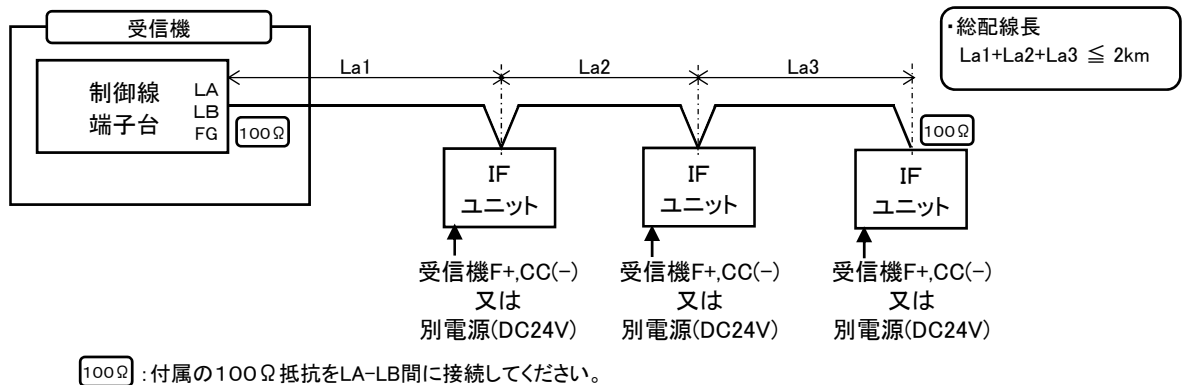
<配線方法>



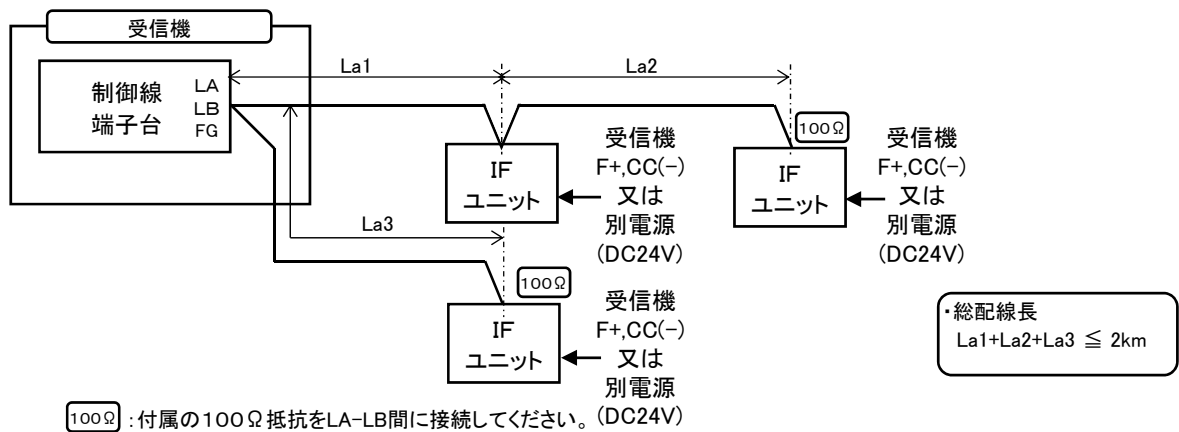
* ○は端子台を表します。

9. 受信機～周辺機器について

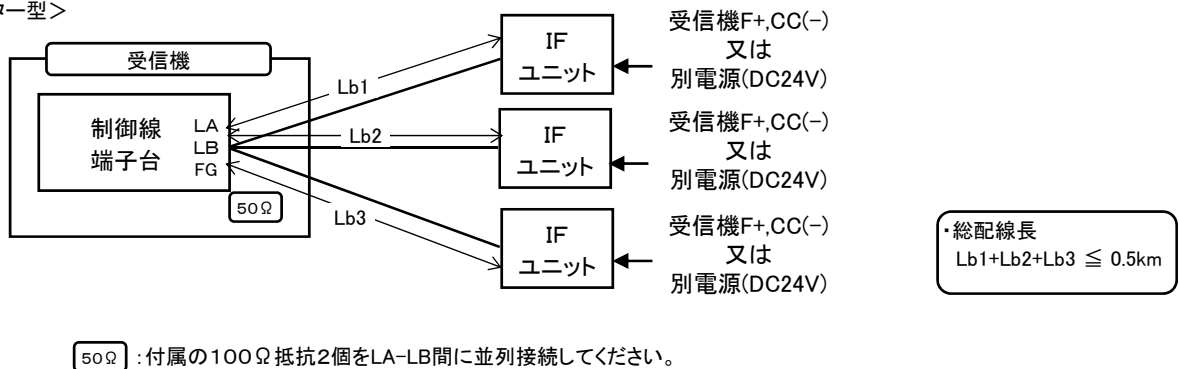
<a:バス型 1>



<b:バス型 2>



<c:スター型>

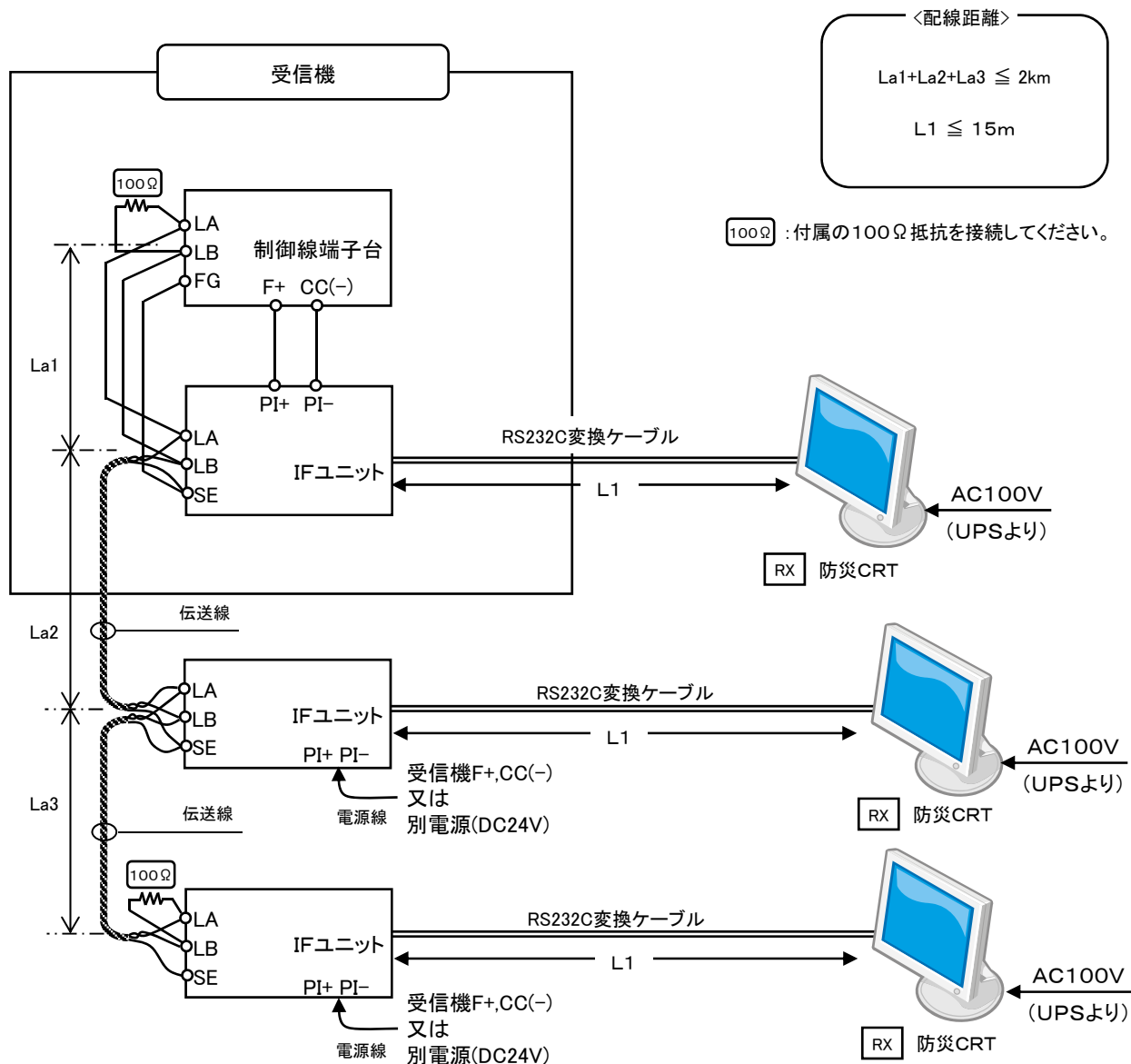


9. 受信機～周辺機器について

3) IFユニットを一部受信機外部に設置する場合

＜線種および接続数＞（受信機外は下記線を使用してください）

- ・伝送線
耐熱ケーブル（ツイストペアシールド付）Φ1.2-1pr 2C
但し、列盤でかつ床下配線でない場合はHP線（シールド無）でも可
- ・電源線
電源用ケーブルまたはOP線
- ・最大接続台数（受信機内+受信機外部）
3台



* ○は端子台を表します。

＜注意＞

外部制御F+・CC(-)の容量はDC27V 700mAです、IFユニット1台当たりの消費電流は約100mAになります。
他の用途にもF+・CC(-)を使用する場合はご注意ください。

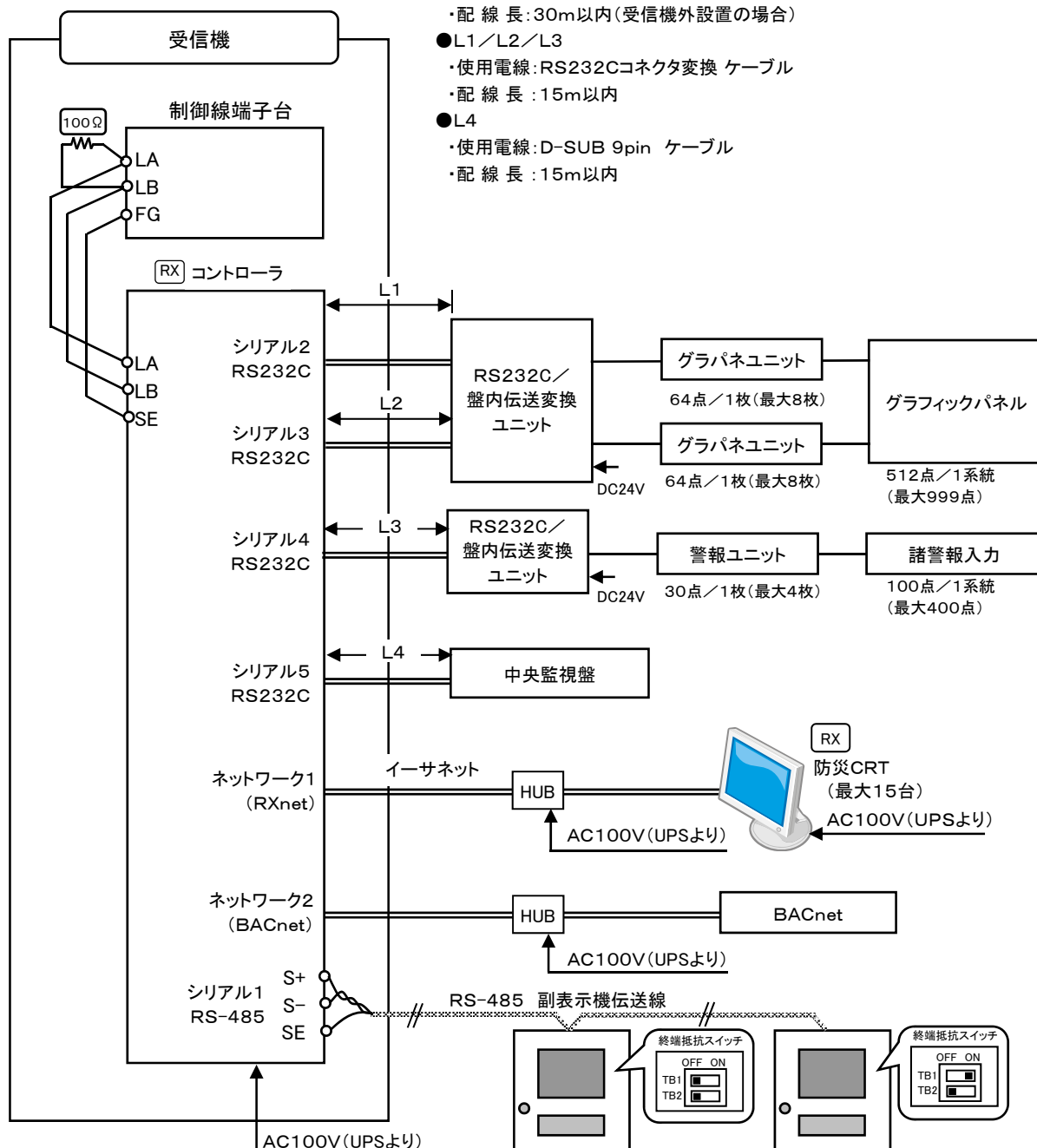
9. 受信機～周辺機器について

9-5. [RX] コントローラの接続について

9-5-1. 配線図

<線種および配線距離>

- 制御線端子台－[RX]コントローラ間
 - ・使用電線：耐熱ケーブル(ツイストペアシールド付) $\Phi 1.2-1pr\ 2C$
但し、受信機内に設置の場合はシールド無でも可
 - ・配線長：30m以内(受信機外設置の場合)
- L1/L2/L3
 - ・使用電線：RS232Cコネクタ変換 ケーブル
 - ・配線長：15m以内
- L4
 - ・使用電線：D-SUB 9pin ケーブル
 - ・配線長：15m以内



*○は端子台を表します。

[RX] コントローラが受信機内に収納されている場合を示しています。

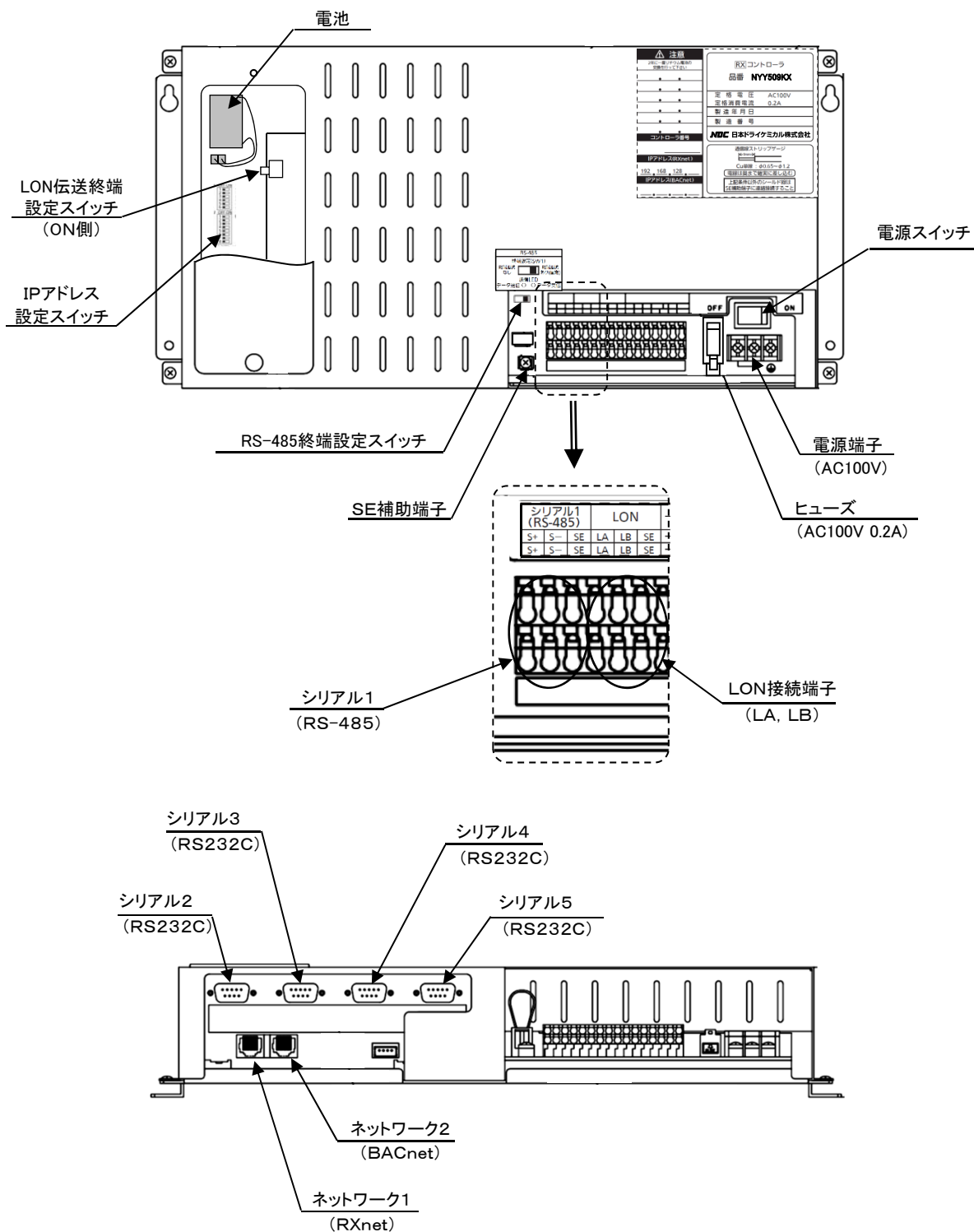
●副表示機接続台数

- ・双方向 31台/1系統(RS485直出力)
最大155台(RS232C/RS-485変換ユニット使用時)
- ・片方向 100台/1系統(RS485直出力)
最大500台(RS232C/RS-485変換ユニット使用時)

※ 副表示機の接続は「9-3. 副表示機の接続について」を参照してください。
電話線(T, TC)は受信機の伝送線端子台を使用してください。

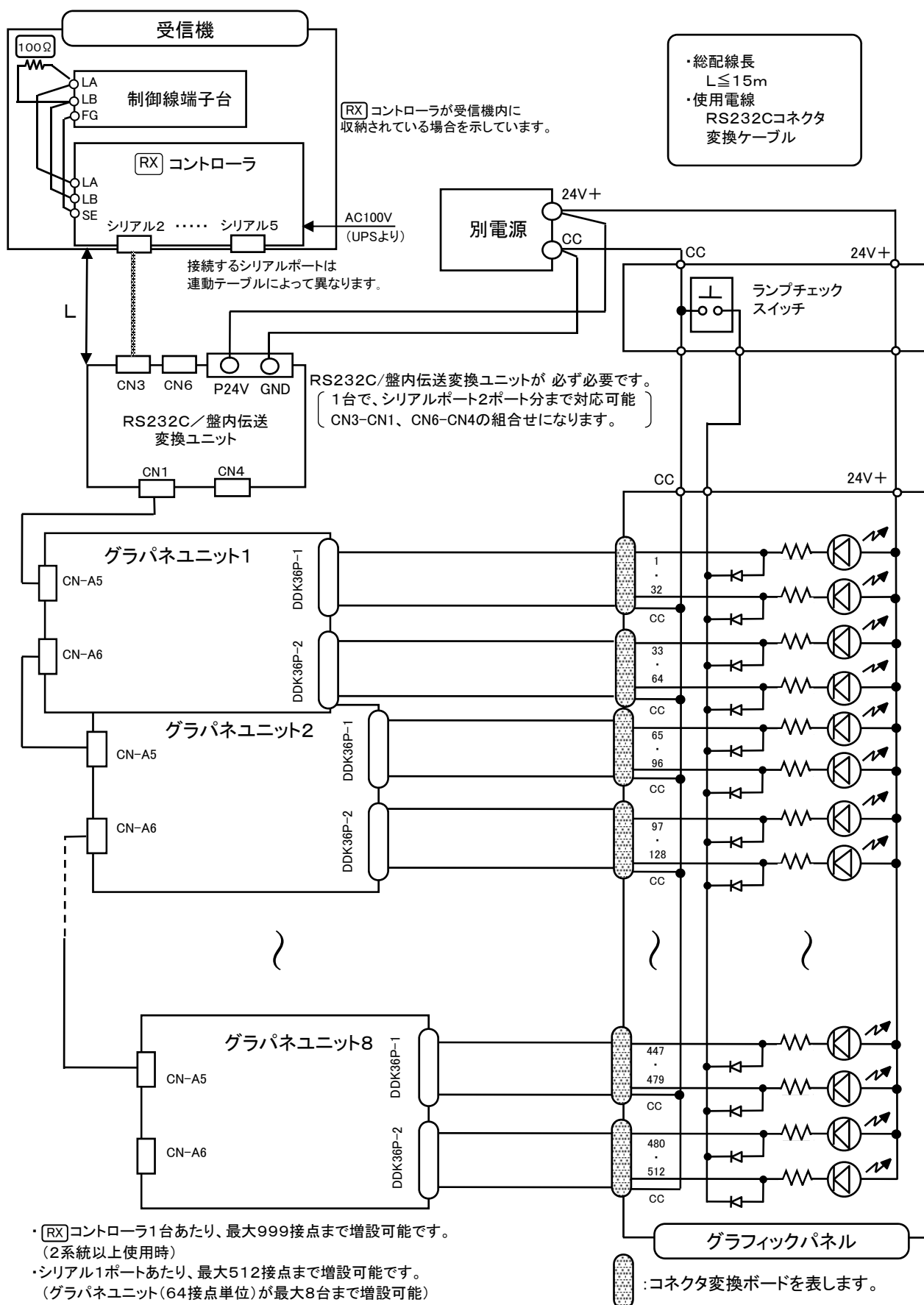
9. 受信機～周辺機器について

9-5-2. [RX] コントローラ配置図



9. 受信機～周辺機器について

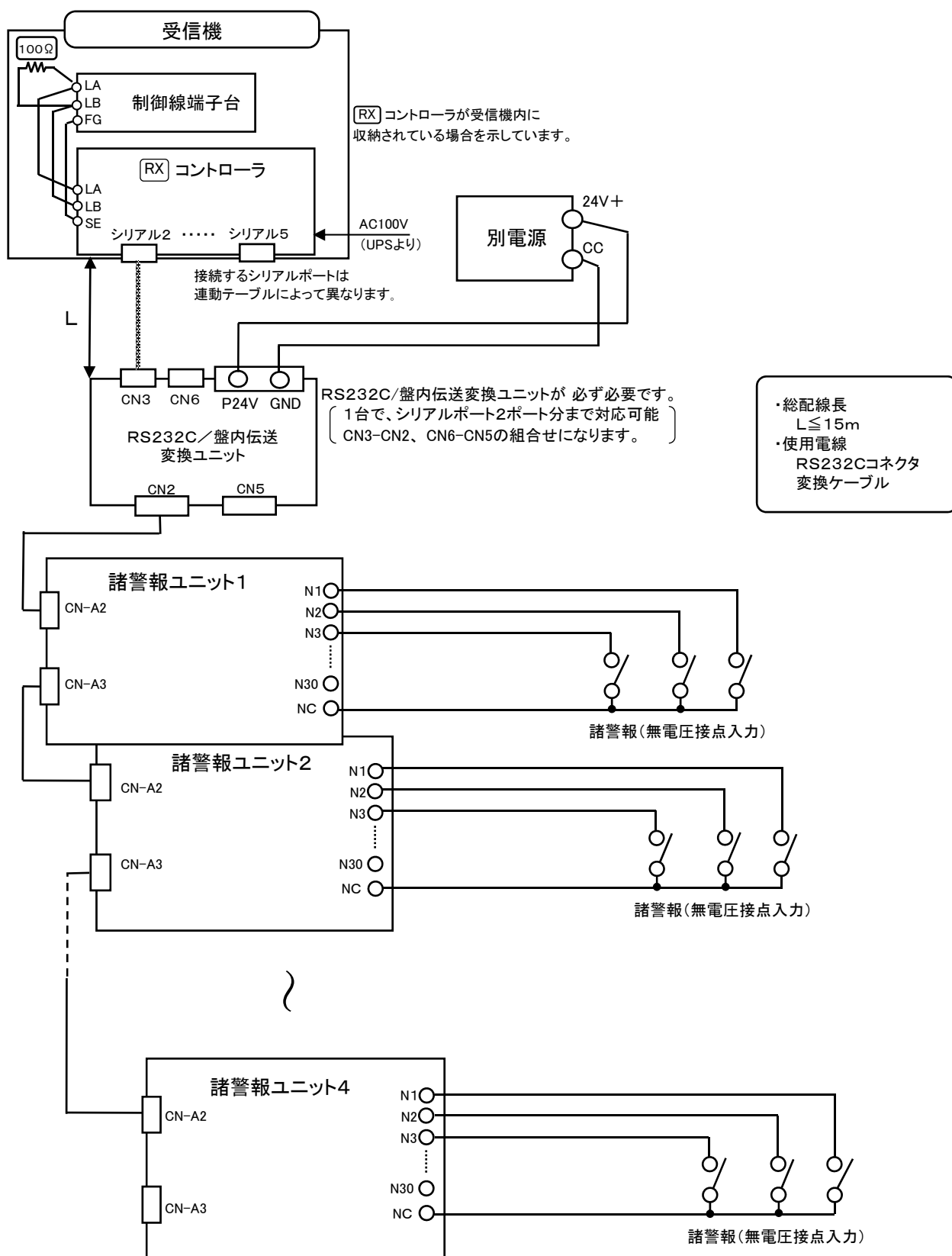
9-5-3. [RX]コントローラを使用してグラフィックパネルを接続



- ・[RX]コントローラ1台あたり、最大999接点まで増設可能です。
(2系統以上使用時)
- ・シリアル1ポートあたり、最大512接点まで増設可能です。
(グラパネユニット(64接点単位)が最大8台まで増設可能)

9. 受信機～周辺機器について

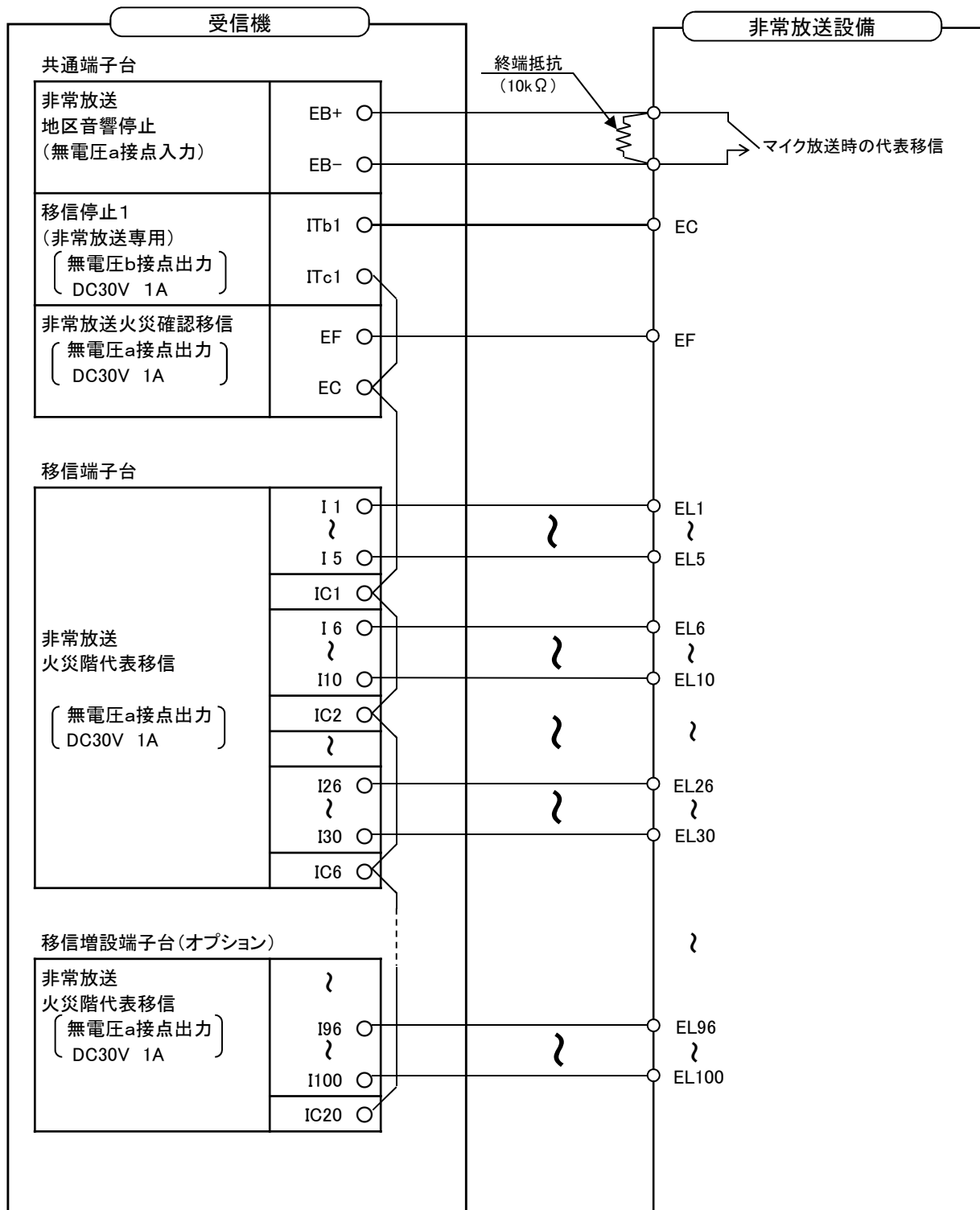
9-5-4. [RX]コントローラを使用して諸警報入力機器を接続



- ・[RX]コントローラ1台あたり、最大400入力まで増設可能です。
(4系統使用時)
- ・シリアル1ポートあたり、最大100入力まで増設可能です。
(諸警報ユニット(30入力単位)が最大4台まで増設可能)

10. 受信機～他設備について

10-1. 受信機～非常放送設備の接続について



* ○は端子台を表します。

- (注) ・受信機の「非常放送連動停止」が有効になる様に移信端子台のコモン(IC1～IC20)をITb1、ITc1を通して配線します。
- ・移信端子台の標準回線は、1・2系統:15回線、3～8系統:30回線です。
- 標準回線数以上は移信増設端子台(オプション)を使用してください。(最大100回線)
- ・移信出力内容は、受信機の連動テーブルの設定により決定されます。

10. 受信機～他設備について

10-2. 受信機～他設備の接続について (空調機制御盤、誘導付信号装置)

● 受信機端子台からの移信

共通端子台

火災代表移信 〔無電圧c接点出力〕 DC30V 1A	Fa1 ○ Fb1 ○ Fc1 ○
火災代表移信 〔無電圧c接点出力〕 DC30V 1A	Fa2 ○ Fb2 ○ Fc2 ○
火災代表移信 〔無電圧c接点出力〕 DC30V 1A	Fa3 ○ Fb3 ○ Fc3 ○
ガス漏れ代表移信 〔無電圧a接点出力〕 DC30V 1A	GFa ○ GFc ○
ガス故障代表移信 〔無電圧a接点出力〕 DC30V 1A	GTa ○ GTc ○
火災断定移信 〔無電圧c接点出力〕 DC30V 1A	KDa ○ KDb ○ KDC ○
故障代表移信 〔無電圧a接点出力〕 DC30V 1A	TFa ○ TFc ○

この端子からは、受信機連動テーブルの設定と無関係に代表出力します。

移信端子台

移信 〔無電圧a接点出力〕 DC30V 1A	I1 ○
	}
	I5 ○
	IC1 ○
	I6 ○
	}
	I10 ○
	IC2 ○
	}
	I26 ○
	}
	I30 ○
	IC6 ○

非常放送移信がない場合、この端子を移信用として使用できます。
出力内容は連動テーブルの設定によります。(コモンは5接点共通です)

・移信端子台の標準回線は、
1・2系統:15回線
3～8系統:30回線です。

* ○は端子台を表します。

10. 受信機～他設備について

【移信停止】

共通端子台

移信停止1 (非常放送専用) 〔 無電圧b接点出力 〕 〔 DC30V 1A 〕	ITb1 ○ ITc1 ○
移信停止2 〔 無電圧b接点出力 〕 〔 DC30V 1A 〕	ITb2 ○ ITc2 ○
移信停止3 〔 無電圧b接点出力 〕 〔 DC30V 1A 〕	ITb3 ○ ITc3 ○

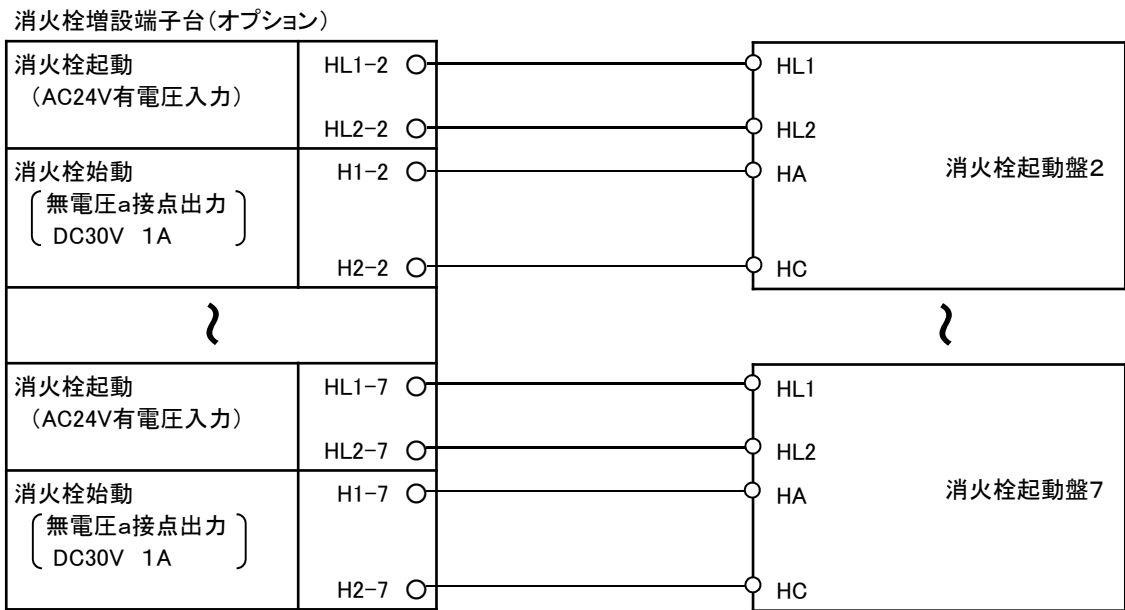
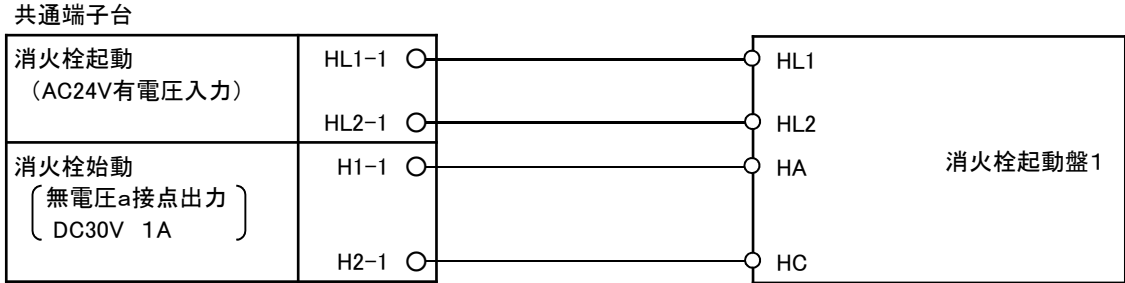
移信停止を有効にする為には、
設備用の移信コモンを移信停止
端子台を通して配線してください。

* ○は端子台を表します。

10. 受信機～他設備について

10-3. 受信機～消火栓起動盤の接続について

● 受信機端子台からの移信



* ○は端子台を表します。

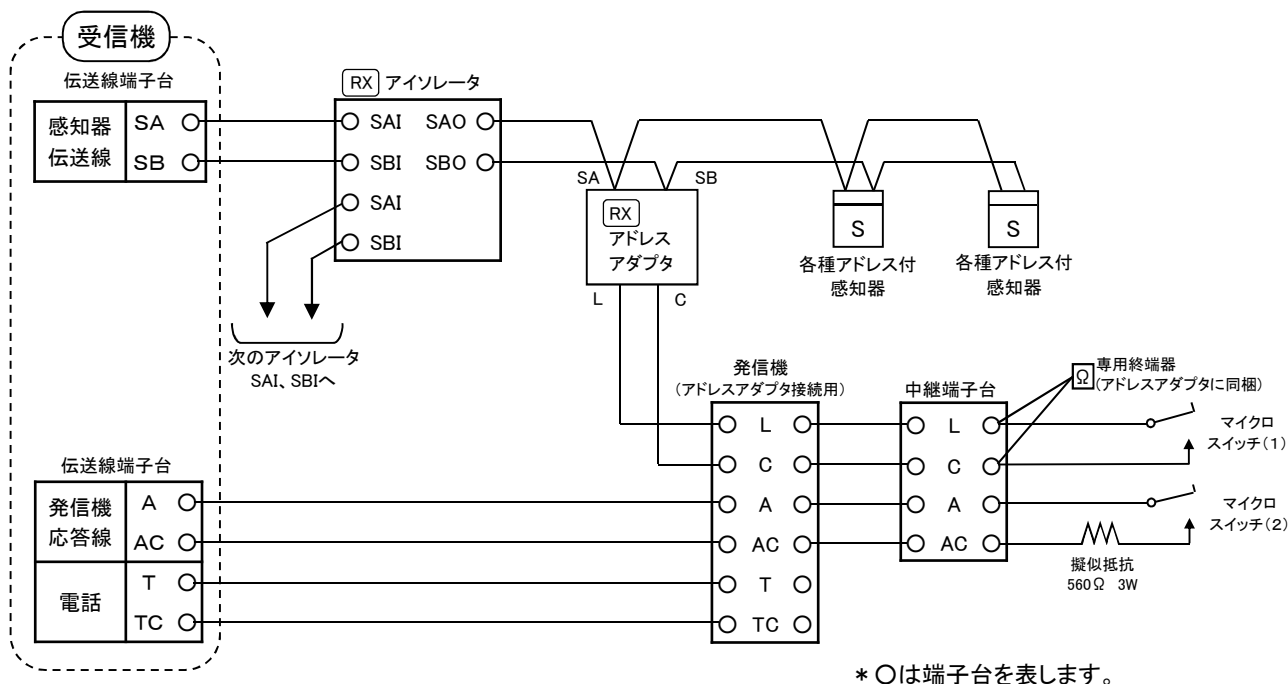
標準系統数(1系統)以上は消火栓増設端子台(オプション)を使用してください。(最大13系統)

10. 受信機～他設備について

10-4. 2号消火栓の接続について

受信機に、2号消火栓のフックスイッチ(マイクロスイッチ)を入力し連動させる場合は、アドレスアダプタの2次側に下記の様に接続してください。

中継端子台は消火栓BOX、中継器盤等に取り付けてください。



1. マイクロスイッチは2接点必要です。(L-C間、A-AC間)
2. 擬似抵抗は 560Ω 3W のものをご使用ください。
3. L-Cラインの終端には、アドレスアダプタに同梱の終端器を接続してください。
4. 伝送線(感知器伝送線、中継器伝送線)と電話線を同一シース線に混在させないでください。
5. 一般発信機応答線接続は「7-3. 発信機応答線接続時の注意事項について」を参照してください。

11. 施工後の確認方法

● トラブルが発生している場合、トラブル内容の確認・処置をしてください。

1. トラブル確認・処置 取扱説明書「3-6. トラブル発生時の動作」を参照してください。
「6. 異常時の点検・処置」を参照してください。
施工説明書「12. トラブル一覧」を参照してください。

● 受信機は、下記の試験をしてください。

1. 火災試験 取扱説明書「9-2. 操作画面 試験・制御 火災試験」を参照してください。
2. ガス漏れ試験 取扱説明書「9-2. 操作画面 試験・制御 ガス漏れ試験」を参照してください。
3. 一斉試験 取扱説明書「8-7. 操作画面 基本操作 一斉試験」を参照してください。
4. 予備電源試験 取扱説明書「9-2. 操作画面 試験・制御 予備電源試験」を参照してください。
5. 防排煙個別制御 取扱説明書「9-2. 操作画面 試験・制御 個別制御」を参照してください。
6. 移信個別制御 取扱説明書「9-2. 操作画面 試験・制御 個別制御」を参照してください。
7. 消火栓個別制御 取扱説明書「9-2. 操作画面 試験・制御 個別制御」を参照してください。

● 受信機は、下記の時刻を設定してください。

1. 現在時刻 取扱説明書「8-1. 管理者画面 時刻設定」を参照してください。
2. 自動試験時刻 取扱説明書「8-1. 管理者画面 時刻設定」を参照してください。

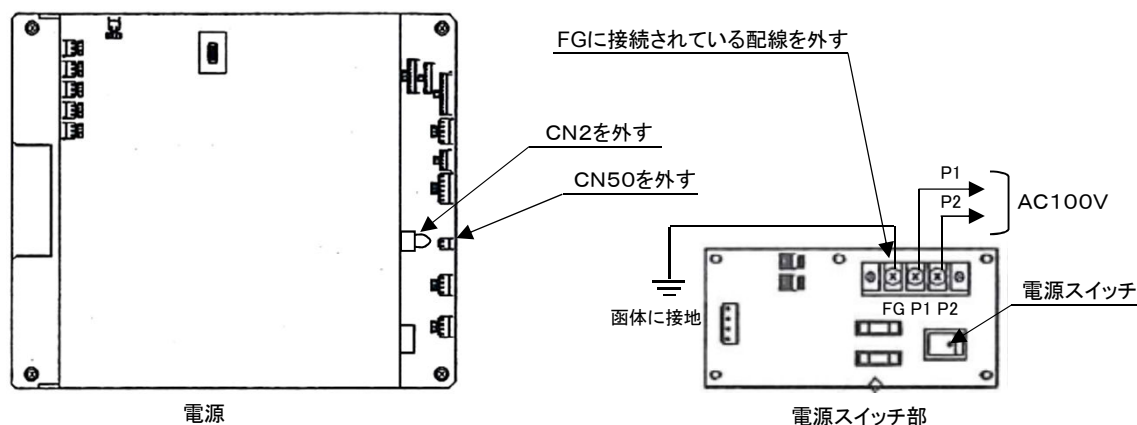
● 接続した感知器は下記動作試験をしてください。

詳細は、各試験器に付属の取扱説明書を参照してください。

1. 熱感知器（差動式・定温式スポット型）の場合は、加熱試験器で加熱試験をしてください。
2. 煙感知器（光電式スポット型）の場合は、加煙試験器で加煙試験をしてください。
3. 煙感知器（光電式分離型）の場合は、感度試験フィルターで動作試験をしてください。
4. 受信機側で火災発報して感知器の読み換え番号、メッセージ、感知器種別等が正しいか確認してください。（火災発報時のプリンタ印字で確認できます）

● 絶縁耐圧試験、絶縁抵抗試験をする場合

- (注) ・外部配線相互間の絶縁試験を行う場合は、感知器、終端抵抗、受信機の外部配線を外してから行ってください。
・受信機の絶縁耐圧試験を行う場合は、非常放送設備への配線を外してから行ってください。
・受信機の絶縁耐圧試験を行う場合は、電源のコネクタ(CN2,CN50)および100V入力部のFG線を外してから試験を行ってください。



12. トラブル一覧

- ・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
(トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。)

トラブルの種類	トラブルの内容	確認・処置方法
交流電源断	●交流電源が供給されていません。 1. 交流電源スイッチが“切”側である。 2. 停電が発生している。 3. 交流電源スイッチ部のヒューズ[*] (AF1、AF2) が切れている。	1. 交流電源スイッチを“入”側にしてください。 2. 交流電源の入力を確認してください。 3. ヒューズ[*] (AF1、AF2) を交換してください。
主回路電圧異常	●電源の主回路電圧が異常です。 1. 予備電源動作で予備電源の電圧が低下している。 2. 電源の出力が低下している。	1. 交流電源を供給し、予備電源を充電してください。 2. 電源ユニットを交換してください。
受信機動作不能 (LED全点灯状態)	●受信機の主回路電圧が約17V以下になっている。 (交流電源断時に予備電源が長時間放電した際、発生することがあります。)	交流電源を供給し、予備電源を充電してください。 ※主回路電圧異常が復旧(予備電源電圧が約20.4V以上になる)するまでトラブル状態を保持します。
予備電源異常	●予備電源の異常が発生している。 1. 予備電源の接続コネクタが外れている。 2. 電源ユニットのヒューズ[*] (AF3～AF7) が切れている。	1. 予備電源の接続コネクタを確認してください。 2. 電源ユニットのヒューズ[*] (AF3～AF7) を交換してください。
電源FAN異常	●電源ユニット内の電源FANに異常が発生している。 1. 電源FANが障害物により回転を妨げられている。 2. 電源FANが故障している。	1. 障害物を取り除き一斉試験を実施してください。 2. 電源ユニットを交換してください。 ※一斉試験、自動試験時の電池試験で試験良となるまでトラブル状態を保持します。
予備電源試験不良	●予備電源試験で試験不良になった。 1. 予備電源の接続コネクタが外れている。 2. 予備電源の電圧が低下している。	1. 予備電源の接続コネクタを確認してください。 2. 十分に充電したのち再度不良の場合は、予備電源を交換してください。 ※一斉試験、予備電源試験、自動試験時に試験良となるまでトラブル状態を保持します。
ヒューズ [*] 断線	●受信機のヒューズ[*] (F1～F7) が切れている。	・制御線ユニットのヒューズ[*] (F1～F6) を確認してください。 ・伝送線ユニットのヒューズ[*] (F7) を確認してください。 ・切れたヒューズ[*] を交換してください。
非常放送配線断	●非常放送～受信機間の配線が異常です。 1. 非常放送配線が断線している。 2. 非常放送設備配線の終端抵抗が外れている。	1. EB+、EB-の配線を確認してください。 2. 非常放送設備配線の終端抵抗を確認してください。
プリント異常	●プリントの異常が発生しています。 1. プリント用紙が紙切れしている。 2. プリントとの交信が不能である。 3. プリントが故障している。	1. プリント用紙を交換してください。 2. 受信機～プリント間ケーブルを確認してください。 3. プリントを交換してください。

12. トラブル一覧

- ・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
(トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。)

トラブルの種類	トラブルの内容	確認・処置方法
受信機UT異常	●受信機内部UT (※1) との交信が不能となっている。 1. 受信機内部UT間の配線に異常が発生している。 2. 受信機内部UTに異常が発生している。	1. 受信機内部UT間のケーブルの接続を確認してください。 2. 電源を再投入しても、動作しない場合、受信機内部UTを交換してください。
受信機UT余分	●登録外の受信機内部UT (※1) が接続されている。 1. アドレス設定が間違っている。 2. 連動ケーブルの登録が間違っている。 3. 受信機内部UTが余分に接続されている。	1. アドレスを確認してください。 2. 連動ケーブルを確認してください。 3. 余分な受信機内部UTを取り外してください。 ※トラブル状態は電源の再投入まで保持します。
外部電源異常	●外部電源(※2)の異常が発生している。	・外部電源の交流電源の電圧を確認してください。 ・外部電源の交流電源スイッチを入れてください。 ・上記以外の場合は、外部電源を交換してください。
外部ヒューズ断	●外部電源(※2)のヒューズが切れています。	・外部電源内のヒューズを確認してください。 ・切れたヒューズを交換してください。
外部電源試験不良	●外部電源(※2)の試験が不良になった。 1. 外部電源の予備電源が外れています。 2. 外部電源の予備電源電圧が低下しています。	1. 予備電源の接続コネクタを確認してください。 2. 十分に充電したのち再度不良の場合は、予備電源を交換してください。 ※一斉試験、予備電源試験、自動試験の試験良までトラブル状態を保持します。
メモリ異常	●受信機の内部メモリに異常が発生している。	プリンタで印字された該当ユニットを交換してください。 ※トラブル状態は電源の再投入まで保持します。
伝送CPU異常	●端末メインユニット又は端末サブユニットの伝送CPUとの交信が不能となっている。	プリンタで印字された該当ユニットを交換してください。 ※トラブル状態は電源の再投入まで保持します。
伝送線短絡	●受信機とRX感知器、RX中継器 (※3) 間の伝送部が短絡している。 1. 伝送線が短絡している。 2. アイソレータとRX感知器間が短絡している。 3. RX感知器が短絡モードで故障している。	1. 受信機とRX感知器、RX中継器間の配線を確認してください。 2. アイソレータとRX感知器間の配線を確認してください。 3. RX感知器を交換してください。 ※アイソレータの伝送線短絡は、配線の短絡復旧後、アイソレータ2次側接続操作を行うまで保持します。
伝送不良	●RX感知器、RX発信機、RX中継器 (※3) との交信が不能となっている。 1. アドレス設定が間違っている。 2. RX感知器、RX発信機、RX中継器間の配線が断線している。 3. 伝送線が短絡している。	1. アドレス設定を確認してください。 2. 配線を確認してください。 (RX感知器、RX発信機、RX中継器が接続されているかを確認してください。) 3. 受信機とRX感知器、RX発信機、RX中継器間の配線を確認してください。
伝送不良 (余分)	●登録外のRX感知器、RX発信機、RX中継器 (※3) が接続されている。 1. アドレス設定が間違っている。 2. 連動ケーブルの登録が間違っている。 3. RX感知器、RX発信機、RX中継器が余分に接続されている。	1. アドレス設定を確認してください。 2. 連動ケーブルを確認してください。 3. 余分なRX感知器、RX発信機、RX中継器を取り外してください。 ※中継器伝送線の129アドレス以降のRX中継器の余分接続は電源を再投入するまでトラブル状態を保持します。

※1：受信機内部UTとは、共通ユニット・移信ユニット・その他オプションユニットになります。

※2：外部電源とはオプションの防災用直流電源装置等になります。

※3：RX中継器にはP型自動試験中継器を含みます。

12. トラブル一覧

- ・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
(トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。)

トラブルの種類	トラブルの内容	確認・処置方法
伝送不良 (予約) (※4)	●PX端末またはRX感知器(予約登録種別)との通信が不能である。 1. 意図した動作の場合: 不要なPX端末またはRX感知器の取り外しができる。 2. 意図しない動作の場合: 感知器配線が断線している等が考えられます。	1. 意図した動作の場合: 受信機で予約登録削除操作をしてください。 (取扱説明書を参照) 2. 意図しない動作の場合: 感知器の配線、7ドリス等を確認してください。
余分接続 (予約)	●PX端末またはRX感知器(予約登録種別)を接続した。 1. 意図した動作の場合: 必要なPX端末またはRX感知器が接続できた。 2. 意図しない動作の場合: PX端末またはRX感知器の7ドリス設定が間違っている等が考えられます。 ●P型自動試験中継器が接続されている。 3. 7ドリス設定が間違っている等が考えられます。	1. 意図した動作の場合: 受信機で予約登録操作をしてください。 (取扱説明書を参照) 2. 意図しない動作の場合: PX端末またはRX感知器の7ドリス設定が間違っていないか、確認してください。 3. P型自動試験中継器は予約登録種別にはできません。7ドリス設定が間違っていないか、確認してください。
感知器誤設定	●AD1～AD30以外のPX端末が誤接続されている。	該当の感知器回線のPX端末7ドリスを確認してください。
感知器異常 (※5)	●RX感知器、PX感知器の異常が発生している。	感知器を交換してください。
種別異常 (※5) (※6) (※7)	●TG登録と異なる種別のRX感知器、RX発信機、7ドリスアダプタ、P型自動試験中継器が接続されている。 1. 7ドリス設定が間違っている。 2. 連動テーブルの登録が間違っている。 3. 異なる種別の感知器が接続されている。	1. 7ドリスを確認してください。 2. 連動テーブルを確認してください。 3. 正しい感知器を取りつけてください。 ※トラブル状態復旧後、復旧スイッチを押すまでトラブル状態を保持します。
感知器汚れ3 (※5)	●RX感知器、PX感知器がホコリ等で汚れ、非火災報が発生しやすい状態になっている。	感知器を清掃または交換してください。
2次側配線断 (※5)	●一般感知器回線が断線している。 1. 7ドリスアダプタ、P型自動試験中継器または一般R型中継器2次側の一般感知器回線が断線している。 2. 終端器、終端抵抗が外れている。	1. 一般感知器回線の配線を確認してください。 2. 終端器、終端抵抗を確認してください。
火災試験不良 (※5)	●火災試験の結果が不良になっている。 1. 感知器が伝送不良状態になっている。 2. 感知器が故障している。 3. 感知器が汚れ3の状態になっている。 4. 光電式分離型感知器が分離トラブル状態になっている。	1. 感知器を確認してください。 2. 感知器を交換してください。 3. 感知器を清掃または交換してください。 4. 光軸調整等をしてください。 ※交換後に再度火災試験を行ってください。

※4：PX端末との通信が行えない状態（L-C間短絡等）でP型自動試験中継器を起動させた場合、伝送不良（予約）トラブルを検出する事が有ります。

※5：伝送不良発生時には、その端末からの個別のトラブル信号も途絶えるため伝送不良以外の個別のトラブルは表示しなくなります。

※6：種別異常のトラブルが復旧した後に正しい感知器を接続してください。
(誤って接続した感知器を外して伝送不良を発生させた後、復旧スイッチを押すと種別異常のトラブルが復旧します。)
尚、PX端末については種別情報を検出しません。

※7：連動テーブルに7ドリス感知器が登録されている7ドリスに、誤って、7ドリスアダプタ、P型自動試験中継器、7ドリス発信機、7ドリス等誤接続した場合、受信機が火災を誤検出する場合があります。

12. トラブル一覧

- ・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
(トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。)

トラブルの種類	トラブルの内容	確認・処置方法
制御線異常 (※5)	●RX中継器(※3)への監視電源(F+, DA+)が供給されていない。 1. 受信機～RX中継器間の配線が断線している。 2. 制御線ユニットのヒューズ(F2, F3)が切れている。	1. 制御線の配線を確認してください。 2. 制御線ユニットのヒューズ(F2, F3)を確認してください。
ガス検知器故障 (※5)	●ガス検知器の異常が発生している。 1. ガス検知器電源が供給されていない。 2. ガス検知器が接続されていない。 3. ガス検知器が故障している。	1. ガス検知器電源および配線を確認してください。 2. ガス検知器の接続を確認してください。 3. ガス検知器を交換してください。
ガス漏れ試験不良 (※5)	●ガス漏れ試験が不良になっている。 1. ガス検知器が故障している。 2. ガス漏れ中継器が不良状態になっている。	1. ガス検知器を交換してください。 2. ガス漏れ中継器を確認してください。 ※交換後に再度ガス漏れ試験を行ってください。
地区音響線断線 (※5)	●地区音響線が断線している。 1. 地区音響中継器～地区ベル間が断線している。 2. 音響装置用終端器が外れている。 3. 地区音響制御出力電圧が低下している。	1. 地区音響中継器～地区ベル間の配線を確認してください。 2. 終端器を確認してください。 3. 地区音響出力電圧(B+)を確認してください。
地区音響線短絡 (※5)	●地区音響線が短絡している。 1. 地区音響中継器～地区ベル間が短絡している。 2. 地区音響中継器が故障している。	1. 地区音響中継器～地区ベル間の配線を確認してください。 2. 地区音響中継器を交換してください。
伝送不良(返信)	●RX感知器、RX発信器、RX中継器(※3)の返信信号が異常状態になっている。 1. アドレスが重複している。 2. 配線が地絡している。	1. アドレスを確認してください。 2. 感知器伝送線を確認してください。 ※トラブル状態復旧後、復旧スイッチを押すまでトラブル状態を保持します。
伝送不良(割込) (※5)	●RX感知器、RX発信機、RX中継器(※3)の異常が発生している。	RX感知器、RX発信機、RX中継器を交換してください。 作動が検知できない恐れがあります。
周辺機器異常	●周辺機器との交信が不能である。 1. 副表示機、防災CRT等と交信が不能である。 2. 受信機～IFユニット間またはRXコントローラ間の配線が断線している。	1. 副表示機、防災CRT等を確認してください。 2. 受信機～IFユニット間または、RXコントローラ間の配線を確認してください。
テーブル不一致	●伝送ユニット(火災、端末)のテーブル内容が受信機テーブルと一致しない。	連動テーブルの転送にてテーブル内容を一致させてください。
分離トラブル	●光電式分離型感知器の異常が発生している。 1. 光軸がずれている。 2. 光電式分離型感知器が故障している。	1. 光軸調整をしてください。 2. 光電式分離型感知器を交換してください。

※3: RX中継器にはP型自動試験中継器を含みます。

※5: 伝送不良発生時には、その端末からの個別のトラブル信号も途絶えるため伝送不良以外の個別のトラブルは表示なくなります。

12. トラブル一覧

- ・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
（トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。）

トラブルの種類	トラブルの内容	確認・処置方法
ユニット異常	●伝送ユニット（火災、端末）との通信が不能である。 1. 受信機内の配線が断線している。 2. 1908AD以上の受信機（2面体）において、受信機2面目が動作していない。 3. 該当ユニットが故障している。	1. 受信機内の配線を確認してください。 2. 受信機2面目の電源投入状態を確認してください。 3. 故障したユニットを交換してください。
処理盤動作不能	●1908AD以上の受信機（2面体）において、受信機2面目の主回路電圧が約17V以下になっています。 （交流電源断時に予備電源が長時間放電した際、発生することがあります。）	受信機2面目に交流電源を供給し、予備電源を充電してください。 ※主回路電圧異常が復旧（予備電源電圧が20.4V以上になる）するまでトラブル状態を保持します。
伝送路A異常	●受信機内の配線が断線・短絡している。	受信機内の配線を確認してください。
諸警報作動	●設定データで登録した外部機器が故障信号を送信しています。	該当機器の確認をお願いします。
LON CPU異常	●受信機内の基幹伝送（LON伝送）が異常になっている。 1. 受信機内の配線にノイズがのっている。 2. 通信用CPU（LON CPU）が故障している。	1. 受信機内の配線を確認してください。 2. 該当のLON CPUが搭載されたユニットを交換してください。

[illegible]

